JAAF
Japan Association of Athletics Federations

2024年度
全国競技運営責任者会議

報告書

日程：2025年2月15日（土）
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター
（オンライン会議併催）

公益財団法人日本陸上競技連盟　競技運営委員会

ファイル番号一覧

会議資料ファイルは日程順に1から番号付与してあり、事前配信した資料には枝番0が付いています。
なお、資料の配信がない項目については、欠番になっています。

ファイル番号	題 名
0	表 紙
0-1	資料ファイルの番号
0-2	日 程
0-3	参加者名簿
0-4	審判員数
0-5	議事録
1-0	2025年度競技規則修改正提案
1-1	2025年度競技規則修改正のポイント
1-2	WAシューズチェック・ガイドライン①②
1-3	靴規程運用の補足
2	施設用器具委員会報告
4-0	ブロンズレフェリーについて(資料)
4-1	ブロンズレフェリーについて(スライド)
5-0	スタートについて①
5-1	スタートについて②
6-0	アナウンス内容についての確認
6-1	アナウンス内容についての確認(スライド)
分科会1	
7	競技会公認申請
8	記録公認申請・日本記録
9	上位大会出場決定の方法について 公認記録申請先の変更について
10	記録用紙改訂
11	広告展示物規則PT
分科会2	
12-0	S級審判昇格審査報告
12-1	S級審判昇格審査報告 (スライド)
13	審判ハンドブックPT
14-0	審判育成・研修PT (現状の審判員制度について)
14-1	審判育成・研修PT (審判員制度の変更に向けて・スライド)
15-0	2024年度JTO活動報告
15-1	2024年度JTO活動報告 (スライド)
競技会報告	
16-1①	海外競技会報告 (ITOセミナー)
16-1②	海外競技会報告 (アジアU20)
16-3	第108回日本陸上競技選手権大会 第40回U20日本陸上競技選手権大会 (新潟)□
16-4	第108回日本陸上競技選手権大会・混成競技 第40回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技 (岐阜)
16-5	第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 (福岡)
16-6	第51回全日本中学校陸上競技選手権大会 (福井)
16-7	SAGA2024国民スポーツ大会 (佐賀)
16-8	第18回U18／第55回U16 陸上競技大会 (三重)
事務局より	
18	審判員のコンプライアンス研修について
19	安心・安全imformation

2024（令和 6）年度　全国競技運営責任者会議　日程

2025 年 2 月 15 日（土）　於：味の素ナショナルトレーニングセンター

12:30　受付・オンライン開始

13:00　あいさつ（5 分）　田﨑専務理事

13:05　事務連絡（5 分）　羽田幹事

13:10　2025 年度競技規則修改正提案（40 分）　片岡裕委員

13:50　質疑応答（10 分）

14:00　施設用器具委員会報告（10 分）　高木委員長

14:10　WRk 大会について（10 分）　事務局

14:20　ブロンズレフェリーについて（10 分）　青柳幹事

14:30　スタートについて（15 分）　関委員

14:45　アナウンスについて（10 分）　片岡典幹事

14:55　質疑応答（10 分）

15:05　休　憩（15 分）

15:20　分科会（30 分）

分科会 1	分科会 2
①競技カレンダー・記録 PT 競技会公認申請　(鍋島委員) 記録公認申請・日本記録　(村上委員) 上位大会出場決定の方法について 公認記録申請先の変更について　(岩脇委員) 記録用紙改訂　(資料参照) ②広告展示物規則 PT　(田中委員)	①　S 級審判昇格審査報告　（青柳幹事） ②　審判ハンドブック PT　（関委員） ③　審判育成・研修 PT　（赤峰委員） ④　2024 年度 JTO 活動報告　（青柳幹事）

15:50　休憩（10 分）

16:00　分科会報告（5 分）　関根・本橋両副委員長

16:05　質疑応答（5 分）

16:10　競技会報告（30 分）

海外競技会報告　関根副委員長

国内競技会実施報告

① 第 108 回日本陸上競技選手権大会
　第 40 回 U20 日本陸上競技選手権大会　新潟

② 第 108 回日本陸上競技選手権大会・混成競技
　第 40 回 U20 日本陸上競技選手権大会・混成競技　岐阜

③ 第 77 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会　福岡

④ 第 51 回全日本中学校陸上競技選手権大会　福井

⑤ SAGA2024 国民スポーツ大会　佐賀

⑥ 第 18 回 U18／第 55 回 U16 陸上競技大会　三重

16:40　質疑応答(5 分)

16:45　2025 年 世界陸上について（5 分）　鈴木委員長

16:50　審判員のコンプライアンス研修について（5 分）　事務局

16:55　あいさつ・事務連絡（5 分）　鈴木委員長・羽田幹事

17:00　閉会

2024年度全国競技運営責任者会議参加者

所属	出席者（分科会1）	役職名	参加方法	出席者（分科会2）	役職名	参加方法
北海道	伊藤　睦美	副会長	オンライン	玉井　康夫	審判委員長	会場
青森	工藤　勝顯	競技部長	会場	小野　武則	審判部長	会場
岩手	小野寺　文朗	競技部長	オンライン	箱石　文夫	審判部長	オンライン
宮城	藤島　秀一	競技委員長	会場	鹿又　政信	審判委員長	会場
秋田	櫻田　文人	競技委員長	会場	髙橋　和夫	審判委員長	オンライン
山形	庄司　隆志	競技副委員長	会場			
	池田　正敏	競技副委員長	オンライン			
福島	山下　訓史	競技委員長	オンライン	武田　正志	審判委員長	会場
茨城	高畠　香	競技委員長	会場	稲田　正人	審判委員長	会場
栃木	海老名　貴之	競技運営委員長	会場	小針　敏明	審判委員長	オンライン
群馬	田中　恵一	競技運営委員長	会場	荻野　歩	審判部長	オンライン
埼玉	清水　亙	競技委員長	オンライン	今井　亮	審判委員長	オンライン
千葉	伊藤信夫	競技運営委員長	オンライン	鈴木小枝子	審判部長	オンライン
東京	東出　英樹	競技部部長	会場	石井　公一	審判部部長	会場
神奈川	山崎　正俊	競技運営委員会副委員長	会場	中野　賢一	審判部長	会場
新潟	鈴木 圭輔	競技部長	オンライン	青木 祐一	審判部長	オンライン
富山	佐々木　貴義	競技部長	会場	杉木　一文	審判部長	オンライン
石川	南　隆行	競技部長	会場	川嶋　聡	審判部長	オンライン
福井	平木　寿治	審判委員長	会場	南部　諭史	競技委員長	オンライン
山梨	三枝幸雄	競技運営委員長	会場	笹本忠彦	審判副委員長	オンライン
長野	細田　和生	競技部長	会場	小林　幸太郎	審判部長	会場
岐阜	山下和行	記録情報委員長	会場	国島智也	審判委員	オンライン
静岡	永田　勝久	競技委員会委員長	オンライン	井出幸夫	審判委員会委員長	オンライン
愛知	安田　純久	競技委員長	オンライン	伊藤　明久	審判委員長	オンライン
三重	藤原　康喬	競技委員長	会場	福井　竜一郎	審判委員長	オンライン
滋賀	藤田武志	競技委員長	会場	高田　毅	審判委員長	会場
京都	福田晴也	競技部長	オンライン	長屋敏弘	審判部長	会場
大阪	室井　愉志	競技部理事	会場	山口　忠広	審判部長（理事）	会場
兵庫	秋山　秀文	競技委員長	オンライン	松岡　誠一郎	審判委員長	オンライン
奈良	松井　紀之	競技部長	会場	安達　昌広	審判部長	オンライン
和歌山	山下　育作	競技部長	会場	市川　貴英	審判部長	会場
鳥取	美多賀鼻　孝裕	競技部長	会場	青木　茂	審判部長	オンライン
島根	辻本　健彦	競技部長	会場	赤木　正英	競技運営委員長	オンライン
岡山	堀川　正徳	協議運営委員長	オンライン	服部　功	審判委員長	オンライン
広島	堀江　一成	競技部長	会場	新宅　昭二	競技運営委員長	会場
山口	烏田　修二	競技運営副委員長	オンライン	水谷　哲也	競技運営副委員長	会場
徳島	近藤　清司	競技運営委員長	オンライン	福見　秀樹	跳躍審判長	オンライン
香川	関　正英	競技部長	会場	山本　雅典	審判部長	オンライン
愛媛	中村　優哉	競技副委員長	会場	大塚　泰史	競技委員長	会場
高知	三谷　裕之	競技委員長	会場	松本　広一	審判委員長	オンライン
福岡	梅田正人	競技部長	会場	柴田　康弘	審判部長	会場
佐賀	高橋　正秀	事務局員	会場	長谷部　達彦	トラック審判長	会場
長崎	丸田　武人	競技部長	会場	近藤　敦	審判部長	オンライン
熊本	沢田　修	競技部長	会場	池田　祐一	審判部長	会場
大分	上杉　貴志	競技運営委員長	会場	森　幹生	大分陸協審判委員長	会場
宮崎	相馬　勇一	競技部長	会場	安在　倫孝	審判部長	会場
鹿児島	中江　寿孝	競技部長	会場			
沖縄	又吉　秀明	競技部長	会場	大山　朝雄	審判部長	オンライン
中体連	中村　信悟	陸上競技部長	会場			
高体連	神慶次郎	競技副委員長	オンライン	吉田克久	競技委員長	オンライン
マスターズ	山崎　健	競技運営委員長	オンライン	伊藤　誠一	総務部長	会場
学連	三浦　拓也	幹事長	オンライン			
	桑原　悠真	副幹事長	オンライン			
実業団	阿相久志	事務局長	会場			
	鈴木公	会長補佐	オンライン			
パラ	橋本和秀	競技部長	会場	柴田達也	競技運営委員長	オンライン
MAT	庄田　修司	技術部部長	会場	藤﨑　勇次	技術部主任	会場
SEIKO	小林　宗正	副主査	会場	内藤　頼隆	係員	会場
NISHI	井上　聡	開発生産部　部長	会場	木村　裕次	開発生産部　マネージャー	会場

JTO出席者

出席者名	参加方法	分科会
長谷川真一郎	オンライン	分科会1(A)
米岡　利昌	オンライン	分科会1(A)
藤田　昌彦	オンライン	分科会1(A)
大森　智仁	オンライン	分科会1(A)
野末雅文	オンライン	分科会1(A)
金澤　健敏	会場	分科会1(A)
中田光哉	オンライン	分科会1(A)
井上博行	オンライン	分科会1(A)
上村　卓	オンライン	分科会1(A)
平川　貴浩	オンライン	分科会1(A)
見付　正樹	会場	分科会1(A)
川瀬　巧	会場	分科会2(B)
松本浩介	オンライン	分科会2(B)
尾川　登太郎	オンライン	分科会2(B)
今野　光人	会場	分科会2(B)
宮田英明	オンライン	分科会2(B)
橋本　忠志	オンライン	分科会2(B)
中島　剛	オンライン	分科会2(B)
浅野　政和	オンライン	分科会2(B)
山村　拓	オンライン	分科会2(B)
中村　紗奈江	オンライン	分科会2(B)
浜﨑正信	会場	分科会2(B)
青木正宏	オンライン	分科会2(B)
藤岡　英陽	オンライン	分科会2(B)
脇田篤実	会場	分科会2(B)
田中　信之	オンライン	分科会2(B)
新村浩章	オンライン	分科会2(B)

JRWJ出席者

	出席者名	分科会	参加方法
滋賀	吉井　靖博	オンライン	分科会1(A)
東京	矢崎正人	オンライン	分科会1(A)
山口	石井　智也	オンライン	分科会1(A)
新潟	袴田貴満	オンライン	分科会1(A)
東京	常磐信欽	オンライン	分科会1(A)
神奈川	橋本秀樹	オンライン	分科会1(A)
北海道	後小路　正人	オンライン	分科会2(B)
東京	小宮　和之	オンライン	分科会2(B)
北海道	切原　宏和	オンライン	分科会2(B)
熊本	縣　正樹	オンライン	分科会2(B)
青森	山崎　和成	オンライン	分科会2(B)
岐阜	日高節生	オンライン	分科会2(B)
島根	山田英生	オンライン	分科会2(B)
岡山	寺西 大樹	オンライン	分科会2(B)
山形	田中　利夫	オンライン	分科会2(B)
神奈川	宇井　菜那	オンライン	分科会2(B)
福岡	中田賢一	オンライン	分科会2(B)
東京	星　正彦	オンライン	分科会2(B)
新潟	矢野牧男	オンライン	分科会2(B)
秋田	杉本　明洋	オンライン	分科会2(B)
東京	松木一馬	オンライン	分科会2(B)
広島	丸山　潤一郎	オンライン	分科会2(B)
大阪	小川啓祐	オンライン	分科会2(B)
香川	北山　豊	オンライン	分科会2(B)
岐阜	森本文雄	オンライン	分科会2(B)
福島			
千葉			

日本陸連競技運営委員会

氏名	役職
鈴木　一弘	委員長
関根　春幸	副委員長
本橋　郁子	副委員長
青柳　智之	幹事
赤峰　俊彦	委員（PT Leader）
岩脇　充司	委員（PT Leader）
岡本　克巳	委員
片岡　典子	幹事
片岡　裕介	委員（PT Leader）
羽田　雄一	幹事
黒澤　達郎	委員
佐藤　孝洋	委員
杉本　太郎	委員
関　隆史	委員（PT Leader）
田中　康之	委員（PT Leader）
寺尾　浩	委員
中村　拓也	幹事
鍋島　太一	委員
藤崎　明	委員
町田　紀子	幹事
松井　明大	委員
村上　道夫	委員
吉田　啓	委員
渡邊　奈津実	委員
石井　哲郎	委員
岡西　秀明	委員
宮本　克子	委員

氏名	役職
中村　要一	サブリーダー国際プロトコール
奥　裕之	国際プロトコール
荒谷　泉美	国際プロトコール
岡野　寛	国際プロトコール
黒須　雅弘	国際プロトコール
高橋　義則	国際プロトコール
中村　拓也	国際プロトコール
船越　康平	国際プロトコール
岩井　昭仁	国際プロトコール
渡邉　裕子	国際プロトコール
後藤　縁	国際プロトコール
押元　孝紀	国際プロトコール
真野　瑠理子	国際プロトコール
加藤　恵	国際プロトコール
羽計　利昭	国際プロトコール
藤林 悠希	国際プロトコール

日本陸連事務局　競技運営担当

氏名	部署
三宅　聡	事業部課長（登録担当）
粳田　竜之助	事業部
石田　夢	事業部
村岡　紅	事業部
淺田　大吾	強化部 強化育成課

日本陸上競技連盟 施設用器具委員会

高木良郎	委員長

2024年公認審判員数

2024年1月30日現在

所属	S級 公認審判員数 （男）	S級 公認審判員数 （女）	A級 公認審判員数 （男）	A級 公認審判員数 （女）	B級 公認審判員数 （男）	B級 公認審判員数 （女）	C級 公認審判員数 （男）	C級 公認審判員数 （女）	合計
北海道	134	11	228	41	667	219	132	65	1497
青森	56	3	62	8	381	101	0	0	611
岩手	66	4	97	18	269	77	0	0	531
宮城	98	12	100	22	367	108	0	0	707
秋田	63	2	84	6	319	57	0	0	531
山形	68	1	132	15	371	102	0	0	689
福島	131	8	210	32	180	56	814	480	1911
茨城	72	4	109	19	366	90	0	0	660
栃木	31	1	24	8	230	56	0	0	350
群馬	31	0	58	8	242	40	0	0	379
埼玉	74	7	131	13	362	91	0	0	678
千葉	84	4	159	16	624	141	0	0	1028
東京	325	52	285	95	403	214	11	2	1387
神奈川	178	5	151	23	743	186	0	0	1286
新潟	46	0	126	12	590	123	0	0	897
富山	61	4	90	7	218	63	36	10	489
石川	54	2	79	9	407	126	29	10	716
福井	33	1	92	10	186	46	0	0	368
山梨	72	4	104	14	229	61	3	4	491
長野	77	1	115	10	432	124	0	0	759
岐阜	72	3	101	17	235	70	4	15	517
静岡	190	11	221	31	418	145	222	150	1388
愛知	114	7	143	10	661	245	0	0	1180
三重	47	6	50	3	231	71	0	0	408
滋賀	63	5	147	27	403	202	38	30	915
京都	98	3	111	13	818	343	0	0	1386
大阪	189	17	306	71	562	187	0	0	1332
兵庫	87	5	175	9	502	96	0	0	874
奈良	13	0	115	18	210	69	0	0	425
和歌山	20	2	123	12	247	70	100	40	614
鳥取	40	2	83	16	40	19	0	0	200
島根	70	7	64	13	231	64	0	3	452
岡山	92	9	173	33	178	80	0	0	565
広島	140	6	170	20	424	115	89	85	1049
山口	82	5	104	23	255	53	0	0	522
徳島	29	2	84	15	161	72	0	0	363
香川	37	0	86	6	125	40	0	0	294
愛媛	74	3	121	14	263	98	4	6	583
高知	43	2	62	11	140	36	0	0	294
福岡	144	12	151	19	417	143	92	79	1057
佐賀	49	2	106	17	126	31	0	0	331
長崎	20	1	51	8	159	70	166	95	570
熊本	84	11	146	18	248	64	0	0	571
大分	104	10	104	32	188	72	0	0	510
宮崎	48	4	104	21	299	80	0	0	556
鹿児島	60	2	131	23	535	154	4	9	918
沖縄	40	5	46	13	123	47	0	0	274
合計	3803	268	5714	899	15785	4817	1744	1083	34113

2024（令和6）年度　日本陸上競技連盟　全国競技運営責任者会議　議事録

2025年2月15日（土）13:00～17:10

味の素ナショナルトレーニングセンターで対面、およびzoomによるオンライン会議のハイブリッド形式

あいさつ（田﨑専務理事）

年度末のお忙しい中、ご参加ありがとうございます。2025年は３月８日に創立100歳を迎え、９月には東京で世界陸上を開催する大切な節目です。この100年は、競技会の歴史であり皆様の努力の歴史です。日本の競技会運営は、海外からの模範として現在のWAスタンダードの基礎となってきました。しかしながら取り巻く状況は、担い手の不足や人件費の問題への対応など喫緊の課題が山積みです。激変する環境変化に対応していくためには、諸制度の見直し先端技術の活用や柔軟な競技運営による省力化が必要です。世界基準をベースに日本基準の良さを加え、世界トップのクオリティーを実現していく必要があります。そのためには大胆に発送を切り替え、スピード感をもって変革していかなければなりません。明日に繋がる、繋げる議論を、皆さんと一緒に進めていきたいと思います。

事務連絡（羽田幹事）

① S級昇格者の委嘱状および手帳と短冊を机上に置いてあるので確認をしてほしい。
② オンラインのみの参加団体には、短冊等は２月中に郵送する。
③ オンラインの参加者は「氏名」「所属陸協」を表記。質問時はカメラとマイクはオンにする。チャットでの質問は時間があれば対応する。

2025年度競技規則修改正提案（片岡裕委員）

・今年度は大きな修改正はなし。
・規則の入手方法説明：WAは紙ベースの発行は廃止。HPから入手する。日本陸連は、本およびHPから入手する。
・投てき物、競技用靴について、WAのHPから一覧表を確認できる。
・WAの修改正のタイミングが変わった。即時実施が多くなってきた。日本陸連の修改正のタイミングとずれがあるので注意する。
・CR22.6：スタート時の不正スタート、不適切行為について、判断する役割の明確化。
・CR25.4：「ｒ」（試技放棄）の使用方法についての明確化（フィールド競技と混成競技）
・CR32及びCR34：対象種目の変更⇒TR54.1競歩競技で距離が変更となる（2026.1から）
・CR34.4.6：競歩競技の日本記録要件　JRWJ１名をJRWJ３名に変更。
・CR34.10：日本記録の記号について　WAがナショナルレコードはWRk競技会のみを認定。WRk大会と非WRk大会があるため、WAが認める日本記録と日本陸連が認める日本記録が異なる場合がでる。2024年１月以降の記録で、（W）：WRk競技会で出されて日本記録、（Ｊ）：非WRk大会で出された日本記録
・TR8：ジュリーの配置について注意。
・TR8.6：フィールド競技で現場抗議があった場合の記録の扱いについて明記した。
・TR11.4［国内］：上位大会進出するため追加試技を行った際の記録の扱いについて明記。
・TR14.1［注意］：TR17.3.3、17.3.4への対応。監察員用に曲走路と直走路の明確化。
・TR17.5.1［国内］：500m・600mの競技方法の明確化。
・TR17.12［国内］：150mの風力計測時間の明示。
・TR26.9.5［国内］：上位大会出場枠決定のための試技方法（高さの競技）について明確化。
・TR32.1［国内］：WRk競技会使用する投てき物について、考え方を再整理。
・WRk対象競技会定義
①WA主催、認可する競技会
②エリア陸連が主催、認可する競技会
③加盟団体（各国陸連）が開催、認可する競技会
国内で開催されるWRk競技会のほとんどが、③の競技会である。別途、大会カテゴリーに応じて、ランキングポイントがある。WRk対象競技会とランキングポイントの大会カテゴリーは違うものなので注意。
・WRk競技会での適用規則について
定義①②：WA規則（国際）必須
定義③　：一部を除き、加盟団体規則（国内規則）でも可。
・国内WRk競技会でも、WA規則［国際］が必要なものもある
競技場：Ｅカテゴリー以上⇒WA認証クラス２
競技会開催申請：遅くとも60日前までに開催申請。
記録結果申請　：競技会終了後、24時間以内に記録を申請する。

競技会規則・競技規則：CR10、TR4.3、TR32.1、TR39.8.4 等

競技用靴についての補足（淺田事務局員）

2025 年 1 月に公認シューズであったが、審判長判断で再計測し、競技者が失格となる事例があった。厚さの計測について、WA の認識としては、一覧表にある靴に関しては競技役員に計測は求めていない。（専門機関で計測されているため。）再計測はレベルの高い競技会だけで良い。

シューズを確認する場合は、本人確認→シューズリストの確認→（必要があれば）シューズの写真撮影→問題がなければ終了。世界記録等が出た場合は、シューズを回収し、WA へ送付する。シューズリストについては、WA の HP を参照。適用できる競技種目等が確認できる。

質疑応答

Q：近藤氏（長崎）…WRk 大会には JRWJ３名が必要であるが、高体連地区大会は WRk のため３人必要か。

A：片岡裕委員…競技会に３人必要というわけではなく、３人いないと日本記録としては認定されない。事前に日本記録が予想される場合は日本陸連に相談して欲しい。

Q：近藤氏（長崎）…WRk 国際大会には WARWJ が３名必要であるが、高体連地区大会にも３人必要か。

A：淺田事務局員…WRk 国際大会では WARWJ が必要。

Q：藤岡氏（JTO）…WRk 大会では当該県以外から審判長レベルを呼ぶのか。

A：片岡裕委員…その通りである。

施設用器具委員会報告（高木施設用器具委員長）

高木委員長より、資料に基づき報告がなされた。

１．2025 年度施設用器具委員会関係に関わる規則の修改正について解説
- 陸上競技場の公認に関する細則の改正
- 長距離競走路並びに競歩路公認に関する細則の改正
  - ➢特に、2026 年 1 月以降の競歩路に関わるハーフマラソン及びマラソン距離への検定方法の検討
  - ➢公認長距離競走路、競歩路認定申請に関わる申請書の添付書類の追加及び事例紹介

２．競技会への派遣について説明
- 技術総務の派遣
- 国際道路コース計測員の派遣

３．競技会での注意事項
- 秤の調整
- WRk での投てき物リストの作成
- 投てきの囲いの安全確保
- 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

WRk 大会について（淺田事務局員）

淺田事務局員より、資料に基づき説明がなされた。
- WRk 制度の基本概要
- ランキングカテゴリ／WRk 定義
- 2025 のお願い
  - ➢世界、アジア陸連大会を目指す選手が出場する大会
  - ➢WRk 申請担当と大会記録情報担当の連携強化
  - ➢加盟団体内の公認競技会のうち WRk 申請を計画している競技会の把握
  - ➢リザルト送付のフォーマット
- WRk 競技運営の留意事項
- WRk 申請手順：ユーザー登録、競技会申請
- WA リザルト報告手順（24h 以内）

ブロンズレフェリーについて（青柳幹事）

青柳幹事より、資料に基づき説明がなされた。
- ブロンズレフェリー試験結果報告
- ブロンズ競歩審判員試験結果報告
- 今後の見通し…2025年はブロンズレフリーに加え、ブロンズ写真判定員、ブロンズスターターが予定されている

・合格者について、審判長・主任として名実ともに活躍できるよう、研鑽に励めるような環境づくりをお願いしたい。

スタートについて（関委員）

関委員より、資料に基づき説明がなされた。

・不正スタートの検出について、動画を用いた事例紹介。2025年4月発行のハンドブックへもコラムを掲載

アナウンスについて（片岡典幹事）

片岡(典)幹事より、資料に基づき説明がなされた。

・アナウンサーだけでなく競技会運営に携わる方々にも、アナウンス内容についての確認をしていただきたい
・日本記録等の新記録誕生のアナウンスは、記録確定後すぐにコメントする。
・フィールド種目のトップ８発表方法は事前に打ち合わせをし、時間をかけずに後半の試技へ進める。
・選手の呼び方やBGMの使用などについては大規模大会のやり方をまねる必要はなく、競技会の性質やレベルなどを考慮し、主催者の判断で決める。
・用語や言い回し等について「JAAFアナウンサーのしおり」「初めてマイクにむかう人へ」で再確認をお願いしたい。

質疑応答

Ｑ：長谷部氏（佐賀）…日本記録がWRk競技会の記録と非WRk競技会の記録がある場合、プログラムに記載する日本記録は併記しなければいけないのか。

Ａ：片岡裕委員…原則は、わかりやすく記載していただければ、よい記録のみを記載しても問題はない。ただし、WRk競技会のプログラムには、2つの記録を併記してもらいたい。

分科会１

競技会公認申請（鍋島委員）

正式な資料は後日案内予定。申請スケジュールについて…コードの案内が遅れているため、２月 17 日～３月７日（手元の資料から変更有り）、エクセルファイルをアップロードして申請していただきたい。

コードの見直し及び申請については資料 P.49 参照。各団体において６桁目以降のコード設定をお願いしたい。中学生のみの大会は「３」、高校生のみの大会は「４」、日本陸連主催の場合は５桁目に「８」を入力。陸連担当者を３つの地方ごとにわける。駅伝競走およびクロスカントリーは公認でないロードでも可。事後申請は受け付けない。申請せず実施した競技会の記録は公認されない。

記録公認申請・日本記録（村上委員）

ルールの修改正があったように、世界陸連はWRk 競技会でマークされた記録のみ認定する。国内であればWRk 競技会でなくても日本記録となる。

公認記録の申請のみでは日本記録とならないため、日本記録の申請を改めておこなう。競歩大会における JRWJ３名の署名が必要となる改正に注意。トラックレースの場合、スタート地点でおこなったゼロ・コントロールテストを写真（画像）添付する。フィニッシュ地点ではない。記録の申請は１週間程度を目途に速やかにおこなっていただきたい。

上位大会出場決定の方法について（岩脇委員）

今年度までは別競技会として申請することで公認記録としてきた。しかしながら事後申請ができないシステムであること、そもそもジャンプオフ方式を使用してよいのか、という問題点があがってきたことから、来年度から記録の有効性についての国内ルールを追加、施行する。上位大会出場決定の方法について、競技注意事項等にその決定方法を明記すること。名称は順位を決定する試技ではないため、「6 位決定戦」のような表記ではなく「関東大会出場決定戦」のようにする。

公認記録申請先の変更について（岩脇委員）

陸上競技マガジンとの契約が終了するため、公認競技会申請サイトへ移行。電子申請のみに変更。移行期間として１年間の猶予期間を設定し、書類送付ではなくメール添付方式でおこなう。

全競技の全試技がわかるものが必要。原則、公認でない種目はアップロードしない。道路競技については公認される距離を参加者に周知。非登録者などが出場できる大会の公認記録申請は非登録者の記録を削除すると順位などに不具合があるため、特に注意していただきたい。また、陸連登録者（登録料の支払いまでに完了している競技者）の記録を公認記録として認めるため、登録を早めに行ってほしい。３月１２日に公認記録申請担当者の設営を開催予定。

広告展示物規則 PT（田中委員）

修正点は、

〇アスリートキットに表示する商標表示について…規定項目の例示も含め、適正箇所への移動。

改正点は、
〇アスリートビブスの商標の取り扱いについて〔国内〕…競技者識別表示の高さが最低限６ｃｍを確保できるのであれば、上部・下部に関わらず余白にこれまで以上に商標等を表示できるようにした。より大会スポンサーを集めやすくなる。
〇 WA 広告規程 2025 年に、修改正はない。
〇引き続き「競技会における広告および展示物に関する規程」の管理、指導を願いする。
〇WAが言う「非営利団体」の扱いは、わが国では現在、学校教育法第１条、第 124 条および第 134 条に規定される「学校」のみを想定している。

分科会２

S 級昇格審査報告（青柳幹事）

2024 年度…候補：158 件／申請：161 件（～直近６年間）
・２年連続で提出が越年団体あり→来年度以降の運用を変更（期日超過は候補者なしと看做す）
・手帳への改竄を疑われない記載を依頼
・手帳への記載の NG 例（大会役員、空欄、陸協認印なし）紹介など

審判ハンドブック PT （関委員）

最新ハンドブックの原稿校正中の報告と一部改正について口頭での紹介

審判育成・研修 PT（赤峰委員）

WA と日本の審判制度の間に大きな乖離があり、再考が必要と認識している。各都道府県陸協の意見聴取のため、この件に関するアンケートを実施している。できれば 2/21 までに回答をお願いしたい。

2024 年度 JTO 活動報告（青柳幹事）

今年度、55 名の JTO が各地の日本陸連主催・共催大会にて運営支援を行なった。そのなかで起こったトラブル事例をいくつか紹介する。
１）トラック競技：スタートにおける YC の提示基準の明確化
２）フィールド競技：
（LJ）計測中に痕跡を消去。再試技
（TJ）同じような距離２箇所を同時計測し、距離の長い方を入力。
（HJ）試技結果がチームと審判で違い発生。再度同じ高さで試技せず、選手がリタイア
（SP）落下後のサークル側にバウンド。短い距離を誤計測（※LJ との違い）
→他業務との連携でダブルチェック、バックアップを。

質疑応答

Ｑ：鹿又氏（宮城）…フィールド競技におけるコーチ席と選手間の距離が遠く、映像装置の手渡しができない場合の対応を教えてほしい。
Ａ：関根副委員長…選手の安全が第一であり、コーチ席を手渡しできる場所に設定するのが良い。それが出来ない場合、手渡しできない旨を周知する必要がある。
Ａ：大塚氏（愛媛）…手渡しできない旨、競技注意事項へ記載している
Ａ：今野氏（JTO）…手渡しできない競技場であれば、その旨をしっかり伝えて手渡しを認めない
Ｑ：今野氏（JTO）…S 級審査基準はいつ決まって伝達されるのか
Ａ：関根副委員長…ここ近年変更ない。基準が変わるようであれば、各都道府県に早めに周知する。
Ｑ：平木氏（福井）…C 級審判制度導入を検討。手続きにあたり、登録費用や手帳の取扱いについて教えてほしい。また競技会における審判の識別方法にどのようなものがあるか？
Ａ：関根副委員長…東京の場合は、C 級について、講習 500 円、実技研修後の手帳は 410 円、この他審判カード（黄色）100 円を徴取する。手当は、弁当のみ支給。C→B は伝達講習会のみ出席で昇格させている。
Ａ：石井氏（東京）…C 級審判員には帽子を被せることで、補助員と識別している。

分科会報告（本橋、関根両副委員長）

分科会１、２の報告が両副委員長から行われた

海外競技会報告（関根副委員長）

関根副委員長より、海外競技会報告が行われた。

国内競技会実施報告（資料参照）

2025 年世界陸上について（鈴木委員長）
・東京 2020 大会の反省を生かして準備にあたっているため、世界陸上財団の準備が遅れている。
・Show としての世界陸上、クリーンベニューを目指して行う。
・メダルセレモニーは場外で行い、競技終了直後はインスタントメダルを行う。
・バーチャルＴＩＣの導入。

審判員のコンプライアンス研修について（事務局：三宅課長）
セーフガーディングに関する e-ラーニング受講について、国からも強く修養を求められていることから、世界陸上に関わる審判員はもちろん、各団体でも積極的な受講実施をお願いしたい。受講後、修了証が発行される。

事務連絡（羽田幹事）
・ルールブック・ハンドブックの発行元が陸マガから月陸へと変更する。表紙デザイン一新。中はモノクロとなる。これまでグリーンで示していた部分は字体を変えることで条文と区別する予定。
・会議の報告書は今月末までに配信予定。

あいさつ（鈴木委員長）
長時間にわたり会議への協力ありがとうございました。５年ぶりの対面開催を行ったが、来年も予算を確保し人数を増やして行いたい。オンラインでは会議の成果に限界があり、対面による良さがある。ここで得たことを地元でしっかりと行うためにも正確な伝達をお願いしたい。世界陸上の話も時間の関係で十分ではなかったが、報告書を読んで競技運営に生かして欲しい。
全国的な競技会のリレーのユニフォームは統一が原則だが、普及の観点から地元の競技会では柔軟な対応をお願いしたい。全国的な大会を控えている都道府県は、審判長を複数名準備してほしい。世界大会では各種目に１名の審判長が任命される。引き続きこれからの競技会運営のために忌憚のないご意見をお願いしたい。

以上

2025 年度　日本陸上競技連盟競技規則　修改正案　＜2025.2.15＞

日本陸上競技連盟
競技運営委員会

（**太字**：修改正、追加、挿入　　~~修改正前~~：削除　　修改正前＆修改正：移動）

【競技会規則（CR）】

条文番号	修改正前	修改正
CR9 〔国内〕	－	**4.ワールドランキングコンペティション定義 3.(b)により WARWJ を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。**
CR10	－	**〔国内〕 ワールドランキングコンペティション定義 3.(b)により国際道路コース計測員を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。**
CR13	競歩記録員、警告掲示板係他競歩競技に必要な役員	競歩記録員、**競歩用**掲示板係他競歩競技に必要な役員
CR18.8 〔国際注意〕	特定の競技会の規程で認められる場合を除き、本条は視覚障がいのある競技者の伴走者の参加を認めることを意図するものではない。	特定の競技会の規程で**特に**認められる場合を除き、本条は視覚障がいのある競技者の**ガイドランナー**の参加を認めることを意図するものではない。
CR18.8 ｸﾞﾘｰﾝ	但し、この規則は~~特定の競技会の規則で特に許可されている場合を除き、健常者の競技会でガイドランナーの使用を許可するものではないし、また~~審判長が TR6に定められている事項に反した解釈をすることを認めているわけでもない。	但し、**この規則は審判長が** TR6に定められている事項に反した解釈をすることを認めているわけでもない。
CR22.6	スターターまたはリコーラーはどのような不正でも確認したならば、…スターターに伝えなければならない。スターターはどの競技者に警告を与えるか、または失格とすべきか判断する。〔参照 TR16.7、16.10〕	スターターまたはリコーラーはどのような不正でも確認したならば、…スターターに伝えなければならない。スターターはどの競技者に警告を与えるか、または失格とすべきか判断する〔参照 TR16.7、16.10〕。**スタート時における不適切行為の判断は、審判長が行う〔参照　TR16.5〕。**
CR25.4 表	r：試技放棄・離脱（フィールド競技~~・混成競技~~）	r：試技放棄・離脱（**フィールド種目**）
CR25.4 ｸﾞﾘｰﾝ	'r' は競技者が怪我によって競技継続ができない場合、あるいは競技者がそれ以上競技を行わないと決めた場合に使用することを想定している。 … ~~試技放棄（離脱）は混成競技にも関連しており、その後に行なわれるトラック競技の組数にも影響を与える可能性がある。~~ …	'r' は競技者が怪我によって**フィールド種目の**競技継続ができない場合、あるいは競技者がそれ以上競技を行わないと決めた場合に使用することを想定している。 … （削除） …
CR29.1.1	〔国際〕 …。その内容は少なくとも、各種目の招集場所、・第一招集・最終招集完了時刻、（最終）招集場所から競技場所へ移動を開始する時刻について記載する。	〔国際〕 …。その内容は少なくとも、各種目の招集場所、・**招集所への入場開始時刻と入場締切時刻、**（最終）招集場所から競技場所へ移動**を開始する**時刻について記載する。
CR31.3.5	… ドーピング検査に関連する文書（ドーピング管理フォームおよび対応する検査結果）は、入手次第、直ちに WA に送付するものとし、理想とすれば、~~記録申請の際に記載しなければならない~~世界記録申請書類一式と共に~~、競技開催日を含め 30 日以内に WA 事務局に~~発送されなければならない（CR31.6 参照）。	… ドーピング検査に関連する文書（ドーピング管理フォームおよび対応する検査結果）は、入手次第、直ちに WA に送付するものとし、**できれば**世界記録申請書類一式と共に**発送されなければならない**（CR31.6 参照）。
CR31.10.3	世界記録が公認されたら、WA 事務総長は~~新たな世界記録が承認されるたびに~~世界記録認定リストを更新する。このリストに記載された記録は、…	世界記録が公認されたら、WA 事務総長は**世界記録認定リストを更新する**。このリストに記載された記録は、…

<table>
<tr><td>CR31.19</td><td>少なくとも 3 人の WA ゴールド、シルバー、~~ブロンズ~~レベルの競歩審判員が審判を務め、世界記録認定申請書に署名しなければならない。</td><td>少なくとも 3 人の WA ゴールドまたはシルバーレベルの競歩審判員が審判を務め、世界記録認定申請書に署名しなければならない。</td></tr>
<tr><td>CR32</td><td>（追加）</td><td>（2026 年 1 月 1 日から）
＜競歩＞<table><tr><th></th><th>男子</th><th>女子</th><th>U20
男子</th><th>U20
女子</th><th>計時
方法</th></tr><tr><td>ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ
(ﾄﾗｯｸ)</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>写・手</td></tr><tr><td>ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ
(道路)</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>写・手
ト</td></tr><tr><td>ﾏﾗｿﾝ
(ﾄﾗｯｸ)</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>写・手</td></tr><tr><td>ﾏﾗｿﾝ
(道路)</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>写・手
ト</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>CR32
〔注意〕</td><td>男子の 30,000m競歩の記録は、35,000m 競歩の初回認定記録が掲載された段階で削除する。

35,000m 競歩：
記録の初回認定は 2023 年 1 月 1 日とし、
男子は 2 時間 22 分 00 秒以内、
女子は 2 時間 38 分 00 秒以内の記録を対象とする。
35km 競歩：
記録の初回認定は 2023 年 1 月 1 日とし、
男子は 2 時間 22 分 00 秒以内の記録を対象とする。
50,000m 競歩：
記録の初回認定は 2019 年 1 月 1 日以降とし、
4 時間 20 分 00 秒以内の記録を対象とする。</td><td>ハーフマラソン競歩：
記録の初回認定は 2026 年 1 月 1 日とし、
最初の世界記録認定にあたり、必要となる最低限の記録は 2025 年に公表される。
男子の 30,000m競歩の記録は、35,000m 競歩の初回認定記録が掲載された段階で削除する。

35,000m 競歩：
記録の初回認定は 2023 年 1 月 1 日とし、
男子は 2 時間 22 分 00 秒以内、
女子は 2 時間 38 分 00 秒以内の記録を対象とする。
35km 競歩：
記録の初回認定は 2023 年 1 月 1 日とし、
男子は 2 時間 22 分 00 秒以内の記録を対象とする。
マラソン競歩：
記録の初回認定は 2026 年 1 月 1 日とし、
最初の世界記録認定にあたり、必要となる最低限の記録は 2025 年に公表される。
50,000m 競歩：
記録の初回認定は 2019 年 1 月 1 日以降とし、
4 時間 20 分 00 秒以内の記録を対象とする。</td></tr>
<tr><td>CR34.4.6</td><td>競歩競技の日本記録については、少なくとも一人の JRWJ（日本陸連競歩審判員）以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名しなければならない。</td><td>競歩競技の日本記録については、少なくとも 3 人の JRWJ（日本陸連競歩審判員）以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名しなければならない。</td></tr>
<tr><td>CR34</td><td>（追加）</td><td>（2026 年 1 月 1 日から）
＜競歩＞<table><tr><th></th><th>男子</th><th>女子</th><th>公認
男子</th><th>公認
女子</th><th>計時
方法</th></tr><tr><td>ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ
(ﾄﾗｯｸ)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>写・手</td></tr><tr><td>ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ
(道路)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>写・手
ト</td></tr><tr><td>ﾏﾗｿﾝ
(ﾄﾗｯｸ)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>写・手</td></tr><tr><td>ﾏﾗｿﾝ
(道路)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>写・手
ト</td></tr></table></td></tr>
</table>

CR34.10 〔注意〕	（追加）	vii　競歩競技のハーフマラソン、マラソンの日本記録の初回認定は 2026 年 12 月 31 日とする。 vi WA は 2024 年から各国のナショナルレコード（日本記録）は WRk 大会でマークされた記録のみを新たに認定することに伴い、2024 年以降、非 WRk 競技会でマークされた日本記録が WRk 競技会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて区別する。 (W)：WRk 競技会でマークされた日本記録 (J)　：非 WRk 競技会でマークされた日本記録

【競技規則（TR）】

条文番号	修改正前	修改正
TR1 ｸﾞﾘｰﾝ	大衆参加ランニング及びウォーキングイベントに関しては、~~これらの規則が完全に適用されるのは、イベントに参加するエリートカテゴリーの競技者または、主催者が何らかの理由によって指定したカテゴリーの競技者（例えば、賞金の対象となるなど）のみと規定される。~~ ~~しかし、~~競技会主催者は特に安全性の考慮事項に関して、特に交通が完全には遮断さていないレースの場合、様々なカテゴリーに適用される規則と手順を全ての参加者に提供する情報のなかで強調することが推奨される。	大衆参加ランニング及びウォーキングイベントに関しては、競技会主催者は特に安全性の考慮事項に関して、とりわけ交通が完全には遮断さていないレースの場合、様々なカテゴリーに適用される規則と手順を全ての参加者に提供する情報のなかで強調することが推奨される。
TR5.2	競技者が競技する時は、裸足でも競技用靴を履いてもよい。	競技者が競技する時は、裸足**で、または片足もしくは両足に**競技用靴を履いてもよい。
TR6.3.1	同一レースに参加していない者によってペースを得ること、周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者がペースメーカーとして競技すること、あるいは（TR6.4.4 で許されたものを除いて）あらゆる種類の技術的な装置によってペースを得ること。	同一レースに参加していない者によってペースを得ること、周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者がペースメーカーとして競技すること、あるいは（TR6.4.4、6.4.8 で許されたものを除いて）あらゆる種類の技術的な装置によってペースを得ること。
TR8	ー	**〔注釈〕** **上訴を行うことができるのは、ジュリーが置かれている競技会のみである。**
TR8.2	競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後 30 分以内に行わなければならない。	競技**（ラウンド）**の結果または競技実施に関する抗議は、その**競技（ラウンド）**の結果の正式発表後 30 分以内に行わなければならない。
TR8.6	〔国際〕 フィールド競技において現場で抗議（競技中の抗議）が行われ、抗議中として競技を行なう競技者がいる場合、その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかにに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効となる。	〔国際〕 フィールド競技において現場で抗議（競技中の抗議）が行われ、抗議中として競技を行なう競技者がいる場合、その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかにに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効となる。 **〔国内〕** **TR8.5 を適用した場合は、当規則も適用する。**
TR8.6 ｸﾞﾘｰﾝ	TR8.6はフィールド種目だけでなく、全ての種目に適用される。	**TR8.6の最初の段落の内容は、**フィールド種目だけでなく、全ての種目に適用される。
TR8.7 〔国際注意〕	当該審判長は抗議に対する裁定を下した後、直ちに TIC に対して裁定の時刻を通知しなければならない。 審判長が当該チーム・競技者に対して口頭で裁定を知らせることができなかった場合は、TIC で訂正された結果、もしくは裁定結果を掲示した時刻をもって、公式発表が行われた時刻とする。	当該審判長は抗議に対する裁定を下した後、直ちに TIC に対して裁定**結果を申立者に対して伝達した時刻**を通知しなければならない。 審判長が当該チーム・競技者に対して口頭で裁定を知らせることができなかった場合は、TIC で訂正された結果もしくは裁定結果を掲示した時刻をもって、公式発表が行われた時刻とする。
TR9.2	TR9.1 以外のその他の競技会で競技場内のみで行う競技では、男女混合の種目は通常では認めな	TR9.1 以外のその他の競技会で競技場内のみで行う競技では、男女混合の種目は通常では認めない。

	い。 ~~但し、ワールドランキングコンペティション定義1.(a)、(b)、(c)と2.(a)、(b)以外の競技会においては、以下の混合競技を認めることがある。ワールドランキングコンペティション定義1.(c)、(d)と2.(c)、(d)、(e)に該当する競技会においては、フィールド競技と以下TR9.2.1に述べる状況であれば、所管するエリア陸連の特別な許可により、常に男女混合競技が認められる。~~	但し、以下の場合は認められる。 ・ワールドランキング競技会定義 1.(a)、(b)、(c)と 2.(a)、(b)、(c)の競技会において、当該種目に当該規則を適用することが規定されているフィールド競技。 ・ワールドランキング競技会定義 1.(d)、(e)と 2.(d)、(e)の競技会におけるフィールド競技と、TR 9.2.1 に基づいて行うことを所管するエリア陸連が特に許可している 5000m 以上のレース。 ・ワールドランキング競技会定義 3. の競技会におけるフィールド競技と、TR 9.2.1 に基づいて行うことを所管する各国陸連が特に許可している 5000m 以上のレース。
TR9.2 ｸﾞﾘｰﾝ	TR9.2.1 の目的は 5000m以上の長距離種目の実施を促進することであり、より長い種目で男女のいずれかまたは男女ともに少数の競技者が出場する場合や、~~より長い距離の種目（例えば、10,000m 以上の競歩競技）、タイムテーブルの制約により別々のレースを実施することが困難になる。~~ この規則の目的は、女性競技者が男性競技者と競技する機会を提供することにより、潜在的により良い記録が出せる環境を作り出すことではない。 ~~誤解がないように補足すると、フィールド種目や 5000m 以上のレースでの~~混合競技会は、 a. 全ての国内大会で認められ、適用可能な連盟の規則のみに従う。（エリア陸連からの追加の許可は必要ない。） b. ワールドランキングコンペティション定義 2.(d) に該当する競技会においては、関連するエリア陸連によって特別に許可されている場合に認められる。 c. ワールドランキングコンペティション定義 1. と 2. (a)、(b)、(c)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技で競技会に適用される規程で特に規定されていなければ認められない。 男女混合競技での世界記録の公認には制限がある。 …	TR9.2.1 の目的は、**男女のいずれかまたは男女ともに少人数の競技者が出場する場合に、5000m以上のレースの実施を容易にすることである。** この規則の目的は、女性競技者が男性競技者と競技する機会を提供することにより、潜在的により良い記録が出せる環境を作り出すことではない。 **男女混合競技とは以下の競技である。** a. **すべての国内競技会においては、フィールド競技および TR9.2.1 に従って行われる 5000m 以上のレースでは所管する各国陸連によって特別に許可されている競技。**（エリア陸連からの追加の許可は必要ない。） b. ワールドランキングコンペティション定義 **1.(d),(e)と** 2.(d) **,(e)**に該当する競技会においては、**フィールド競技および所管する**エリア陸連によって特別に許可されている **TR9.2.1 に従って行われる 5000m以上のレース。** c. ワールドランキングコンペティション定義 1. **(a), (b), (c)** と 2. (a)、(b)、(c)、(e) に該当する競技会においては、**フィールド競技に関して、当該**競技会**に適用される規則にその旨が**規定されていなければ認められない。 男女混合競技での世界記録の公認には制限がある。 …
TR11.4 〔国内〕	－	上位大会出場の進出者を決める際に同順位が複数いて、その中から選出する必要がある場合、その選出方法は主催者が決めることができる。選出方法は抽選に加え、追加レースや追加試技を行うこともできる。 追加レースや追加試技で達成された記録は、当該競技会での順位決定とは無関係であるが、個人（チーム）の最高記録、ランキング、参加標準記録といった目的では有効なものとして取り扱われる。
TR12 ｸﾞﾘｰﾝ	… 同様に、監察員またはトラック審判長が規則違反の可能性を報告している場合は、ビデオ審判長によって確認され、適切な助言と決定がなされる。	… 同様に、監察員またはトラック審判長**および競歩競技審判長が**規則違反の可能性を報告している場合は、ビデオ審判長によって確認され、適切な助言と決定がなされる。

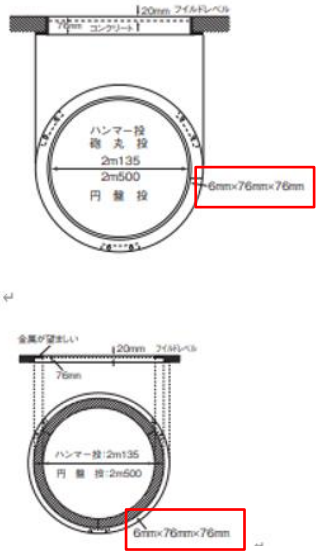
TR14.1	… 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、水濠を越えるためにメイントラックを離れる障害物競走、TR17.5.2による第1グループと第2グループの走路の境界、縁石設置のない直走路にも適用されなくてはならない。後者の場合は（コーン、旗または代用縁石を置く）間隔が10mを超えないようにする。	… 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、**障害物競走で水濠を越えるためにメイントラックを離れる部分と** TR17.5.2 による第 1 グループと第 2 グループの走路の境界**部分に適用される。後者の場合、直走路にもコーン、旗または代用縁石を置くことも選択できるが、その間隔は 10mを超えないように設置する。**
TR14.1	〔国際－注意〕 曲走路から直走路または直走路から曲走路にトラックから迂回する地点は、計測員によって白線上に 50 ㎜×50 ㎜の見分けのつく色で示され、レース中は 1 レーンの内側の線上にコーンを設置しなければならない。	**〔注意〕** 曲走路から直走路または直走路から曲走路に**変わるすべてのポイントには、1 レーン内側のラインの白線上に、あらかじめ検定された 50 mm × 50 mm の明確な色でマークされ、レース中はそれらのポイントのトラック内側の延長線上にコーンを設置する。**
TR16.2	~~以下の〔注意〕に記載された競技会を除く全ての競技会において、スターターは開催する国や地域の言語、英語またはフランス語で合図しなければならない。~~ ~~〔注意〕~~ ~~ワールドランキングコンペティション定義 1.(a)、(b)、(c)、(d) と 2. (d) に該当する競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会においては、スターターの合図は英語のみとする。~~	**ワールドランキングコンペティション定義 1.(a)、(b)、(c)、(d) と 2. (d) に該当する競技会においては、スターターの合図は英語のみとする。その他の競技会では、スターターの合図は開催する国や地域の言語、英語、フランス語で行うものとする。** **〔国内〕** **スターターの合図は一部の用語を除き、英語とする。**
TR16.8 〔注意〕	… ~~不正スタート~~がどの競技者の責にも帰すべきものでなければ、警告は与えないでグリーンカード（旗）を競技者全員に見せる。	… **スタートのリコールやスタートを中止した理由が**どの競技者の責にも帰すべきものでなければ、警告は与えないでグリーンカード（旗）を競技者全員に見せる。
TR17.5.1 〔国内〕 iii	（追加）	**500m 競走は完全セパレートレーンで行う。第二曲走路に 100m のスタートラインを基準とした階段スタートラインを設定する。当該競技が実施できるのは、スタート位置の標識が設置されている競技場に限る。**
TR17.5.1 〔国内〕 iv	（追加）	**600m 競走はセパレートレーンでスタートし、途中からオープンレーンで行う。第二曲走路に 400m と同様の階段スタートラインを対称的に設定する。300mまでは（曲走路を 2 回走るまでは）セパレートレーンとし、通常の 800m 競走のブレイクラインからオープンレーンとする。当該種目のスタート位置は、メドレーリレーの 1 走のスタート位置と同じであり、その標識が設置されている競技場に限る。**
TR17.5.2	1,000m、3,000mと 5,000m（内水濠で行う 3000m障害での適用も可）におけるグループスタートの場合、…マークを置かなくてはならない。このマークは 50 ㎜×50 ㎜とし、第 4 レーン外側（6 レーンのトラックでは第 3 レーン外側）のライン上に置き、…。	1,000m、3,000mと 5,000m（内水濠で行う 3000m障害での適用も可）におけるグループスタートの場合、…マークを置かなくてはならない。このマーク**（ブレイクポイント）**は 50 ㎜×50 ㎜とし、第 4 レーン外側（6 レーンのトラックでは第 3 レーン外側）のライン上に置き、…。
TR17.5.2 ｸﾞﾘｰﾝ	b：競技者が TR17.5 に違反し、ブレイクラインの手前やグループスタートで決められた位置の手前で内側を走った。	b：競技者が TR17.5 に違反し、**走るように指定されたレーンから、またはグループスタートでトラックの外側のレーンから、ブレイクラインまたはブレイクポイントの手前で内側に入った。**
TR17.7	規則に違反しているマーカーや物があれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がしたり動かしたりするよう、審判員は当該競技者を指導しなければならない。指導に従わない場合には、審判員が取り除かなければならない。	規則に違反しているマーカーや物があれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がしたり動かしたりするよう、**監察員**は当該競技者を指導しなければならない。指導に従わない場合には、**監察員**が取り除かなければならない。

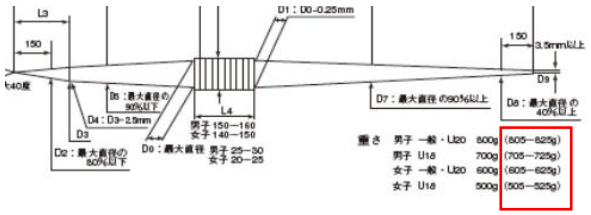
TR17.12 〔国内〕	i　55m　　5 秒間 55m ハードル　　5 秒間	i　55m　　5 秒間 55m ハードル　　5 秒間 **150m　　10 秒間** **（計測方法は 200m と同じ）**
TR17.15.3	競技者はいつでも、スタート地点や主催者が設置した供給所で受取った水や飲食物を手に持ったり身体につけたりして持ち運んでもよい。	競技者は、**スタート地点から持ち込んだり、**主催者が設置した供給所で受取ったりした水や飲食物を、**いつでも**手に持ったり身体につけたりして**競技を行ってよい**。
TR19 章見出し	計時~~と写真判定~~	**計時**
TR20.1	トラック競技における予選は、参加競技者が多数のため、決勝 1 回では満足に競技を行うことができない時に行う。 予選ラウンドを行う場合、全競技者が参加し、予選の結果によって次のラウンドに進むようにしなければならない。競技会統括団体は一つあるいは複数の種目で、その競技会の中で、あるいはそれに先立つ別の競技会の結果で、参加資格を与える競技者の一部または全部を決め、その競技会のどのラウンドから出場することができるかを決める権限を持つ。 どの競技者に参加資格を与え、どのラウンドから出場できるかという手順や考え方（特定の期間に達成された参加標準記録、指定競技会での順位やランキング等）については、各競技会の大会要項等に記載されなければならない。 〔注意〕 TR8.4.3 参照。	トラック競技における予選は、参加競技者が多数のため、決勝 1 回では満足に競技を行うことができない時に行う。 予選ラウンドを行う場合、全競技者が参加し、予選の結果によって次のラウンドに進むようにしなければならない。 **但し、**競技会統括団体は、一つあるいは複数の種目で**参加資格を与える競技者の一部または全部を決め、その競技会のどのラウンドから出場することができるかを決めるために、その競技会の中で、あるいはそれに先立つ別の競技会で予選ラウンドを行う権限を持つ。** どの競技者に参加資格を与え、どのラウンドから出場できるかという手順や考え方（特定の期間に達成された参加標準記録、指定競技会での順位やランキング等）については、各競技会の大会要項等に記載されなければならない。 〔注意〕 **i**　TR8.4.3 参照。 **ii**　**追加の予選ラウンドには、予備予選ラウンドおよび敗者復活ラウンドを含むことができる。**
TR20.2.3 〔国際〕	番組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、もっともよい記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。	**予選ラウンドが実施される際の**組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、もっともよい記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。 **これには、可能な限り同じ加盟団体またはチームの競技者だけなく、ランキングの上位記録（一般的には参加標準記録有効期間の記録で決定されるが、直近の優れた記録なども考慮される）を持つ競技者が予選の同じ組に入らないようにすることも含まれる。** **こうした組合せの調整は、番組編成の原案が出た直後に、レーンを決める前に行う必要がある。こうした変更を行った後、各組のレベルが可能な限り均等になっているか最終チェックを行う。** **これらの原則を適用する際には、競技者の入替えは、** **a.　最初のラウンドでは、所定の期間中に有効な最も良い記録のリストで同様のランキングを有する競技者間で、** **b.　以降のラウンドでは、TR20.4.3～20.4.5 に従って同じ「レーングループ」に編成された競技者間で、** **行う。**
TR20.2 ｸﾞﾘｰﾝ	~~予選ラウンドは、次のラウンドに進み、最終的に決勝に進出する競技者を可能な限り最良の方法で決定しなければならない。~~これには同じメンバーまたはチームの競技者だけなく、上位記録を保持した競技者（一般的には参	（TR20.2.3〔国際〕へ移動）

	加標準記録有効期間の記録で決定されるが、直近の顕著な記録などもまた考慮される）が予選の同じ組に入らないよう可能な限り配慮することも含まれる。 適用される規則で別に定めがない限り、主要競技会で組み合わせの基本となるのは、少なくとも事前に決められた期間中の有効な条件（関連種目での風速を含む）で、各競技者が達成した最も良い記録でなければならない。この期間は通常、競技会に適用される規則または競技会のエントリー条件と基準を定めた文書に明記される。そうした基準が明記されていない場合、技術代表または主催者が一つの、一部の、あるいは全ての競技に適用する代替期間や規準を定めない限り、「シーズンベスト」を使用する。 … 優勝候補者とみなされる競技者同士の予選ラウンドでの対決を避けるために、同様の原則を適用すべきである。同時に、同じ加盟団体またはチームの競技者が異なる組になるよう調整する必要がある。 このような場合、組合せの調整は組分けの原案が出た直後に、レーンを決める前に行うべきである。これらの原則を適用する際には、競技者の入れ替えは、 a. 最初のラウンドにおいては、あらかじめ決められた期間中に有効な最も良い記録のリストで同様のランキングを有する競技者との間で、 b. 次のラウンドにおいては、TR20.4.3～20.4.5 に基づく同様のランキングを有する競技者の間で、 行う。 これらの原則に従うことは、…。	適用される規則で**別途規定されない**限り、主要競技会で組み合わせの基本となるのは、少なくとも事前に決められた期間中の有効な条件（関連種目での風速を含む）で、各競技者が達成した最も良い記録でなければならない。この期間は通常、競技会に適用される規則または競技会のエントリー条件と基準を定めた文書に明記される。そうした基準が明記されていない場合、技術代表または主催者が一つの、一部の、あるいは全ての競技に適用する代替期間や規準を定めない限り、「シーズンベスト」を使用する。 … 優勝候補者とみなされる競技者同士の予選ラウンドでの対決を避けるために、同様の原則を適用すべきである。同時に、同じ加盟団体またはチームの競技者が異なる組になるよう調整する必要がある。 （TR20.2.3〔国際〕へ移動） これらの原則に従うことは、…。
TR20.3.1	最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、~~ジグザク配置によって予選の組を決める。~~	最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、**順位づけを行う。**
TR20.3.3	競技者をジグザグに配置する。	**TR20.3.1 および 20.3.2 で作成した順位づけをもとに、**競技者をジグザグに配置する。
TR20.4 〔注意〕 i	~~ワールドランキングコンペティション定義 1.(d)、(e) と 2. に該当する競技会における 800m 競走は、それぞれのレーンで 1 名または 2 名の競技者が走ってもよいし、弧形のライン後方からスタートするグループスタートでもよい。ワールドランキングコンペティション定義 1.(a)、(b)、(c) と 2.(a)、(b) に該当する競技会においては、同着で、あるいは審判長またはジュリーの判断で次のラウンドに進出する競技者の数が増えた場合を除いて、このスタート方式は予選にのみ適用することが望ましい。~~	**800m 競走では、各レーンに 1 人または 2 人の選手を割り当てて行うことができる。** **但し、ワールドランキングコンペティション定義 1.(a)、(b)、(c)および 2.(a)、(b)に該当する競技会では、同成績あるいは審判長またはジュリーの判断で次のラウンドに進出する競技者の数が利用可能なレーン数を超える場合を除き、1 レーンに 2 人の競技者を割り当てることは、通常、最初のラウンドでのみとする。** **ワールドランキングコンペティション定義 1.(e)、2.(e)および 3.に該当する競技会では、800m 競走は弧状のスタートラインの使用や、グループスタートをさせることで、レーンを使用せずに実施することもできる。**
TR22.7	TR22.6.1 および 22.6.2 の場合を除いて、ハードルを倒しても失格にしてはならない。また記録も認められる。	TR22.6.**2** および 22.6.**3** の場合を除いて、ハードルを倒しても失格にしてはならない。また記録も認められる。
TR23.5 〔国際〕	障害物の標準の高さは、男子・U20 男子が 914 ㎜(±3 ㎜)、U18 男子が 838 ㎜(±3 ㎜)、女子が 762 ㎜(±3 ㎜)、幅は少なくとも 3m940 とする。障害物の最上部のバーと水濠に接した障害物の最上部のバーは 127 ㎜(±3 ㎜)の正方形とする	障害物の標準の高さは、男子・U20 男子が 914 ㎜(±3 ㎜)、U18 男子が 838 ㎜(±3 ㎜)、**女子・U20 女子・U18 女子**が 762 ㎜(±3 ㎜)、幅は少なくとも 3m940 とする。障害物の最上部のバーと水濠に接した障害物の最上部のバーは 127 ㎜(±3 ㎜)の正方形とする

TR24.3	… レーン内で行われる各バトンの受け渡しについて、担当する競技役員は、各競技者が正しいテイク・オーバー・ゾーンの位置にいることを確認する。その競技役員は TR24.4（マーカーの数とサイズ）が確実に遵守されるようにしなければならない。	… レーン内で行われる各バトンの受け渡しについて、担当する**監察員**は、各競技者が正しいテイク・オーバー・ゾーンの位置にいることを確認する。その**監察員**は TR24.4（マーカーの数とサイズ）が確実に遵守されるようにしなければならない。
TR24.4	… 規則に違反しているマーカーがあれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がすよう、審判員は当該競技者を指導する。指導に従わない場合は、審判員が剥がさなくてはならない。	… 規則に違反しているマーカーがあれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がすよう、**監察員**は当該競技者を指導する。指導に従わない場合は、**監察員**が剥がさなくてはならない。
TR24.5	… 競技者はバトンを受け取りやすくする目的で手袋をはめたり、TR6.4.3 で認められた以外の何かを手に付けたりすることはできない。	… 競技者はバトンを受け取りやすくする目的で手袋をはめたり、TR6.4.3 で認められた以外の何かを手**やバトンに**付けたりすることはできない。 **この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。**
TR25.3.2	サークルから行う投てき競技では、マーカーを 1 個だけ使用することができる。このマーカーはサークルの直後あるいはサークルに接して置くことができるが、線上や着地場所に置くことはできない。…	サークルから行う投てき競技では、マーカーを 1 個だけ使用することができる。このマーカーはサークルの**すぐ後ろ、あるいはサークルに接する地面にのみに**置くことができるが、線上や着地場所に置くことはできない。…
TR25.6	… 前半の 3 回の各試技のラウンドで有効試技が一つもない 1 名以上の競技者にも後半の試技が許されるが、その試技順は有効試技のある競技者の前とし、複数いる場合は当初のスタートリスト順とする。	… 前半の 3 回の各試技のラウンドで有効試技が一つもない 1 名以上の競技者にも後半の試技が許されるが、そのような競技者の試技順は有効試技のある競技者の前とし、複数**の競技者が**いる場合は当初のスタートリスト順とする。
TR25.17	… 棒高跳における時間は、競技者からの事前の申告に従ってバーが調整された時から開始する。~~さらに調整するための追加時間は認められない。~~	… 棒高跳における時間は、競技者からの事前の申告に従ってバーが調整された時から開始する**。**
TR25.17 〔注意〕 i	… 加えて試技に許される時間（試技時間）が残り 15 秒になった時から、審判員は通常、黄旗を挙げ続けるか、その他の方法で適切に知らせる。黄旗以外の視覚的な表示物を使用することも認められる。	… 加えて試技に許される時間（試技時間）が残り 15 秒になった時から、審判員は通常、黄旗を挙げ**続ける。**黄旗以外の視覚的な表示物を使用することも認められる。
TR25.17 〔注意〕 ii	走高跳と棒高跳の場合、試技時間の変更は（同じ高さで先に試技をした競技者が競技を終え、人数が減っても）連続試技である場合を除き、バーが新しい高さに上げられるまで適用しない。	走高跳と棒高跳の場合、試技時間の変更は（同じ高さで先に試技をした競技者が競技を終え、人数が減っても）連続試技である場合を除き、バーが新しい高さに**置かれる**まで適用しない。
TR26.2	走高跳と棒高跳において他の全ての競技者が競技を終えていて、ある競技者がその場に不在の場合、与えられた試技時間が経過した後、審判長はその競技者は競技を放棄したと見なすものとする。	走高跳と棒高跳において他の全ての競技者が競技を終**えた時に、一人以上の**競技者がその場に不在の場合、与えられた試技時間が経過した後、審判長はその競技者は競技を放棄したと**見なす。**
TR26.2 ｸﾞﾘｰﾝ	TR26.2 において、高さを競う跳躍ではある高さを 1 回目または 2 回目の試技でクリアした場合には、同じ高さの 2 回目または 3 回目を跳躍することは・・・	TR26.2 において、高さを競う跳躍ではある高さを 1 回目または 2 回目の試技で**パス**した場合には、同じ高さの 2 回目または 3 回目を跳躍することは・・・
TR26.8.4 ｸﾞﾘｰﾝ	ジャンプオフを終了するには、いくつかの方法がある。	ジャンプオフを**キャンセルしたり**終了**したり**するには、いくつかの方法がある。
TR26.9	―	〔国内〕 **上位大会出場枠の最終順位に同順位の競技者がいた場合、その出場者の決定にあたっては、1 位決定のジャンプオフ方式を適用することができる。**

TR26.9.5	A、B、C、D、Eはいずれも1m88を2回目に成功した。 ＜TR26.8および26.9の適用方法＞ 審判員は同記録を生じた高さを含む無効試技数を数える。EはA,B,C,Dよりも無効試技数が多いので第5位となる。	A、B、C、D、Eはいずれも1m88を2回目に成功した。 ＜TR26.8および26.9の適用方法＞ **4人の競技者全員が、最後に跳んだ高さを同じ回数でクリアした。**審判員は同記録を生じた高さを含む無効試技数を数える。EはA,B,C,Dよりも無効試技数が多いので第5位となる。
TR26.10.2	その他の状況では、新試技が許される。	その他の状況では、**代替**試技が**認められる。**
TR27.8	… バー止はバーとバー止の表面が摩擦を増加する効果のあるゴムや他の材質で覆ってはならない。また、バネのようなものも一切使用してはならない。	… バー止は、**ゴムで、あるいはバーの両端部との間の摩擦を増加させる効果のあるその他の材質で作られたり、覆われたりしてはならない。**また、バネのようなものも一切使用してはならない。
TR28.1	… もし、競技者がバーの位置の変更を求めた時は、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に審判員に申し出る。~~これを怠って変更しようとする場合は、新しい位置にセットする時間も制限時間に含まれる。~~試技時間が開始されたら、バーの高さをそれ以上変更することはできない。	… もし、競技者がバーの位置の**変更を希望する時は、**事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に、審判員に申し出る。試技時間が開始されたら、**バーの位置を**それ以上変更することはできない。
TR28.10	… バー止はバーとバー止の表面が摩擦を増加する効果のあるゴムや他の材質で覆ってはならない。また、バネのようなものも一切使用してはならない。	… バー止は、**ゴムで、あるいはバーの両端部との間の摩擦を増加させる効果のあるその他の材質で作られたり、覆われたりしてはならない。**また、バネのようなものも一切使用してはならない。
TR28.10 〔注意〕	競技者が支柱の基部に落下して怪我をすることを防ぐために、バー止は支柱に恒久的に取りつけられた張出し部分につけてもよく、こうすることでバーの長さを延長することなく支柱の間隔を拡げることができる。	競技者が支柱の基部に落下して怪我をすることを防ぐために、バー止は支柱に恒久的に取りつけられた**支持部分の上に**つけてもよく、こうすることでバーの長さを**延ばす**ことなく支柱の間隔を拡げることができる。
TR29.9	跳躍の計測は有効試技終了後…、直ちに行わなければならない。跳躍距離は身体の一部または身に付けていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、…。	跳躍の計測は有効試技終了後…、直ちに行わなければならない。跳躍距離は身体の一部または**着地する瞬間に身に着けていたもの**が着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、…。
TR30.1 ｸﾞﾘｰﾝ	（TR30.3から移動）	TR30.1.1 は踏切時の靴と足の前部の位置に着目しており、･･･関係がない。 同様に、靴紐の緩みなどが垂直面を出たとしても、判定には関係ない。
TR30.3 ｸﾞﾘｰﾝ	TR30.1.1 は踏切時の靴と足の前部の位置に着目しており、･･･関係がない。 同様に、靴紐の緩みなどが垂直面を出たとしても、判定には関係ない。	（TR30.1 へ移動）
TR32.1 〔国内〕	ワールドランキングコンペティションでは WA 認証品のみを使用する。但し、WA 認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。	ワールドランキングコンペティションでは、**本連盟検定品かつ** WA 認証品のみを使用する。但し、WA 認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。

TR32.7 図		寸法表示部分 **厚み 6mm 以上×深さ 70～80mm**
TR32.14.2 〔注意〕 ↓ TR32.14 〔注意〕	… また、靴の緩んだ部分（靴紐など）や衣服、身体につけていたその他のアイテム（帽子など）が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない。	**ⅰ 靴の緩んだ部分（靴紐など）や衣服、身体につけていたその他のアイテム（帽子など）が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない。**
TR32.14 〔注意〕	ⅰ 競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が… 見なす。 ⅱ 競技者の投げた円盤やハンマーの一部が… 見なさない。	**ⅱ** 競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が…見なす。 **ⅲ** 競技者の投げた円盤**また**はハンマーの一部が、…見なさない。
TR32.14 ｸﾞﾘｰﾝ	… TR32.14.2 が意図しているのは、サークルの限界を定めた目的を重視し、競技者がサークルから正しく出るまでサークル内に留まることを遵守させることである。	… **TR32.14〔注意〕ⅰが追加されたことにより、**TR32.14.2 **～32.14.4** が意図しているのは、サークル**または助走路の制限を設けている**目的を重視し、競技者が**正しく出るまでサークルまたは助走路内に**留まる**ようにすることであることが確認できる。**
TR32.16	砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、角度線や角度線の外側地面、あるいは他の物体（TR32.14〔注意〕ⅱによる囲いを除く）に触れた場合は、無効試技とする。	砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、角度線や角度線の外側地面に**触れた場合は無効試技とする。このほか、投てき後、地面に接する前に砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が角度線の外側にある**物体（TR32.14〔注意〕ⅱによる囲いを除く）に触れた場合は無効試技とする。
TR32.17	~~投げた用具（投てき物）が着地する前に競技者がサークルや助走路から出た場合や~~以下の場合は、無効試技とする。 32.17.1 サークルからの投てきではサークルを出る際に、… 〔注意〕 縁枠の上部…離脱と見なす。 32.17.2 やり投では競技者が助走路を離れる際に、…	**以下の場合は無効試技とする。** **32.17.1 投げた用具（投てき物）が着地する前に競技者がサークルや助走路から出た時。** 32.17.**2** サークルからの投てきではサークルを出る際に、… 〔注意〕 縁枠の上部…離脱と見なす。 32.17.**3** やり投では競技者が助走路を離れる際に、…
TR32.17 ｸﾞﾘｰﾝ	TR32.17.2の2番目と3番目の文章は判定の過程をスピードアップすることが目的であり、競技者にさらなる無効試技を課するためのものではない。	TR32.17.**3** の 2 番目と 3 番目の文章は判定の過程をスピードアップすることが目的であり、競技者にさらなる無効試技を**課す**ためのものではない。
TR34.1	… 縁の曲線部の始めから円盤の厚みは、縁の最大厚のDの部分まで規則的に増加する。	… 縁の曲線部の始めから円盤の厚みは、**最大の厚さ値**Dの部分まで規則的に増加する。
TR35.4 〔国際〕	網目の中心の大きさは、紐で作られた場合は最大45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mm とする。目の大きさは、紐で作られた場合は最大45mm とする。	**隣接する網目の中心間の距離は、**紐で作られた場合は最大 45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mm とする。

TR37.4 〔注意〕 i	左側の可動パネルは~~右投げの~~競技者、右側のパネルは~~左投げの~~競技者のために使用される。~~右投げ、左投げ~~両方の競技者が参加している競技会で、一方の可動パネルと他方のパネルを動かす必要がある場合、…	左側の可動パネルは**反時計回りで投げる**競技者、右側のパネルは**時計回りで投げる**競技者のために使用される。**反時計回り、時計回りの**両方の競技者が参加している競技会で、一方の可動パネルと他方のパネルを動かす必要がある場合、…
TR37.5 〔国際〕	網目の中心の大きさは、紐で作られた場合は最大45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mm とする。目の大きさは、紐で作られた場合は最大45mm とする。	**隣接する網目の中心間の距離は、**紐で作られた場合は最大 45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mm とする。
TR38.2 ｸﾞﾘｰﾝ	（TR38.3から移動）	**以前の規則で使われていたやりの「先端」という表現は削除され、…または「後部から先に」着地した場合は依然として無効試技であり、判定時には赤旗を示す。**
TR38.3	投げる用意をしてからやりが空中に投げられるまでの間に、競技者はその背面をスターティング・ラインに向けるように完全に回転させることはできない。	投げる用意をしてからやりが空中に投げられるまでの間に、競技者はその背面をスターティング・ラインに向けるように完全に回転させることはできない。 **〔注意〕** **この規則は助走と投げる動作に関するものであり、投げる動作を始める前や、投げる動作を中断して後ろに下がることに関するものではない。**
TR38.3 ｸﾞﾘｰﾝ	以前の規則で使われていたやりの「先端」という表現は削除され、…または「後部から先に」着地した場合は依然として無効試技であり、判定時には赤旗を示す。	（TR38.2へ移動）
TR38.11 図		重さ **末尾部分（カッコ部分）削除**
TR41.3 WA	全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ 6 mm のスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。	全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ 6 mm のスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。**但し、トラック舗装材業者または競技場施設管理者は、最大 9mm のスパイクの使用を認めることができる。**
TR43.1	… 縁石または白線の内側の端はトラック全体を通して水平でなければならない。この縁石または白線はトラックの傾斜部分の長さ全体にわたって傾斜や勾配を考慮し、傾斜面に沿って配置する。~~二つの直走路の縁石を取り除き、50 ㎜幅の白線で代用しても良い。~~	… 縁石または白線の内側の端はトラック全体を通して水平でなければならない。この縁石または白線はトラックの傾斜部分の長さ全体にわたって傾斜や勾配を考慮し、傾斜面に沿って配置する。
TR44.6 〔注意〕i ↓ **TR44.6.3 〔注意〕 i**	ワールドランキングコンペティション定義1.(a)、(b)、(c) と2.(a)、(b)に該当しない競技会においては、800mについては参加チームの合意によりレーンを使用しないで行うことができる。	ワールドランキングコンペティション定義 **1.(e)と 2.(e)に該当する**競技会においては、800mについては参加チームの合意によりレーンを使用しないで行うことができる。
TR44.6 〔注意〕ii ↓ **TR44.6.3 〔注意〕 ii**	6レーン未満のトラックでは、6人での競走を可能とするためにグループスタートを用いてもよい。	6 レーン未満のトラックでは、**6 人での競走で**グループスタートを用いてもよい。
TR52.3.3	扇形ラインをサークル中心から34.92度の角度で放射状に引いて完全な着地場所を設けるか、両側のラインを34.92度の扇方の中心線と平行にして設けてもよい。着地場所を示すラインを平行にするにあたっては、両方のラインの間隔は最小9mでなくてはならない。	**扇形ラインをサークル中心から 34.92 度の角度で放射状に、着地場所の幅が少なくとも 9m になるまで引く。そこからは着地場所の中心線と平行になるように引く。**

<table>
<tr><td>TR54.1</td><td>競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000m とし、400m トラックでは 5,000m 、 10,000m 、 20,000m 、 35,000m 、50,000m とする。道路のコースでは10km, 20km, 35km, 50km とする。</td><td>(2025 年 12 月 31 日まで)
競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは 3,000m、5,000m とし、400m トラックでは 5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000m とする。道路のコースでは 10km, 20km, 35km, 50km とする。
(2026 年 1 月 1 日から)
競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは 3,000m、5,000m とし、400m トラックでは 5,000m、10,000m、ハーフマラソン(21, 097.5 m)、マラソン (42,195m)、50,000m とする。道路のコースでは 10km, ハーフマラソン(21.0975 km)、マラソン (42.195 km)、50km とする。</td></tr>
<tr><td>TR54.4.1
〔国内〕 ii</td><td>TR54.4.1 に定める特定の競技会以外の競技会で、主任単独による失格権限を適用する場合には、主催者は本連盟に事前に申告するものとする。なお、その場合の競歩審判員主任は JRWJ とする。</td><td>R54.4.1 に定める特定の競技会の主任は WARWJ または JRWJ とする。また、それ以外の競技会で主任単独による失格権限を適用する場合には、主催者は本連盟に事前に申告するものとする。なお、その場合の競歩審判員主任は JRWJ とする。</td></tr>
<tr><td>TR54.7.3</td><td><table><tr><th>距離（その長さを含む）</th><th>時間</th></tr><tr><td>5,000m・ 5km まで</td><td>30 秒</td></tr><tr><td>10,000m・10km まで</td><td>1 分</td></tr><tr><td>20,000m・20km まで</td><td>2 分</td></tr><tr><td>30,000m・30km まで</td><td>3 分</td></tr><tr><td>35,000m・35km まで</td><td>3 分 30 秒</td></tr><tr><td>40,000m・40km まで</td><td>4 分</td></tr><tr><td>50,000m・50km まで</td><td>5 分</td></tr></table></td><td>(2025 年 12 月 31 日まで)<table><tr><th>距離（その長さを含む）</th><th>時間</th></tr><tr><td>5,000m・ 5km まで</td><td>30 秒</td></tr><tr><td>10,000m・10km まで</td><td>1 分</td></tr><tr><td>20,000m・20km まで</td><td>2 分</td></tr><tr><td>30,000m・30km まで</td><td>3 分</td></tr><tr><td>35,000m・35km まで</td><td>3 分 30 秒</td></tr><tr><td>40,000m・40km まで</td><td>4 分</td></tr><tr><td>50,000m・50km まで</td><td>5 分</td></tr></table>(2026 年 1 月 1 日から)<table><tr><th>距離（その長さを含む）</th><th>時間</th></tr><tr><td>5,000m・ 5km まで</td><td>30 秒</td></tr><tr><td>10,000m・10km まで</td><td>1 分</td></tr><tr><td>21,097.5m・21 km 0975 まで</td><td>2 分</td></tr><tr><td>30,000m・30km まで</td><td>3 分</td></tr><tr><td>42,195m・42 km 195 まで</td><td>4 分</td></tr><tr><td>50,000m・50km まで</td><td>5 分</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>TR54.7.5</td><td>TR54.7.3を適用するいかなる場合でも、…行われなければならない。もし、通知を怠ったとしても、当該競技者の失格が取り消されることはない。</td><td>TR54.7.3 を適用するいかなる場合でも、…行われなければならない。但し、告知ができなくとも失格した競技者の失格が取り消しとなることはない。</td></tr>
<tr><td>TR54.10.5</td><td>（TR54.10.6から移動）</td><td>…競技者を妨害してはならない。
いかなる状況にあっても飲食物や水を取る際、競技役員や承認を得た者であっても競技者と並んで移動してはならない。</td></tr>
<tr><td>TR54.10.6</td><td>…
いかなる状況にあっても飲食物や水を取る際、競技役員や承認を得た者であっても競技者と並んで移動してはならない。</td><td>（TR54.10.5 へ移動）</td></tr>
<tr><td>TR55.1</td><td>道路競走の標準となる距離は 1 マイル、5 km、10 km、15 km、20 km、ハーフマラソン、25 km、30 km、マラソン(42 km 195)、50 km、100 kmおよびロードリレーとする。</td><td>道路競走の標準となる距離は 1 マイル(1,609.344m)、5 km、10 km、15 km、10 マイル(16 km 09344)、20 km、ハーフマラソン (21 km 0975)、25 km、30 km、マラソン(42 km 195)、50 km、100 kmおよびロードリレーとする。</td></tr>
</table>

【公認審判員規程】

P.336	公認審判員として登録会員規程第2条に抵触した者は同規程第17条により登録会員処分規程に定められた処分の対象となる。	公認審判員として登録会員規程第２条に抵触した者は同規程**第 15 条**により登録会員処分規程に定められた処分の対象となる。

【陸上競技場公認に関する細則　別表２】

P.414	競歩用掲示板 縦1000㎜×横800㎜	競歩用掲示板 縦 **860**mm 以上×横 800mm 以上

2025年度競技規則修改正のポイント

2025年2月15日
日本陸上競技連盟
競技運営委員会

競技規則等の入手方法

競技規則等の入手方法

●WAの競技規則等の開示

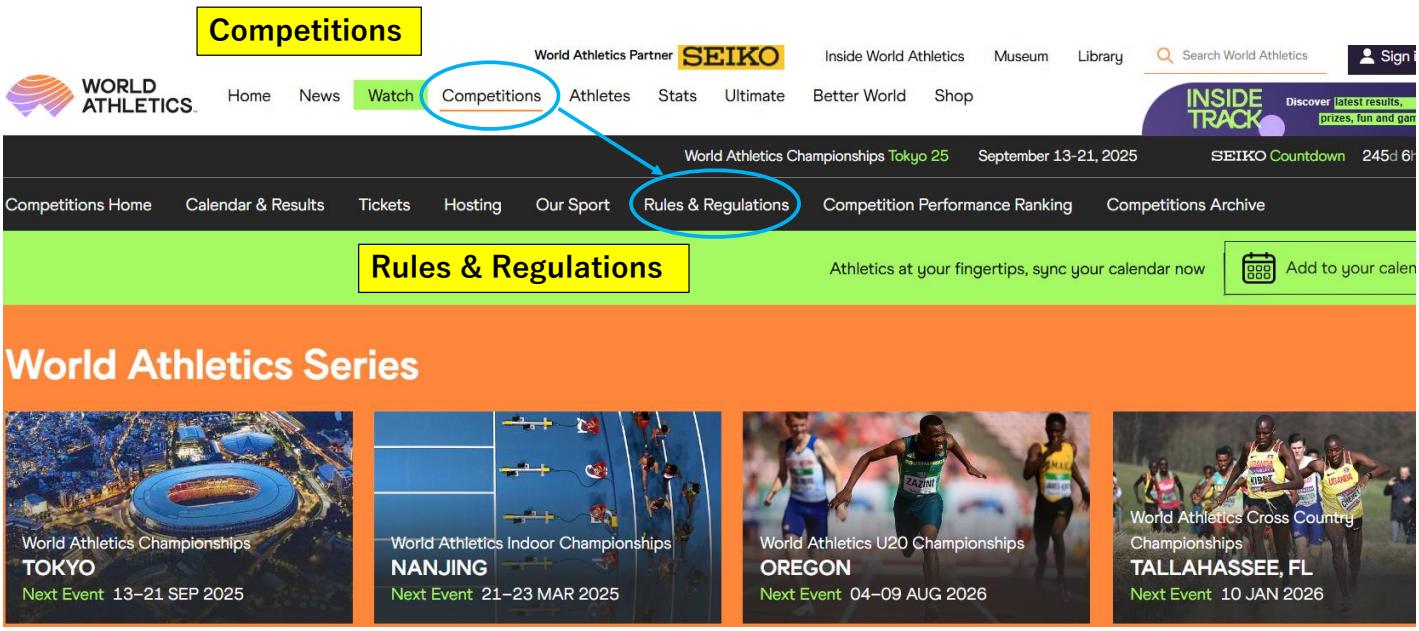
➢紙ベースのルールブック（COMPETITION AND TECHNICAL RULES）廃止
➢全て　WAのWebサイト（ホームページ）を通じて

●JAAFの競技規則等の開示方法

➢紙ベースの「ルールブック」およびJAAFのWebサイト（ホームページ）

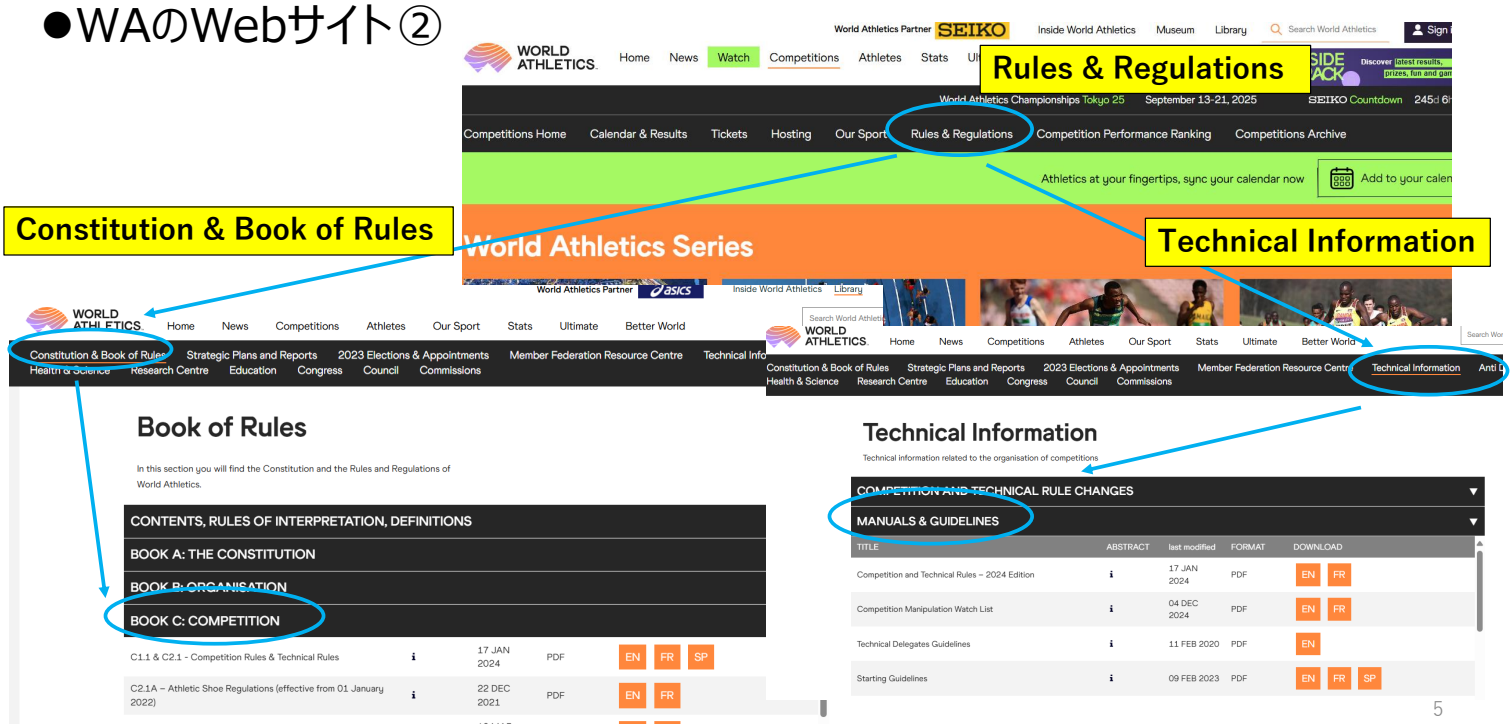
競技規則等の入手方法

●WAのWebサイト①　https://worldathletics.org



競技規則等の入手方法

●WAのWebサイト②



競技規則等の入手方法

●WAのWebサイト③

Book of Rules

Technical Information

BOOK B: ORGANISATION				
BOOK C: COMPETITION				
C1.1 & C2.1 - Competition Rules & Technical Rules	ℹ	29 JAN 2025	PDF	
C2.1A – Athletic Shoe Regulations (effective from 01 January 2022)	ℹ	22 DEC 2021	PDF	
C2.1B - Mechanical Aids Regulations	ℹ	10 MAR 2022	PDF	
C1.2 - World Athletics Series Regulations	ℹ	08 OCT 2023	PDF	
C1.2 WAS Regulations Appendix 1 - International Delegates & Officials	ℹ	08 OCT 2023	PDF	
C1.2 WAS Regulations Appendix 2 - Travel, Accommodation & Awards	ℹ	08 OCT 2023	PDF	
C1.2 WAS Regulations Appendix 3 - Entries & Deadlines	ℹ	08 OCT 2023	PDF	
C1.2 WAS Regulations Appendix 4 - Table of Subsidies - Team	ℹ	08 OCT	PDF	

MANUALS & GUIDELINES				
Competition Manipulation Watch List	ℹ	04 DEC 2024	PDF	EN
Technical Delegates Guidelines	ℹ	11 FEB 2020	PDF	EN
Starting Guidelines	ℹ	09 FEB 2023	PDF	EN
Photo Finish Guidelines	ℹ	11 FEB 2020	PDF	EN
Video Recording and Video Referee Guidelines	ℹ	09 FEB 2021	PDF	EN
International Technical Officials (ITO) Guidelines	ℹ	11 FEB 2020	PDF	EN
Track and Field Facilities Manual 2019 Edition - Chapters 1-3	ℹ	31 OCT 2019	PDF	EN
Track and Field Facilities Manual 2008 Edition - Chapters 4-8	ℹ	23 DEC 2021	PDF	EN
CERTIFICATION SYSTEM				

競技規則等の入手方法

●WAのWebサイト④

Technical Information

➢ 投てき物WA認証品リスト

CERTIFICATION SYSTEM

CERTIFICATES - Certified Competition Throwing Implements	i	01 FEB 2025	PDF	EN

➢ 競技用靴WA認証品リスト

ATHLETIC SHOES

TITLE	ABSTRACT	last modified	FORMAT	DOWN
List of approved athletic shoes - certcheck.worldathletics.org	i	20 APR 2024	PDF	EN

競技用靴チェックシステム
https://certcheck.worldathletics.org

競技規則等の入手方法

●JAAFのWebサイト①　https://www.jaaf.or.jp

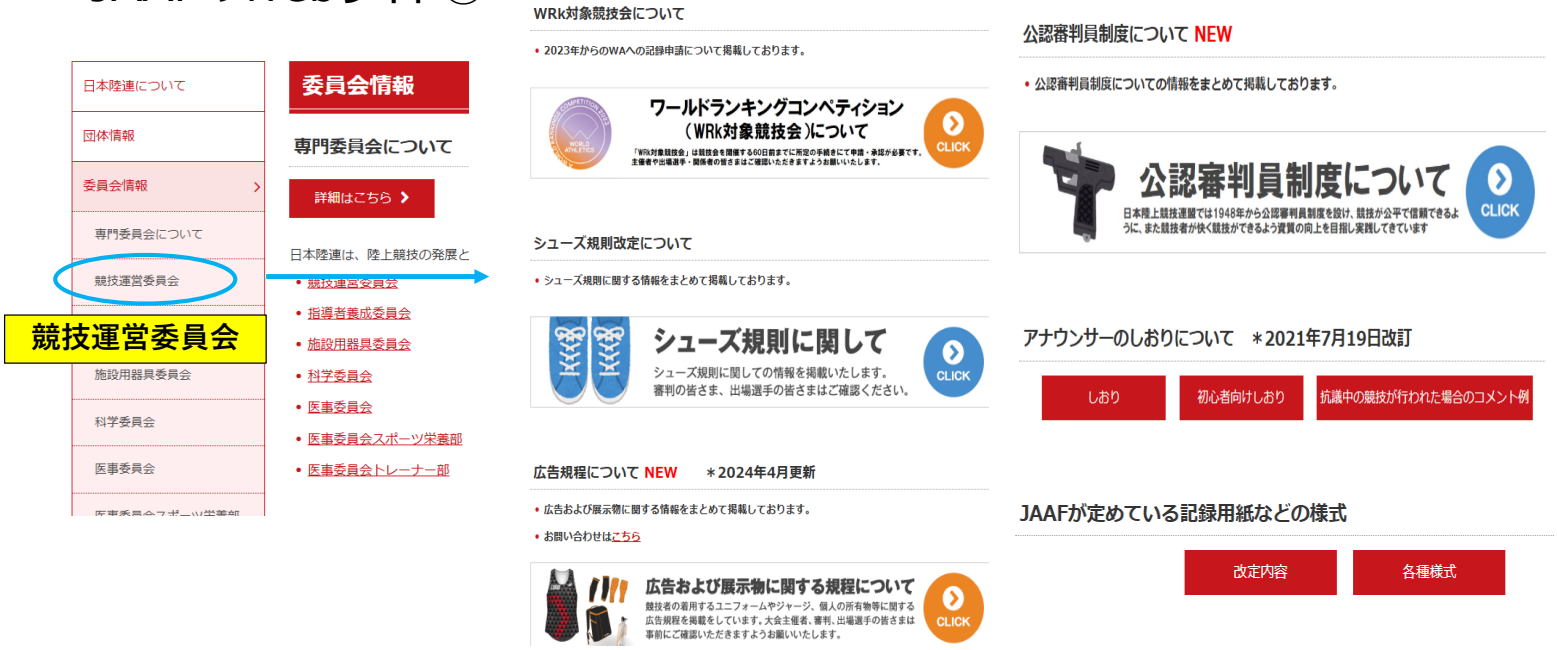
委員会情報

競技規則等の入手方法

●JAAFのWebサイト②

競技規則等の入手方法

●JAAFのWebサイト③



2025年度修改正案　概要

競技規則修改正のタイミング

●WAの競技規則修改正のタイミング

- ➢従前は　：（基本）毎年8月のCouncil（評議会）で決定、11月～実施
- ➢最近は　：年3回程度行われるCouncil（評議会）の都度決定。即時実施が多い
  軽微なものや運用に関しては不定期に　Circular（通達）で

●JAAFの競技規則修改正の流れ・タイミング

- ➢2月　　全国競技運営責任者運営会議
- ➢3月　　理事会
- ➢4月～　実施

⇒　WAの修改正タイミングとJAAF修改正タイミングに「ズレ」あり

2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR22.6　スタート時のスターターと審判長の役割の明確化**

・スターター：不正スタートの判断
・審判長　：スタート時における不適切行為の判断

2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR25.4　結果に用いる略号の使い方**

“ **r** ”：試技放棄・離脱

（背景）　混成競技で途中で棄権したにもかかわらず、得点表に“ r ”を記載するケースあり。　正しくは”DNF”

（修改正前）　フィールド競技・混成競技
↓
（修改正後）　フィールド種目（含む、混成競技のフィールド種目）

2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR32およびCR34　世界記録･日本記録の対象種目の変更**

【競歩競技】
- TR54.1にて競歩競技の標準となる距離が変更されることによるもの

（2026/1～追加）
- ✓トラック　　ハーフマラソン（21,097.5m）・マラソン（42,195m）
- ✓道路　　ハーフマラソン（21㎞0975）　・マラソン（42㎞195）

2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR34.4.6　競歩競技の日本記録認定要件**

（修改正前）少なくとも1人のJRWJ以上の資格を持った競歩審判員が
競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名

↓

（修改正後）少なくとも3人のJRWJ以上の資格を持った競歩審判員が
競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名

2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR34.10〔注意〕 日本記録の記号①**

（背景）

WAは2024年1月から各国のナショナルレコードはWRk大会でマークされた記録のみを新たに認定(Circularで通知)

JAAFは非WRk大会でマークされた記録も日本記録と認定することに変更なし

このためWAが認める記録とJAAFが認める記録が一致しないケースが発生

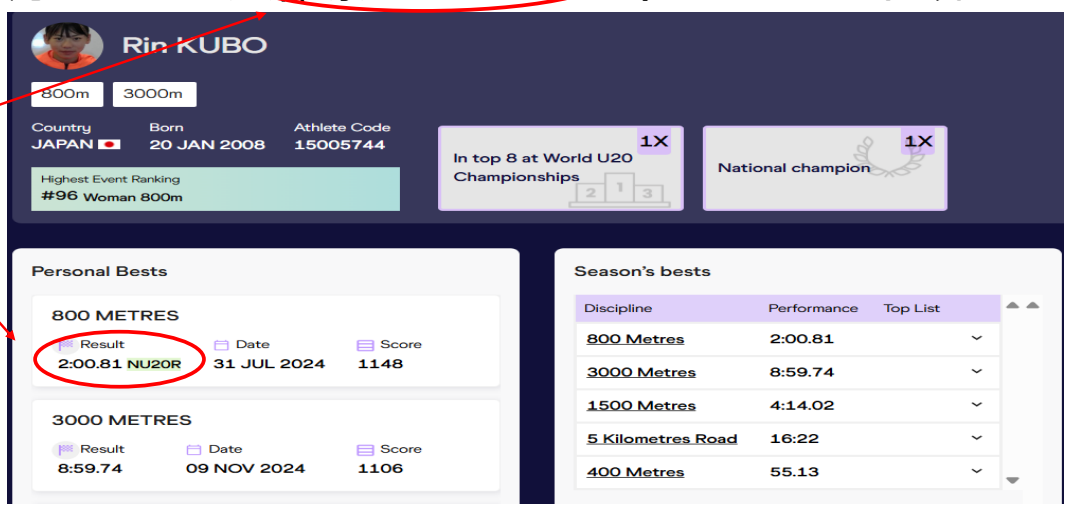
2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR34.10〔注意〕 日本記録の記号②**

（WAが認める記録とJAAFが認める記録が一致しないケース）

女子800m　久保凛　1’59”93　（2024.7.15／非WRk競技会）

不一致！



2025年度修改正　競技会規則【CR】

- **CR34.10〔注意〕 日本記録の記号③**

（修改正） 2024年1月以降の記録で、非WRk競技会でマークされた日本記録がWRk競技会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて区別
（それ以前の記録で、引続き日本記録であるものには略号なし）

(W)：WRk競技会でマークされた日本記録
(Ｊ)：非WRk競技会でマークされた日本記録

【例】女子800m （W） 2’00”45 杉森美保 （2005.6.5）
（Ｊ） 1’59”93 久保凛 （2024.7.15）

競技規則【TR】

- **TR8　抗議と上訴**

（修改正）〔注釈〕 上訴を行うことができるのは、ジュリーが置かれている競技会のみ

- **TR8.6　フィールド競技で現場抗議が行われた際（TR8.5）の記録の扱い**

（現状）〔国際〕・・・ その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかにに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効

↓

（修改正）〔国内〕 TR8.5を適用した場合は、当規則も適用

競技規則【TR】

- **TR11.4〔国内〕 上位大会進出のため追加試技を行った際の記録の扱い**

（背景）

- 高さを競う競技で、上位大会出場枠が6名であるのに対して、6位までの選手が７名以上いた場合、上位大会進出者6名を決めるために追加試技を行うケースあり。
- 第1位以外の順位は「同成績者は同順位」とするため（TR26.8）、追加試技の順位は本試技の順位には無関係だが、これまで追加試技の記録の扱いが明示されず。

（修改正）

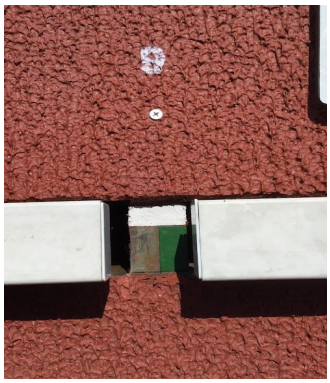
- 上位大会出場者の選出方法は主催者判断。抽選、追加レース、追加試技のいずれでも可
- 追加レースや追加試技で達成された記録は、当該競技会での順位決定とは無関係であるが、個人（チーム）の最高記録、ランキング、参加標準記録といった目的では有効なものとして取り扱われる。

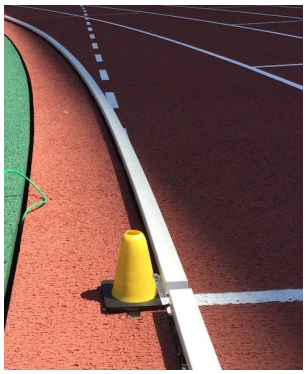
競技規則【TR】

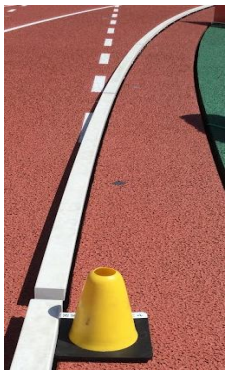
- **TR14.1〔注意〕 曲走路と直走路の変わる位置のマーク**

（修改正）

- TR17.3.3、17.3.4への対応
  （直走路部分で内側に入った・踏んだ、曲走路部分で内側に入った・踏んだ）
- コーナーの入口・出口で曲走路から直走路、直送とから曲走路に変わる位置がわかるように、そのポイントのトラック内側にコーンを設置する（第一コーナーは除く）







競技規則【TR】

- **TR17.5.1〔国内〕 500m･600mの競技方法**
  - ➢2024年度より国内の「記録公認対象」種目となった両種目の競技方法を明示
    （昨年度の全国競技運営責任者会議にて説明済）

【500m競走】
- ・完全セパレートレーンで実施
- ・第二曲走路に100mのスタートラインを基準とした階段スタートラインを設定。
- ・実施できるのは、スタート位置の標識が設置されている競技場に限る。

【600m競走】
- ・セパレートレーンでスタートし、途中からオープンレーンで実施
- ・第二曲走路に400mと同様の階段スタートラインを対称的に設定。スタート位置は、メドレーリレーの2走のスタート位置
- ・300mまでは（曲走路を2回走るまでは）セパレートレーンとし、通常の800m競走のブレークラインからオープンレーン。
- ・メドレーリレーの1走のスタート位置の標識が設置されている競技場に限る。

競技規則【TR】

- **TR17.12〔国内〕 風力計測**
  - ➢2024年度より国内の「記録公認対象」種目となった150mの風力計測時間を明示

（現状）	55m	5秒間
	55mハードル	5秒間
		↓
（修改正）	55m	5秒間
	55mハードル	5秒間
	150m	10秒間（計測方法は200mと同じ）

競技規則【TR】

- **TR17.15.3　トラック競技における給水・スポンジ**

（現状）　競技者はいつでも、スタート地点や主催者が設置した供給所で受取った水や飲食物を手に持ったり身体につけたりして持ち運んでもよい。

↓

（修改正）競技者は、スタート地点から持ち込んだり、主催者が設置した供給所で受取ったりした水や飲食物を、いつでも手に持ったり身体につけたりして競技を行っても良い。

競技規則【TR】

- **TR20.2.3〔国際〕 トラック競技における予選の番組編成**

（現状）　番組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、もっともよい記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。

↓

（修改正）予選ラウンドが実施される際の組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、もっともよい記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。

可能な限り同じ加盟団体またはチームの競技者だけなく、ランキングの上位記録を持つ競技者が予選の同じ組に入らないようにすることも含まれる。

こうした組合せの調整は、番組編成の原案が出た直後に、レーンを決める前に行う必要がある。

こうした変更を行った後、各組のレベルが可能な限り均等になっているか最終チェックを行う。

競技規則【TR】

- **TR20.3　ランキングと予選の組み合わせ①**

TR20.3.1

（現状）　最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、ジグザク配置によって予選の組を決める。

↓

（修改正）最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、順位付けを行う。

TR20.3.2

予選ラウンド等を行った場合、次のラウンドの組の編成は前のラウンドの成績によって行う。

TR20.3.3

TR20.3.1，20.3.2のどちらも（最初のラウンドもそれ以降のラウンドも）それぞれ順位付けを行ない競技者をジグザグに配置する。

競技規則【TR】

- **TR26.9.5〔国内〕 上位大会出場枠決定のための試技方法（高さを競う跳躍）**

（背景）　IH予選などで、上位大会進出枠の人数が決まっているのに同順位競技者が複数いて進出枠数を超える場合、上位大会進出者をどのように決めるか。

上位大会進出のための「別競技会」扱いとして、対象者で試技を行っているケースもあるが、競技方法については競技規則に定めていない。

（他種目）長さを競う種目：通常6回試技で「順位が明確」

トラック種目：「抽選」「追加レース」

↓

（修改正）〔国内〕上位大会出場者の最終順位に同順位の競技者がいた場合、その出場者の決定にあたっては、１位決定のジャンプオフ方式を適用することができる。

⇒ 主催者判断で 「抽選」でも「３回試技」でも「ジャンプオフ」でも可

（競技注意事項に明記）

競技規則【TR】

- **TR29.9　長さを競う跳躍競技の計測位置**

（現状）　跳躍の計測は有効試技終了後、直ちに行わなければならない。
跳躍距離は、身体の一部または身に付けていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線までを計測。

↓

（修改正）跳躍の計測は有効試技終了後、直ちに行わなければならない。
跳躍距離は身体の一部または着地する瞬間に身に付けていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線までを計測。

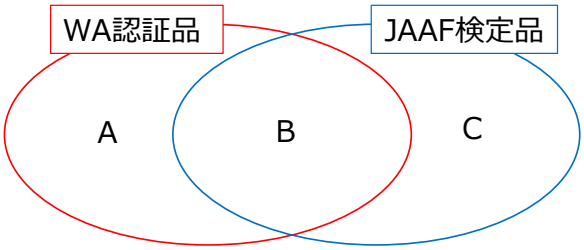
（例）　LJで、ジャンプを行った際に腕時計が外れて砂場に落ちたが、身体はその先の砂場に正しく着地した

⇒　計測する場所は　　×：腕時計が落ちた場所
○：身体が着地した場所

競技規則【TR】

- **TR32.1〔国内〕 WRk競技会で使用する投てき物①**
  - WAルールとJAAFルールの平仄の問題
    - ✓JAAF：国内競技会で使用する投てき物は「JAAF検定品」でなければならない
    - ✓WA:　 WR k で使用する投てき物はWAの認証品のみとする

⇒国内で行われるWRkで 「WA認証品だが、JAAF非検定品」をどう扱うか



	A	B	C
WA認証品	○	○	×
JAAF検定品	×	○	○

競技規則【TR】

- **TR32.1〔国内〕 WRk競技会で使用する投てき物②**

（現状）　ワールドランキングコンペティションではWA認証品のみを使用する。
但し、WA認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。

↓

（修改正）ワールドランキングコンペティションでは本連盟検定品かつWA認証品のみを使用する。但し、WA認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。

【前ページの図 「B」に合致するもの】

＜参考＞WA認証品か否かのチェック方法

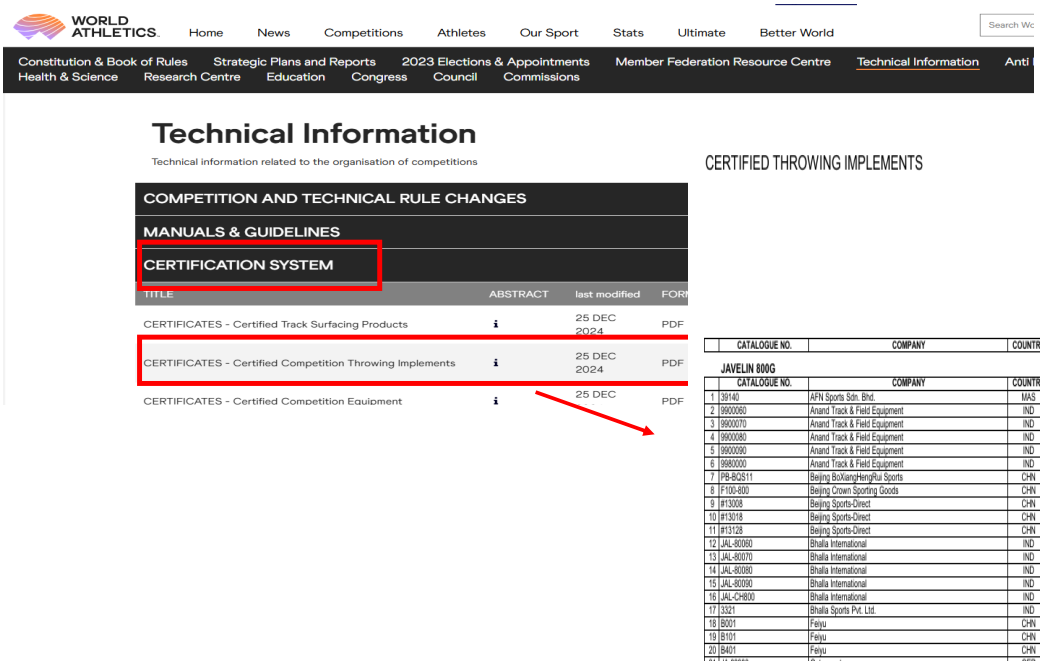
①個別投てき物の印字・貼られたシール

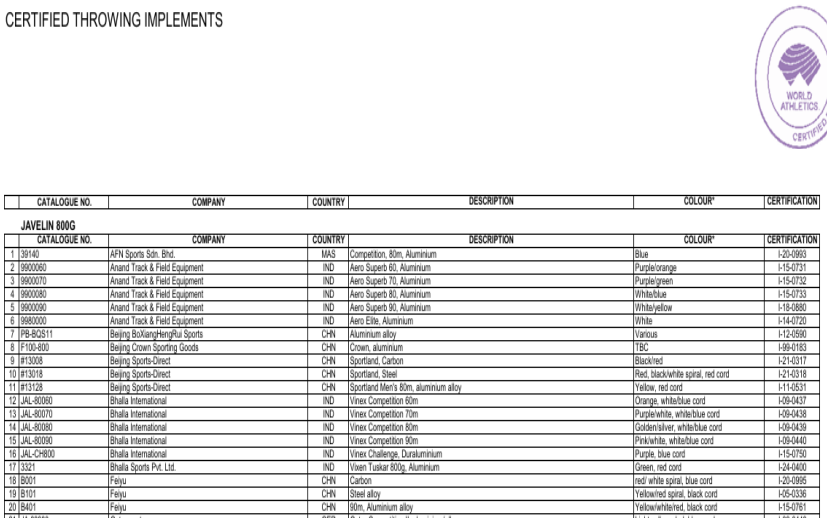
②WAのWebサイト掲載のリスト

https://worldathletics.org/about-iaaf/documents/technical-information

競技規則【TR】

- **TR32.1〔国内〕 WRk競技会で使用する投てき物③**





競技規則【TR】

- **TR37.4〔注意〕 ハンマー投の可動パネルに関連して**

（現状） 左側の可動パネルは右投げの競技者、右側のパネルは左投げの競技者のために使用される。右投げ、左投げ両方の競技者が参加している競技会で、一方の可動パネルと他方のパネルを動かす必要がある場合、…

↓

（背景） 競技者や監督・コーチ等での中に、「右投げ」「左投げ」の意味が正確に理解されていないケースが散見される

↓

（修改正） 左側の可動パネルは反時計回りで投げる競技者、右側のパネルは時計回りで投げる競技者のために使用される。反時計回り、時計回りの両方の競技者が参加している競技会で、一方の可動パネルと他方のパネルを動かす必要がある場合、…

競技規則【TR】

- **TR41.3 ショートトラック競技場で使用できるスパイクピンの長さ**

（現状） 全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ6 mmのスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。

↓

（修改正） 全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ6 mmのスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。

但し、トラック舗装材業者または競技場施設管理者は、最大 9mm のスパイクの使用を認めることができる。

（参考） ・競技用用靴に関する規程

§11.3 HJとJTを除きスパイクピンの長さは9mm（屋内6mm）以下

・ショートトラックは屋内とは限らない（1周200mまでのトラック） （TR40）

競技規則【TR】

- **TR54.4.1　競歩競技の標準となる距離**

（2025.12.31まで）

400mトラック：5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000m

道路のコース　：10km, 20km, 35km, 50km

↓

（2026.1.1から）

400mトラック：5,000m、10,000m、ハーフマラソン（21,097.5m）、マラソン（42,195m）、50,000m

道路のコース　：10km、ハーフマラソン（21.0975km）、マラソン（42.195km）、50km

競技規則【TR】

- **TR54.7.3　ペナルティゾーンでの待機時間**

（2025.12.31まで）

距離（その長さを含む）	時間
5,000m・ 5km まで	30 秒
10,000m・10km まで	1 分
20,000m・20km まで	2 分
30,000m・30km まで	3 分
35,000m・35km まで	3 分 30 秒
40,000m・40km まで	4 分
50,000m・50km まで	5 分

↓

（2026.1.1から）

距離（その長さを含む）	時間
5,000m・ 5km まで	30 秒
10,000m・10km まで	1 分
ハーフマラソン	2 分
30,000m・30km まで	3 分
マラソン	4 分
50,000m・50km まで	5 分

WRkと競技規則

WRk対象競技会定義①

- **ワールドランキングコンペティション定義①**
  （WA:GENERALLY APPLICABLE DEFINITION 参照）

WRk : World Ranking Competitions

1. WAが開催または認可する競技会:
   a. ワールド・アスレティックス・シリーズ（WAS）
   b. オリンピック競技大会
   c. 複数エリアからの参加者による総合競技大会の陸上競技プログラム
   d. 一日開催の大会、サーキットとラベルロードレース
   e. 複数エリアからの参加者による国際競技会

WRk対象競技会定義②

- **ワールドランキングコンペティション定義②**

2. エリア陸連が開催または認可する競技会
   a. エリア選手権
   b. エリア内選手権
   c. 参加者が単一のエリアに限定された総合競技大会の陸上競技プログラム
   d. 一日開催の大会、サーキットとラベルロードレース
   e. 国際対抗競技会（単一エリアからの参加者）

3. 加盟団体（各国陸連）が開催または認可する競技会:
   a. 各加盟団体選手権大会
      (世界陸上競技選手権大会よび世界室内陸上競技選手権大会に含まれる種目)
   b. WAの競技会規則（CR）および競技規則（TR）に従って開催され、WAによって定められた条件に従い、加盟団体が特定するその他の国内大会

⇒ 国内で開催されるWRkのほとんどが、この「3.」の競技会

WRk 競技会カテゴリー

https://worldathletics.org/world-ranking-rules/basics

- 大会カテゴリーに応じて、ランキング計算時のポイントが異なる

大会カテゴリー	競技会の例
OW	オリンピック/世界選手権
DF	ダイヤモンドリーグ ファイナル
GW	世界室内/ダイヤモンドリーグ･世界ロード/プラチナラベルマラソン 例：プラチナラベルマラソン（東京/大阪国際/名古屋）
GL	アジア選手権・混成ツアーゴールド（ゲティス・タレンス大会のみ）
A	各種ツアーゴールド（CT/混成/競歩クロカン/ゴールドラベルマラソン） 例：アジア大会／セイコーゴールデンGP／ゴールドラベルマラソン（福岡国際／大阪）
B	各種ツアーシルバー/ﾜｰﾙﾄﾞﾕﾆﾊﾞｰｼﾃｨｹﾞｰﾑｽﾞ/ 国内選手権例：日本選手権
C	各種ツアーブロンズ（CT/混成/競歩/クロカン/エリートラベルマラソン） 例：織田記念大会、木南記念大会、静岡国際大会、Yogibo Athletics Challenge Cup
D	CTチャレンジャー 例：日本グランプリシリーズG2加盟大会(兵庫RC/エディオンDCなど)
E	国別対抗戦・国際競技会・各国陸連が指定した国内競技会 例：日本グランプリシリーズG2加盟大会（Dカテゴリー以外）など
F	各国国内WRk対象公認競技会

WRk競技会定義と競技会カテゴリーの関係

（例）2024年競技会

- セイコーゴールデングランプリ
  - ➢競技会定義　　：　1- d
  - ➢競技会カテゴリー　：　A
- 日本陸上競技選手権（日本選手権）
  - ➢競技会定義　　：　3-a
  - ➢競技会カテゴリー　：　B
- 日本学生陸上対校選手権（日本インカレ）
  - ➢競技会定義　　：　3-b
  - ➢競技会カテゴリー　：　E
- 関東学生陸上対校選手権（関東インカレ）
  - ➢競技会定義　　：　3-b
  - ➢競技会カテゴリー　：　F

WRk競技会での適用規則①

- 基本的な考え方
  - ➢ 競技会定義1，2　：WA規則（国際）必須
  - ➢ 競技会定義3　　：一部を除き、加盟団体規則（国内規則）でも可
    （WA規則の適用を妨げるものではない）
- 国内WRk競技会でも、WA規則〔国際〕適用が必要・注意が必要なもの①
  - ➢ 競技場
    - ✓ 2025年からはEカテゴリー以上の国内WRk大会は、WA認証クラス2以上が必要
  - ➢ 競技会開催申請・記録結果申請
    - ✓ 遅くとも60日前までに、実施種目、開催場所などの開催申請
    - ✓ 競技会終了後24時間以内に記録申請が必要

WRk競技会での適用規則②

- 国内WRk競技会でも、WA規則〔国際〕適用が必要・注意が必要なもの②
  - ➢ 競技会規則（CR）・競技規則（TR）
    - ✓〔国際〕適用の考え方
      - 必ず適用しなければならないと明記のあるもの
      - 〔国際〕と適用しないと、競技者にWA規則よりも多くの権利を与える（有利になる）もの

（例）

- CR10　国際道路コース計測員の任命
- TR4.3　同時申込（不在時はパス扱い）
- TR32.1　投てき物（JAAF検定品かつWA認証品のみ）
- TR39.8.4　混成競技のバーの上げ幅（HJ:3cm、PV:10cm）

シューコントロールオフィサー（SCO）のシューズチェック・ガイドライン

1. 以下のガイダンスは、競技用靴に関する規程（以下「靴規程」）に基づいて任命されたシューコントロールオフィサー（以下「SCO」） を支援するために作成されたものである。これらの手続きは、靴規程と並行して読まれるべきであり、矛盾が生じた場合は常に規程が優先される。当ガイドラインは当該規程と矛盾することや修正することを意図したものではない。

2. SCO は「競技用靴がチェックされることを保証するために任命された審判員、またはその他の競技役員またはボランティアまたはスタッフ」 と定義される。

3. 招待競技会においては次に定める最少人数の競技者をシューコントロールの対象とする。
   - ダイヤモンドリーグおよびゴールド大会：競技者 7 名以上
   - シルバー、ブロンズ、チャレンジャー： 競技者 5 名以上

   その他の競技会では該当する管轄団体が、競技会規模や競技レベルに適切な対象競技者の最少人数を定めることができる。当該管轄団体が対象競技者数を定めていない場合は SCO が最少人数を定めるものとする。

4. 対象競技者の選定は SCO の裁量によるものとし、可能な場合は種目とその順位で対象者を定めるものとする。（例：女子 1500m 1 位、男子走幅跳 2 位 など）

5. SCO の裁量により、第 3 条で定める最少対象競技者数とは別に追加でシューコントロールを実施することができる。

6. 世界記録が達成時において当該競技者は必ずシューコントロールの対象となる。

7. SCO は、競技者への通告が容易であるミックスゾーン通過後のポストイベントエリア内の適切な場所に配置されるべきである。いかなるシューコントロール手続きも他の関係部署の業務を妨げてはならず、特にミックスゾーンやドーピングコントロールに支障をきたしてはならない。

8. SCO の責任のもと以下を手配する。

   - ✓ AD カードおよび、競技者が競技後に競技用靴を確認及び／又は回収する権限を証明する SCO としての役職が識別できるもの（腕章／バッジ等） を着用していること。
   - ✓ 机と十分な作業場所を用意し、回収した靴を安全に保管する場所。
   - ✓ 透明の袋と改ざん防止テープ（セキュリティテープ）（回収したシューズを封入し、シューズの改ざんを防止するため）
   - ✓ 競技者とその種目を特定するための「スタートリスト」
   - ✓ 安定したネット環境にて、WA シューズチェックアプリに接続し、WA 承認シューズリストを閲覧できるように準備すること https://certcheck.worldathletics.org
   - ✓ カメラ（携帯電話のカメラで良い）
   - ✓ 十分な枚数のシューズチェック様式
   - ✓ 十分な枚数のシューズ管理責任者フォーム（世界記録達成時やその他シューズ回収時）
   - ✓ 靴が回収する際に競技者に渡す名刺などの連絡先情報（靴の返却のため）

✓ ドーピングコントロールオフィサー（DCO）やシャペロンにシューコントロールの実施場所を予め伝え、シューコントロール対象種目および／または対象競技者も共有する。これは競技者が重複しても混乱を防ぐためである。ドーピングコントロールは常にシューコントロールより優先される。

シューコントロール手順

9. シューコントロールの対象となる競技者は、競技終了後に競技靴を脱ぐことが許されるが、常に競技靴を所持していなければならない。

10. シューコントロールの手順は次の通りとする。
    - シューコントロール対象競技者の本人確認を行う。
    - シューズのブランド名、モデル名および／または品番をもとに、当該シューズが承認競技用靴リストに掲載されているかを確認する。
        - シューズが承認リスト上で使用承認されており、かつ、競技者は世界記録を達成していなければ、これ以上の作業は不要で、シューコントロールは完了とする。
        - シューズが承認リストに未掲載あるいはモデル名等を特定できない場合はシューズチェック様式を記入し、競技者の AD カード（身分証明）、アスリートビブス、シューズ（シューズのモデル名・番号の特定に活用できるラベル等の写真も含む）を撮影する。全ての書類・写真は追加調査のために rules@worldathletics.org に送信する。
        - 世界記録達成時には、シューズチェック様式を記入し、競技者の AD カード、アスリートビブス、シューズを撮影する。全ての書類・写真は rules@worldathletics.org に送信する。これに加えて、12 条および 13 条の規定にもとづきシューズ現物を回収する。
        - 日本から送信する場合は compe-tech@jaaf.or.jp も同報する。なお、WRk 対象ではない競技会は本連盟にご相談ください。

11. SCO または当該審判長の裁量により、シューズが競技用靴に関する規程の遵守に疑義がある場合は SCO がシューズを回収して WA に送付して追加調査を実施することができる。

12. 世界記録達成時においては、第 10 項の規定に加えて、競技用靴は必ず SCO が回収し、WA に送付して独立専門家（競技用靴に関する規程 14.2 および 14.3）による追加調査を実施する。U20 世界記録ではシューズの回収は不要とする。

シューズチェック回収後の手続き

13. 第 10 項から第 12 項に基づき、追加調査のために競技用靴を回収する場合（両足のシューズが同モデルであれば、回収は片足としてもよい）。

    a. SCO は、競技者にシューズ受領書と連絡先を渡す。連絡先はシューズ返却の連絡のため。

    b. SCO は、必ず「シューズ管理責任者フォーム」を記入する。

    c. SCO は、取扱い／輸送中の改ざんのリスクを回避するため、競技者 の立会いの下で、競技靴を安全な袋に入れなければならない。

    d. SCO は、競技靴を WA スタッフ（ワールドアスレティックスから主催者に通知された者）に手渡すか、又は主催者の費用負担で競技靴を WA（下記 12 項の詳細参照）に宅配便で送付する。いずれの場合も、SCO は、シューズ管理者フォームに記入しなければならない。

e. SCO／その他指名された者は、SCO から の回収または送付に先立ち、回収したすべての競技用シューズが次を満たしていることを確認する責任を負うものとする:

i. 常に自己の管理下にあること;
ii. 競技用靴の完全性及び同一性を保護する方法で安全に保管されていること
iii. 安全な場所または安全な保管場所に施錠されていない限り、靴から離れないこと
iv. 靴の確認は、SCO の監督のもと審判長および/または技術代表に限る。

14. シューズの送付先は以下の通りとする。宅配便は WA 事務局に直送する（ドアツードア）:

Sandrine Prokopowicz, Competitions Dept. World Athletics 6-8, Quai Antoine 1er BP 359 MC 98007 Monaco Tel: +33607939993 and +37793108888 World Athletics. 発送したシューズの追跡番号や第 10 項の情報を記載のうえメールする。(rules@worldathletics.org)

15. ワールドアスレティックスは独立専門家と連携し、独立検査機関へのシューズ提出を対応する。

※全て英字で記入

Shoe Check Form

Athlete's name（競技者氏名）　：

Event / Sex（種目／性別）　：

Brand（メーカー名）　：

Model（モデル名）　：

☐ Photo 1 ： bib, accreditation card, shoe（ビブ、ＡＤ、シューズ）

☐ Photo 2 ： shoe – side view（シューズ – 側面）

☐ Photo 3 ： shoe – outsole（シューズ –アウトソール）

☐ Photo 4 ： shoe – label / tongue（シューズ ー ラベル／タン）

☐ Photo 5-6 ： orthotics (if applicable) – side and top view

（装具、インソール等　側面・上面）

Notes 備考　：

Date and place（日付・場所）：

（署名）.....

Shoe Control Officer

SCO 氏名 ：

（署名）.....

Athlete

競技者氏名 ：

Shoe Receipt Form

競技用靴受領書

Name and Date of Competition（競技会名・開催日）:_____

Athlete's name（競技者氏名）:_____

Member Federation of Athlete（競技者国籍）:_____

Event / Sex category（種目／性別）:_____

Finishing Position（順位）:_____

This is to confirm that the competition shoe(s) belonging to the above athlete have been collected by the Shoe Control Officer for the purpose of checking their compliance with the Athletic Shoe Regulations. 競技用靴に関する規程の遵守を確認する目的により、上述の競技者が所有する競技用靴はシューコントロールオフィサーにより回収されたことを証する。

Brand メーカー名	
Model モデル名	
Size サイズ	
Colour 色	
Shoe(s) collected 回収	☐ Left Shoe only 左のみ ☐ Right Shoe only 右のみ ☐ Pair of Shoes 両足

The shoe(s) will be kept under custody by World Athletics and the outcome of the examination by the Independent Expert will be notified to the athlete or their representatives. Please note that the tests required to confirm compliance with the Athletic Shoe Regulations may include the shoes being cut. 当該競技用靴はワールドアスレティックスにより管理され、 独立専門家による検査結果は競技者あるいはその代理人に通知する。なお競技用靴に関する規程に準じている確認するため **シューズの切断を含めた検査が実施される場合もある**

Should the shoe be returned シューズ返却有無 : ☐ Yes ☐No

If yes, the shoe(s) should be returned to the following address:

シューズが返却される場合は次の住所に返送する。

Name 氏名	
Postal Address 住所	
Email/Tel	

Date 日付:

（署名）
Shoe Control Officer シューコントロールオフィサー
氏名：

（署名）
Athlete 競技者
氏名：

Chain of Custody Form for Shoes collected for further examination and investigation (Regulation 14) 回収シューズ管理責任者フォーム

This Chain of Custody Form is to be used by the Shoe Control Officer to document the chain of custody of **all of the** Athletic Shoes that are collected at a competition and the hand-over to the appointed person, courier or the International Expert for further investigation and examination of an Athletic Shoe. 本フォームは検査のために回収した全てのシューズ現物を取り扱う管理者・送付先受取人・国際専門家等を SCO が記録するものである。

The Shoe Control Officer must write clearly and in block capitals. All times must be written using 24-clock.

SCO は氏名を大文字ブロック体で記入する。時間の記録は 24 時間表記。

1. Competition Information 競技会情報

Name of Competition 競技会名	Date of Competition 競技会開催日	Number of Athletic Shoes 回収済靴の個数	???? 備考等

2. Athletic Shoes Collected 回収したシューズ

Brand メーカー名	Model モデル名	Colour カラー	[...] その他

3. Chain of Custody 管理責任者連鎖記録

Role 役職	Name 氏名	Signature & Location 氏名・受領場所	Date DD/MM/YYYY & Hour (24:00) 日時 日・月・年	Way of storage & Transportation 保管方法・輸送方法
Shoe Control Officer SCO				
Received by ☐ Courier 配送業者 ☐ Appointed Person 任命者	配送業者に渡した場合は業者名を記入			
Received by Independent Expert 受取独立専門家名				

靴規程運用の補足

競技会現場でのシューズ計測

シューズの厚さ計測を規定に準じて正確に実施するためには専門の検査機関による計測が必要で、競技会現場にて手作業で正確に計測するのは困難であるため、承認シューズリスト掲載モデルは審判員による計測は求められていません。

承認シューズリスト

承認シューズリスト（https://certcheck.worldathletics.org）に掲載され、使用開始日を経過し、使用可能種目に該当しているモデルと実際に使用された靴が合致していればワールドランキング対象競技会や靴規程を適用するその他の公認競技会で、競技会現場での測定をせず、使用が認められます。

シューズリストには「新しい靴」、「既存靴」、「開発段階の試作靴」（試作靴）が掲載されています。**試作靴**は**使用可能期間内**で**指定された競技会**に、**承認された特定競技者**しか使用することができません。「カスタマイズされた靴」（カスタム靴）も医療・安全上の理由で特定個人の競技者に承認されるものですが、新しい靴、既存靴、試作靴をもとにカスタムしているので、カスタム靴として別途のリスト掲載はありません。

種類	購入可否	承認
既存靴 （WA 承認シューズリストに掲載されているもの）	一般購入可	WA 事前承認不要。 使用可。
新しい靴 （WA 承認シューズリストに掲載されているもの）	一般購入可	WA 事前承認の上、使用可
カスタマイズされた靴 ※ 安全／医療上の理由に限定 ※ 靴底、アッパー、スパイク追加等の改造 ※ 取り外し可能なインナーソールなどの装具の挿入。 ※ ヒールレイズ、ヒールカップ、ブレース、ストラップの追加。		WA 事前承認の上、使用可
開発段階の試作靴 ※プロトタイプ	一般購入不可	WA 事前承認の上、指定競技者が指定期間内の指定競技会のみ使用可 WAS 大会・五輪 使用不可
オーダーメイドの靴 ※既存靴、新しい靴を基礎としない完全唯一無二の靴	唯一無二 一般購入不可	使用不可

競技会において全てのシューズチェックは不要

参加選手は WA 承認シューズリストのシューズを着用していることを前提とし、招集所や選手受付などで、参加者全員のシューズチェックを行う必要はありません。ただし、審判「シューコントロール・オフィサー」または「審判長」の権限により、いつでもシューズチェックをすることができ、参加者はその指示に従わなければなりません。明らかに規則違反のシューズや疑義のあるシューズは、チェックや回収の対象になることがあります。万が一レース後に違反が認められた場合には、失格となり記録が取り消される場合があります。

規則違反や疑義が確認されない限り、シューズチェックを実施するのはドーピング検査が実施されている主要競技会あるいは本連盟、ワールドアスレティックス、アジア陸連が指定した競技会のみで差し支えありません。なお、引続き、審判長の裁量でのシューズチェックを実施することは可能です。

シューズチェックの手順（ガイドライン抜粋）

- シューコントロールの手順は次の通りとする。
- シューコントロール対象競技者の本人確認を行う。
- シューズのブランド名、モデル名および／または品番をもとに、当該シューズが承認競技用靴リストに掲載されているかを確認する。
    - シューズが承認リスト上で使用承認されており、かつ、競技者は世界記録を達成していなければ、これ以上の作業は不要で、シューコントロールは完了とする。
    - シューズが承認リストに未掲載あるいはモデル名等を特定できない場合はシューズチェック様式を記入し、競技者の AD カード（身分証明）、アスリートビブス、シューズ（シューズのモデル名・番号の特定に活用できるラベル等の写真も含む）を撮影する。全ての書類・写真は追加調査のために rules@worldathletics.org に送信する。
    - 世界記録達成時には、シューズチェック様式を記入し、競技者の AD カード、アスリートビブス、シューズを撮影する。全ての書類・写真は rules@worldathletics.org に送信する。これに加えて、12 条および 13 条の規定にもとづきシューズ現物を回収する。

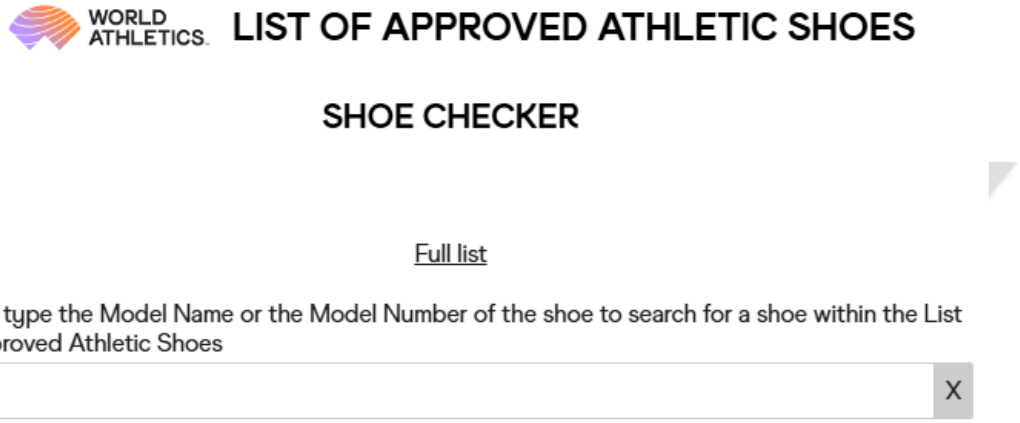
※ 本連盟にも同報をお願い致します。 compe-tech@jaaf.or.jp

※ なお、WRk 対象ではない競技会は本連盟にご相談ください。

WA 承認シューズリストの見方

https://certcheck.worldathletics.org

WA 承認シューズリストのサイトにアクセスするとホーム画面が表示されます。Full List をクリックして全モデルを表示するか、入力欄からモデル名を半角英数字で検索することができます。



Full List

一覧にして閲覧することができます。
各モデルとも使用可能種目が指定されています。
「Y」の種目では使用できますが「N」では使用不可となります。

メーカー名
モデル名　　トラック　跳躍　投てき　道路＆競歩　ｸﾛｶﾝ

Shoe	Track	Jumps	Throws	Road & RW	Cross
Asics					
Cyberblade HF	Y	N	Y	Y	Y
DSPURT FX	Y	Y	Y	Y	Y
Duo Japan	Y	Y	Y	Y	Y
Effort 13	Y	Y	Y	Y	Y
Effort MK	Y	Y	Y	Y	Y
EvoRide	N	N	N	Y	Y

開発段階の試作靴

水色の網掛けは試作靴を示します。特定の使用期間内の指定競技会にて、指定された競技者のみ使用が可能です。

Shoe	Track	Jumps	Throws	Road & RW	Cross
Asics					
Metasprint Tokyo	Y	Y	Y	Y	Y
MS LD 2 *VALID: 29 FEB 2024 - 28 FEB 2025*	Y	Y	Y	Y	Y

新しい靴 使用解禁前

黄色の網掛けは使用解禁前のシューズを示します。発売から 1 か月経過していないシューズです。

記載日付の翌日から使用が可能です。

Shoe	Track	Jumps	Throws	Road & RW	Cross
Puma					
FAST-R Nitro Elite	N	N	N	Y	Y
FAST-R Nitro Elite 2	N	N	N	Y	Y
Liberate Nitro	N	N	N	Y	Y
Propio Nitro *Approved for use after 05 MAR 2025*	Y	Y	Y	Y	Y

承認された新しい靴、既存靴
当該モデルをクリックすると詳しく閲覧できます。当該モデルの写真が表示されます。色違いでも差し支えありません。使用が認められている種目が掲載されています。

Track Events: トラック種目
Jumping Events: 跳躍種目
Throwing Events: 投てき種目
Road Races (including Track Race Walking Events)道路競走（およびトラック競歩種目）
Cross Country Races（クロスカントリー競走）
Mountain and Trail Races（マウンテンランニング、トレイルレース）

次の例のモデルはトラック、投てき、道路競技（トラック競歩含む)、クロスカントリー、マウンテン・トレイルで使用が認められていますが、跳躍種目では認められていません。
発売開始日の記載があります。サイトの仕様で 2024 年 3 月以前のモデルは 1999 年 12 月 31 日から発売と記載されています。

Asics - COSMORACER MD 3

Photo indicative only. Actual colours may vary

APPROVED

For Competition for:
- Track Events
- Throwing Events
- Road Races (including Track Race Walking Events)
- Cross Country Races
- Mountain and Trail Races

Development Shoe: No
Available for Sale from: 31 DEC 1999*

* Default date for shoes approved before March 2024

試作靴の場合

承認と記載されていますが、承認期限が記載されています。試作靴であれば Development Shoe: Yes と記載されております。WAS 大会、オリンピックでの使用は不可です。指定された競技会で、承認を受けた競技者しか使用することができません。

Asics - MS LD 2

Photo indicative only. Actual colours may vary

APPROVED

until 28 FEB 2025

Approved for Competition, except WAS events or Olympic Games, for

- Track Events
- Jumping Events
- Throwing Events
- Road Races (including Track Race Walking Events)
- Cross Country Races
- Mountain and Trail Races

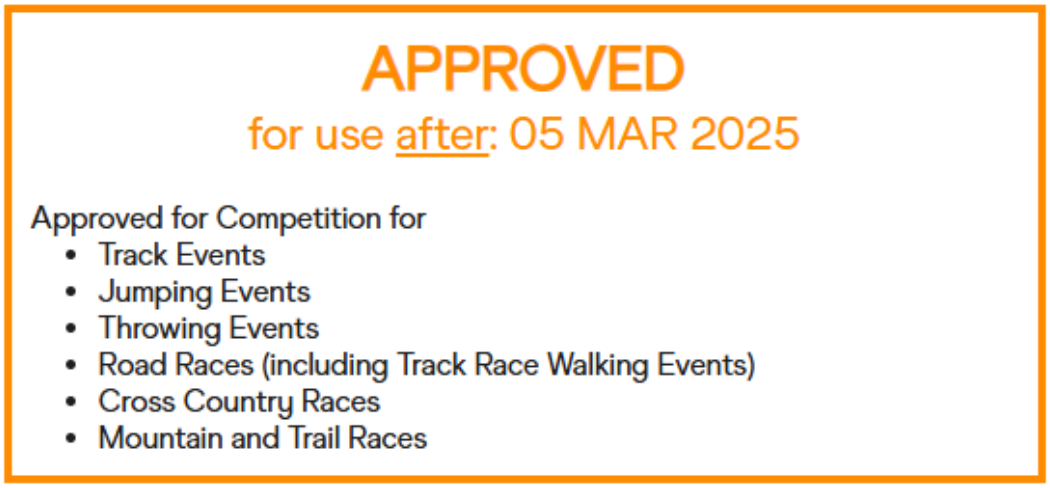
Development Shoe: Yes

Expiry Date: 28 FEB 2025

使用解禁前のシューズの場合

オレンジ色の枠で表示されます。使用可能期間が開始するのは記載された日付の翌日です。

APPROVED for use after 05 MAR 2025 は 2025 年 3 月 5 日の翌日から使用承認であることが示されています。シューズの写真も掲載されています。



以上

施設用器具委員会報告

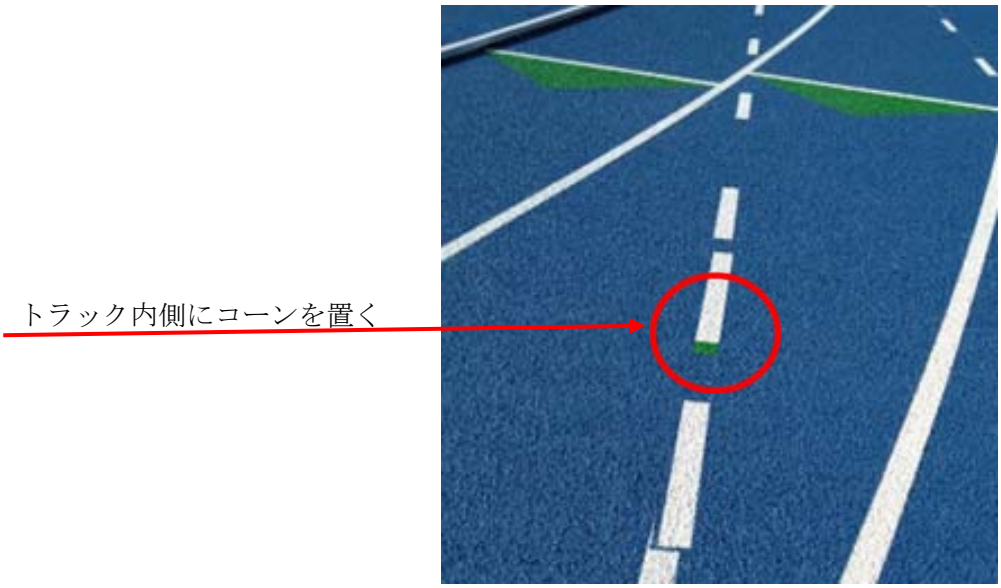
１．２０２５施設用器具委員会関係の規則の改正

最終条文については、ルールブックで確認してください。
地域陸協にも伝達をお願いします。

（１） 主な競技規則の修改正

① CR10　〔国内〕ワールドランキングコンペティション定義 3. (b) により国際道路コース計測員を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。
→　主催者が派遣依頼を提出し施設用具委員会から派遣者を決定する。

② TR14.1〔注意〕曲走路から直走路または直走路から曲走路に変わるすべてのポイントには、1 レーン内側のラインの白線上に、あらかじめ検定された 50 mm × 50 mm の明確な色でマークされ、レース中はそれらのポイントのトラック内側の延長線上にコーンを設置する。
→　緑のマークの内側にコーンを置く。選手が中に入った時、直走路と曲走路の境を監察員が認識するためのコーン。

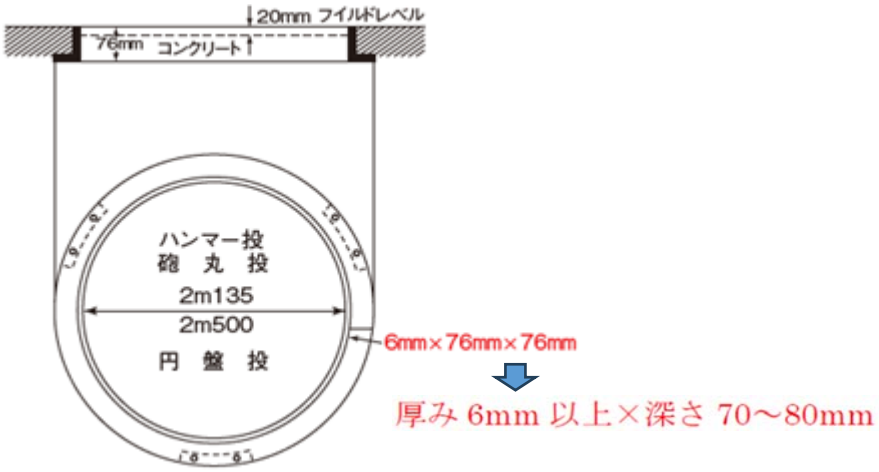


③ TR17.5.1〔国内〕 iii　500m 競走の競技方法
→　スタート位置の検定が必要です。
iv　600m 競走
→　ＭＤＲのスタートを利用します。（検定不要）

④ TR32.1〔国内〕ワールドランキングコンペティションでは本連盟検定品かつ ＷＡ 認証品のみを使用する。
→　競技場備え付けの投てきリストを作成しておく。

⑤ TR32.7　図の寸法の変更

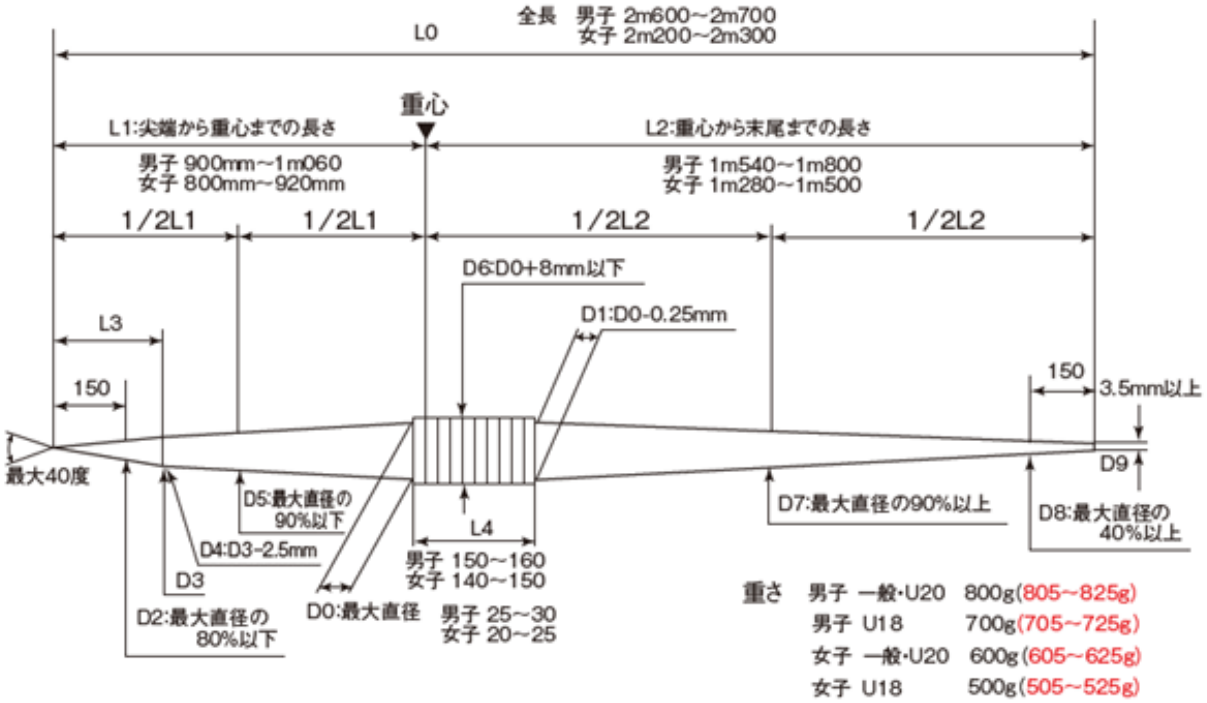
→　条文に合わせて厚みと深さとする。



⑥ TR38.11　やりの重さの範囲を削除

→　やりの重さはその重量があればよい。

＋５g～２５ｇは製造会社が製作する時の基準となっている。



⑦ TR41.3　室内競技場の厚み

→　施設管理者が使用を認めることになる。

⑧ TR54.1　競歩競技の標準となる距離にハーフマラソン、マラソンの追加（2026 年１ 月１ 日から適用）

→　検定が必要となります。詳細は検討中。

（２） 陸上競技場公認に関する細則の改正

① 第 10 条（標識）

ラインをいれない種目に 2000m障害が入っていなかったので、追加する。

② 第 13 条（障害物競走）

固定障害物のバーは製造時検定をしているので、「現場検定とする」を削除する。

③ 別表１　全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表

- １００m、１１０mHスタート付近の破線の統一と水濠からの破線を代用縁石が置きやすいように破線を追加する。
  破線の統一は塗り直し時に変更する。
- ハードルの位置のナンバーの表示を２０１２年に削除したが、ナンバーを再掲示する。
- 走高跳の位置とやり投助走路との関係を実態にあわせた整合と判定補助線の位置の明確化をする。
- やり投助走路の 4m地点のマークをわかりやすく表示する。

④ 別表２　用器具一覧

- 競技会での使用実態に合わせた変更。
  10k 秤（上皿天秤の削除、1g 単位計測のもの)、競歩用掲示板、兼用サークル、記録標識、
- 4 種Ｌの整備に整合するための変更。
  代用縁石、ヤリ検定器、リボンロッド、ポール
- 上記整理によりの整理：〔区別〕4（　）は備付を希望するもの。~~投てき用具、障害物競走用具は競技施設があるときは備え付ける。~~

（３） 長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則の改正

① 競技規則による競歩競技の標準となる距離の追加

※日本の対応決定後

（競走（歩）路）

第 2 条　　略

⑵ 競歩路　 5 km、10 km、15 km、20 km、ハーフマラソン、30 km、35 km、、マラソン、50 km、男女混合競歩リレー（マラソンの距離）

② 申請書の添付書類の追加

- 所属加盟団体が公認大会、ＷＲＫ大会の開催を確認するための添付資料追加する。（申請者が作成）
- 公認大会でない検定申請、主催権がない団体の検定申請、駅伝コースの検定申請が見受けられる。
- ＷＲｋの大会でなければＷＡランキングとならなくなった。必ずしもＷＡ認証コースが必要でないコースが見受けられる。

【公認長距離競走路・競歩路認定申請書添付書類】　（案）

公認長距離競走路・競歩路認定申請書を受け付ける際に、公認大会の開催を確認するため、下記１の記入と２の添付を申請に併せて提出してください。
なお、公認大会開催の確認ができない場合は認定申請の了承ができません。
また、ＷＡ認証コースを必要とするコースのみ申請ができます。
申請できるコースとは例えば
- ・ WRk 大会を開催（予定）のコース
- ・ ＡＩＭＳの認証を受けるコース

１．申請コースの公認競技会を開催する確認

申請するコースの公認大会名	
公認大会の主催・共催	
公認大会の主管陸協	
公認大会を開始した年度	
申請後最初の公認大会の日	
ＷＡ認証コースを必要とする理由	

＊ WA認証コースを必要とする理由には、WRk 大会の開催の有無、開催（予定）時期、AIMS認証などを記入してください。

公認競技会規程
（公認競技会の主催）
第 3 条 10.
道路競走競技会において、本連盟、加盟団体、加入団体（ただし、郡市区町村陸上競技協会に限る）、地域陸上競技協会が共催または主管し、且つ次の各号を順守することを条件に、本連盟は、地方公共団体その他本連盟が認める団体に、当該競技会について、公認競技会を主催する権利を委譲することができる。
① 医師を含む医務員を複数名任命すること
② 緊急医療体制（AED の配置を含む）を整備すること
③ 競技者、競技役員に対して傷害事故、疾病事故に対応し得る保険に加入すること

２．大会要項等

公認競技会を開催することがわかる大会要項、開催要項等を別途添付してください。
継続して大会を開催しているコースは、前年のものでも可。

２．競技会の派遣について

（１） 技術総務の派遣

- ＪＴＯの業務を補完するため、技術総務の任務について助言提言するため、施設用器具委員会から技術総務を派遣しています。
- 派遣している大会：国体、日本選手権、U16・U18 日本選手権、日本選手権混成、ゴールデングランプリ、インターハイの６競技会
- 助言する任務は、投てき用具の検査方法、投てき用囲いの設置などの安全運用、推奨する技術総務/公式計測員の任務作業内容を主管陸協担当者に指導伝達している。
- 事前に「技術総務確認事項」送付して、競技場の用器具の確認、施設配置、ハードルの設置、角度線、距離線の設置、投てき用器具の検査等について準備をしていただいている。

（２） 国際道路コース計測員の派遣

- 世界記録、アジア記録の認定は、ＷＡ認証コースでなければできません。この場合、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則 CR31.21.4）
- 当初のコース計測を行った計測員（Ａ級、Ｂ級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- 施設用器具委員から国際道路コース計測員の派遣をしています。
- ＷＲＫの競技会では国際道路コース計測員の任命が必須となりました。（競技規則 CR10）陸連の主催、後援競技会、ＷＲＫの競技会では、国際道路コース計測員の派遣をすることになります。主催以外の後援競技会・ＷＲＫの競技会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

３．競技会での注意事項

（１） 300ｍＨ設置の注意事項

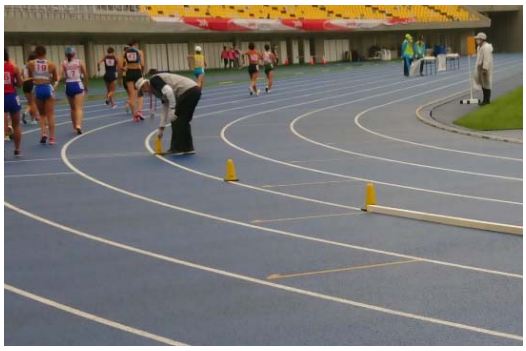
- 競技会で実施されてきています。日本独自のU20、U18 の種目となり、すべての競技場で必要ではないことから設置の義務付けはしていません。各陸協で設置を必要とする競技場に設置をしてください。
- 標識タイルでない費用負担の少ない表示方法としています。
- マークングはしていませんので、競技会時に設置位置をマーキングしてください。チョーク付きの水糸を利用すると簡単に早く設置ができます。
- ハードルの高さは、男子U20、914 ㎜、U18、838 ㎜、女子 762 ㎜。
  男子U20、U18 で高さが違うので注意してください。
- 150ｍのスタートと兼ねています。300ｍＨが設置されているところは新たに標識を設置する必要はありません。
  150ｍスタート　…　300ｍＨのハードル４台目と同じ
  【参考】145ｍのスタート位置　…　400ｍＨのハードル７台目と同じ

（２） 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方

- 競技規則により、国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁

石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から 300㎜ の所で計測している。

- 代用縁石を設置する際は、競技場保有の代用縁石の数が不足しているので、１本おきとしていたが、競技規則に従い全線に置く必要がある。
- 競技場の水濠付近の縁石の設置と代用縁石の補充整備を進めている。
- グループスタートラインから１０m程度は縁石を置かずに、コーンをスタートライン、縁石のはじめ、中間に設置する。後方の選手はこのコーンの間を通ってよい。
- 走高跳、ヤリ投の競技と重複する時には、その部分をあけてコーンを設置する。



スタート付近のコーン設置

走高跳助走路のコーン設置

（３） 秤の調整

- 投てき物を図るには秤が必要です。1g 単位が計測できるものへ規則改正をします。
- 重さは緯度によって影響があります。投てき物を測る秤は、必ず１０Ｋの確認をしてください。持ち込検査で正しく判断できるようにしてください。少なくともシーズン初めには確認をしていただきたい。
- 違っている時には取扱説明書により調整をしてください。

（４） ワールドランキングコンペティションでの投てき物の使用

- ＷＡ認証品の使用が明記された。（TR32.1）投てき物のリストには、ＷＡ認証番号と規格を記入して作成するようにしてください。最新の製品はＷＡのＨＰに掲載されている。日本陸連の検定品にはＷＡ認証品ではない物があります。ＷＡ認証取得を要請しています。

主催者が用意する投てき 物一覧表

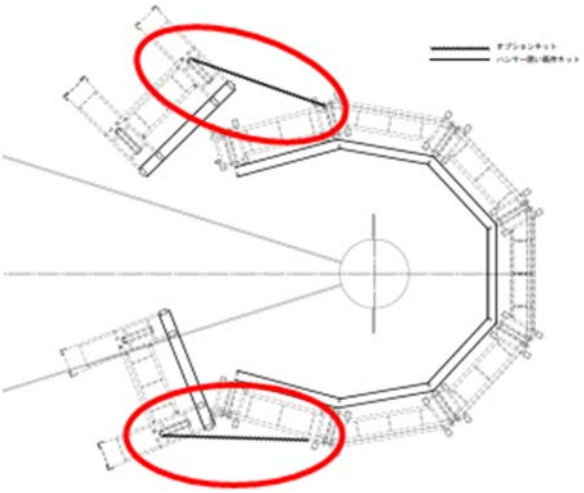
器具	種別	メーカー	品名等	WA認証番号	規格等	数量	合計
ヤリ	男子(800ｇ)	NISHI	スーパー80m	I-01-0236	White	1	8
		NORDIC	ｴｱｸﾛﾗｲﾀﾞｰｽﾃｨｰﾙflex6.1(steel)	I-99-0011	Red/white, red cord	1	
			ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｽﾃｨｰﾙ	I-99-0012	Yellow	1	
			ｽｰﾊﾟｰｴﾘｰﾄｽﾃｨｰﾙ90m	I-99-0020	White	1	
			ｵｰﾋﾟｯﾄｽﾃｨｰﾙflex6.6	I-99-0014	Blue/White	1	
		NEMETH	ｸﾗｼｯｸ95m	I-09-0400	Violet/yellow/orange	1	
			ｸﾗｼｯｸ90m	I-09-0100	Violet/yellow/green,violet cord	1	
			ｸﾗｼｯｸ85m	I-09-0429	Violet/yellow/magenta,violet cord	1	

（５） 囲いの安全確保

- 2023 年 8 月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。
- ＷＡ規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、度重なる移動により隙間が広がる可能性がある。
- これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され、佐賀国民スポーツ大会で使用された。安全確保に有効であった。今後も安全に対する対応が、重要となってくる。

佐賀国スポ設置例

補助ネット設置例(ﾆｼ･ｽﾎﾟｰﾂ提供)



（６） 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

- 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ず途中計時箇所にラインを入れてください。

2024 年度全国競技運営責任者会議資料

ブロンズレフェリーについて

日本陸上競技連盟　競技運営委員会
審判員研修 PT

１．ブロンズレフェリー（World Athletics Referee - Bronze level：WARB)試験について

９月２７日（金）～２９日（日）　オンラインアプリ「TestWe」にて実施
受験者数１８６名　　合格者数１４４名　　（合格率７７％）
（参考：シルバーレフェリー２名）
なお、ブロンズレフェリー試験総括ミーティングを１２月４日（水）に実施した。

２．ブロンズ競歩審判員（World Athletics Race Walk Judge - Bronze：WARWJB）試験について

１２月７日（土）　オンラインアプリ「TestWe」にて実施（ビデオ判定試験・筆記試験）
受験者数１５名　　合格者数１２名　　（合格率８０％）
先行実施された試験において認定された１名を含め、ブロンズ競歩審判員　計１３名
（参考：ゴールド競歩審判員２名・シルバー競歩審判員１名）

３．今後の見通しとお願い

〇２０２５年にはブロンズレフェリー試験に加え、ブロンズ写真判定員、ブロンズスターターの試験が予定されています。

・アジア陸連からの申込期日の連絡が、タイトな日程で通知されてきます。加盟団体におかれましては、今から受験候補者の準備をしておくよう、よろしくお願いします。
・WA から、ジェンダーバランスを 50:50 に近づけるよう求められています。加盟団体におかれましては、女性の審判員育成を進めていただけますよう、よろしくお願いします。

〇ブロンズレフェリーは、競技規則はもとより大会運営・競技運営に関しても豊富な知識と経験が求められ、国内で開催される国際大会や WA のワールドランキング対象大会で、審判長や審判主任を務めていただくための資格です。

・今回の試験はあくまでも受験者の知識レベルを調べるものであって、実技がないのが現状です。
・加盟団体の皆様には、特に経験が浅い合格者には先輩方がメンターとして、新しい合格者を審判長・主任として名実ともに活躍できるように後押ししていただくことをお願いします。
・そのために、普段担当していない部署の委嘱を受け、知識・経験を幅広くしていくなど研鑽に励めるような環境づくりを重ねてお願い申し上げます。

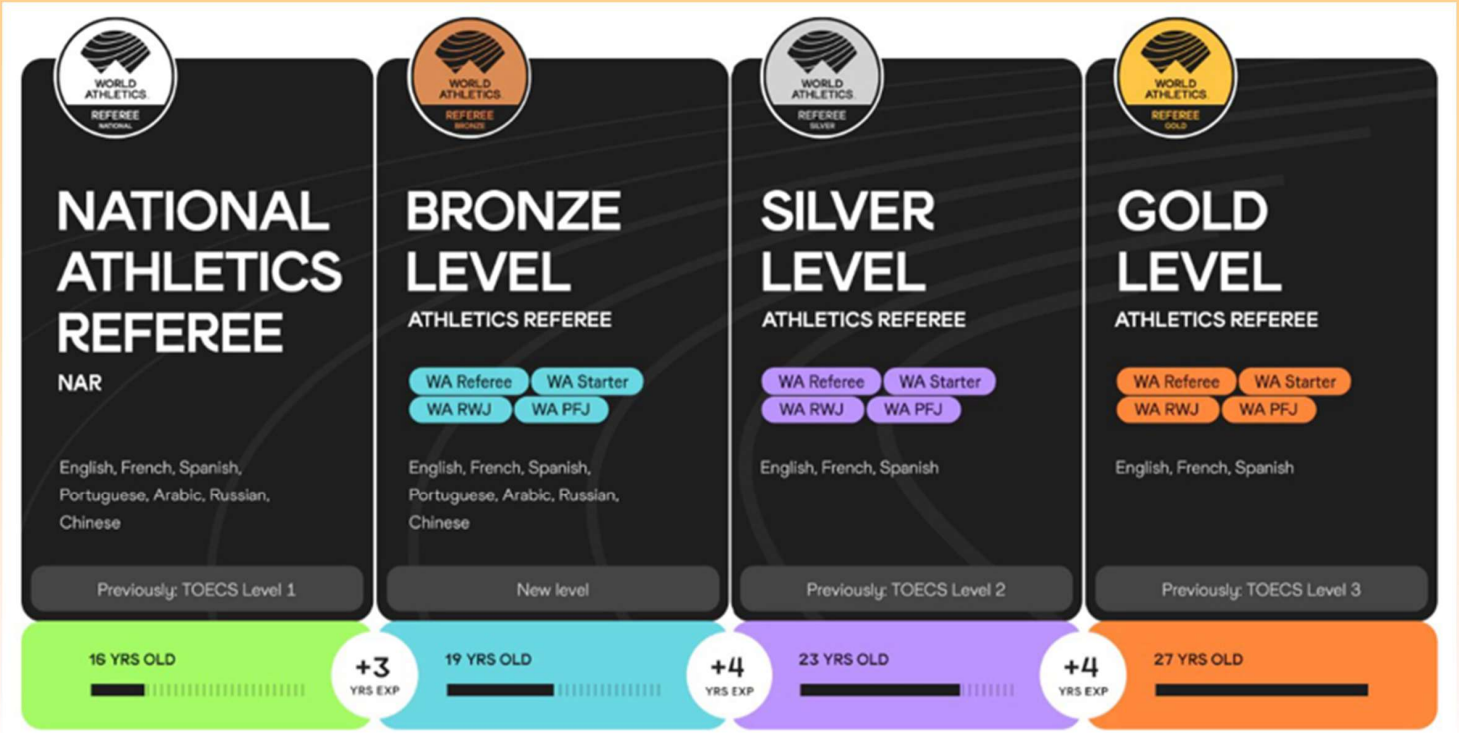
以上

ブロンズレフェリーについて
World Athletics Referee

2025.2.15 (Sat.)　全国競技運営責任者会議

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
審判員研修PT

◆ブロンズレフェリーについて



Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

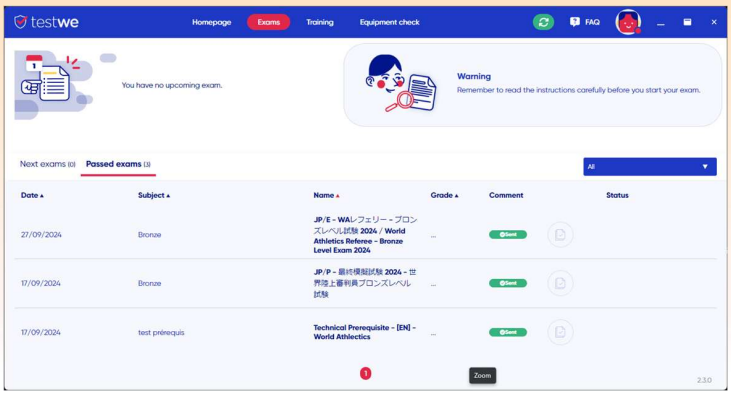
JAAF Japan Association of Athletics Federations

◆ブロンズレフェリーについて

World Athletics Referee - Bronze level : WARB

９月２７日（金）～２９日（日）

オンラインアプリ「TestWe」にて実施



Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

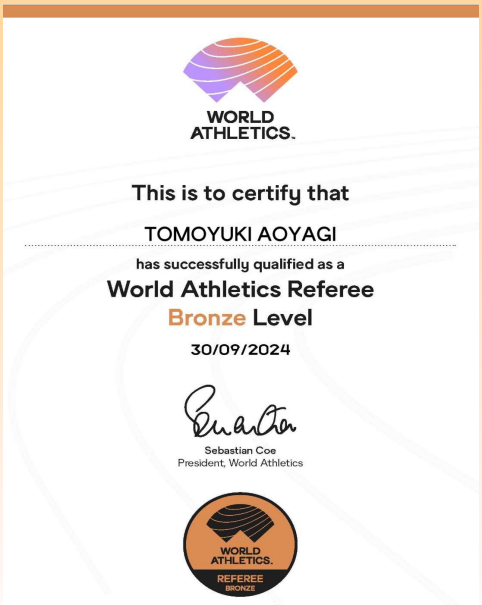
◆ブロンズレフェリーについて

受験者数１８６名　合格者数１４４名

（合格率７７%）

参考：シルバーレフェリー２名

なお、ブロンズレフェリー試験総括ミーティングを１２月４日（水）に実施した。



Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆ブロンズ競歩審判員について

World Athletics Race Walk Judge - Bronze : WARWJB

１２月７日（土）　オンラインアプリ「TestWe」にて実施（ビデオ判定試験・筆記試験）

受験者数１５名　　合格者数１２名（合格率８０％）

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆ブロンズ競歩審判員について

World Athletics Race Walk Judge - Bronze : WARWJB

先行実施された試験において認定された１名を含め、ブロンズ競歩審判員　計１３名

参考：ゴールド競歩審判員２名
シルバー競歩審判員１名

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆今後の見通しとお願い

2025年は
ブロンズレフェリー試験に加え、ブロンズ写真判定員、ブロンズスターターの試験が予定されています。

- アジア陸連からの申込期日の連絡が、タイトな日程で通知される。**今から受験候補者の準備を**。
- 男女比を50:50に近づけるよう求められている。**女性の審判員育成**を進めていただきたい。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆今後の見通しとお願い

今年度実施の試験において、受験候補者が定員に満たない加盟団体が多くありました。

- WRk競技会数に応じた人数の資格者を確保するため、積極的にブロンズレフェリー資格者を養成したい。
- トラック／スタート／跳躍／投てきでそれぞれ審判長・主任が必要。また、同時開催する種目数に応じて資格者が必要になる。

⇒　より積極的な推薦をお願いします。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆今後の見通しとお願い

ブロンズレフェリーは、

〇競技規則はもとより、大会運営・競技運営に関しても**豊富な知識と経験が求められる**。

〇国内で開催される国際大会やWAのワールドランキング対象大会で、**審判長や審判主任を務めていただくための資格となる**。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆今後の見通しとお願い

今回の試験はあくまでも受験者の知識レベルを調べるものであって、実技がないのが現状です。

・特に経験が浅い合格者には先輩方がメンターとして、新しい合格者を**審判長・主任として名実ともに活躍できるように**後押ししていただくことをお願いします。

・そのために、**普段担当していない部署の委嘱**を受け、知識・経験を幅広くしていくなど**研鑽に励めるような環境づくり**を重ねてお願い申し上げます。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

ブロンズレフェリーについて

World Athletics Referee

ブロンズレフェリーを育てていただくとともに、
積極的な推薦をお願いいたします。

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
審判員研修PT

SISを使用する競技会での注意点

SIS : Start Information System

・SISの仕組みについて
・SIS使用時に注意すること
・SIS使用時のFS(False Start)の判定について

不正スタート検出方式

不正スタート検出方法には、レベル検出方式と変化量検出方式の2種類がある。

①レベル検出方式（最近はほとんど使われてない）

・スタート動作をフットプレートにかかる圧力のみで判定する。
・フットプレートに加わる力(kgf)が、設定された力(閾値)に達した時を動作の開始点とする。
・スタートする競技者の筋力や体重の差などは考慮されないため、検知漏れや過敏検知の可能性がある。

②変化量検出方式

・スタートを、圧力信号が出す周波数成分の変化をデジタル処理して判定する。

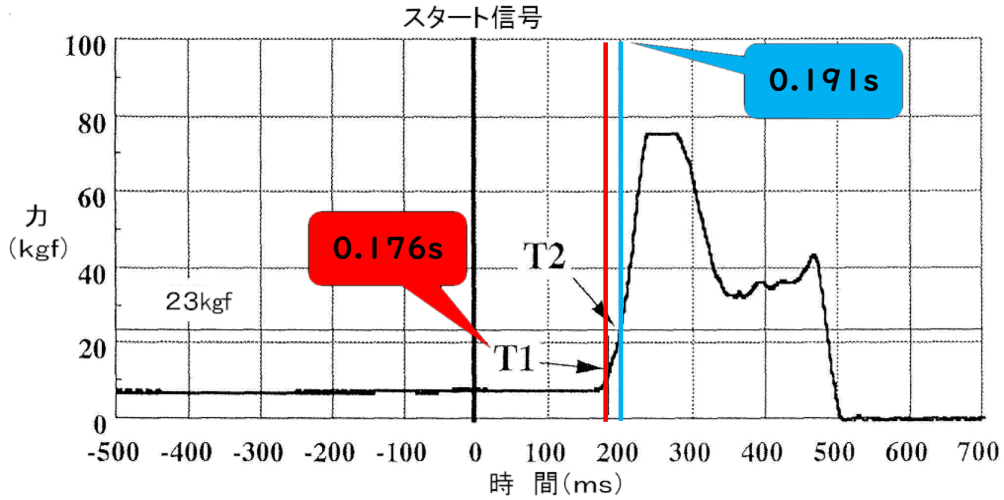
・フットプレートに加わる加速度とその大きさを監視し、急激に変化する立ち上がり時点を動作の開始点とする。

・スタートの圧力によらずに判定できる。

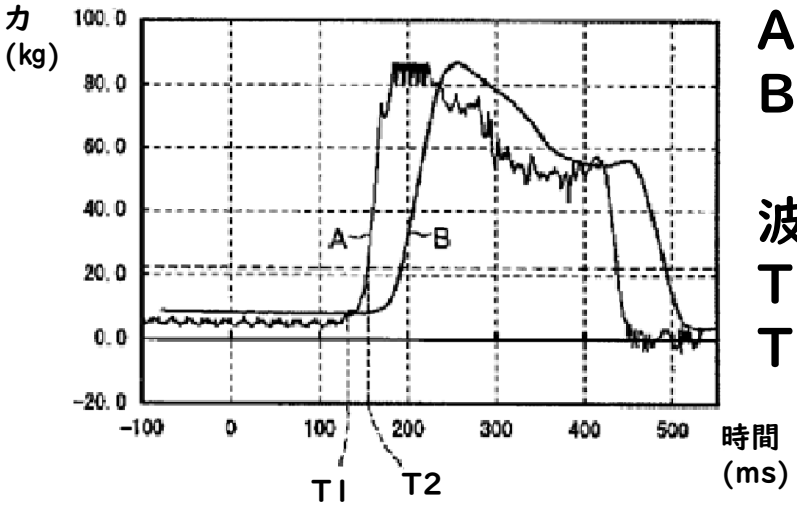
下の図は一般的な（正常）スタート波形であり、この力の波形を

・変化量検出方式で検出すると、大きな変化が現れるＴＩの時点でスタートの検出が行われる。

・レベル検出方式（閾値を23kgfに設定）で検出すると、力が23kgfになったT2の時点でスタート動作の検出が行われる。



- （23kgfに達しない）力の弱い競技者のRT（リアクションタイム）検出がされないことがあった。
- フットプレートにかかる圧力の強弱に拘らず、**遅滞なく判定**できる変化量検出方式が開発された。



A：変化量検出方式による波形
B：レベル検知方式による波形

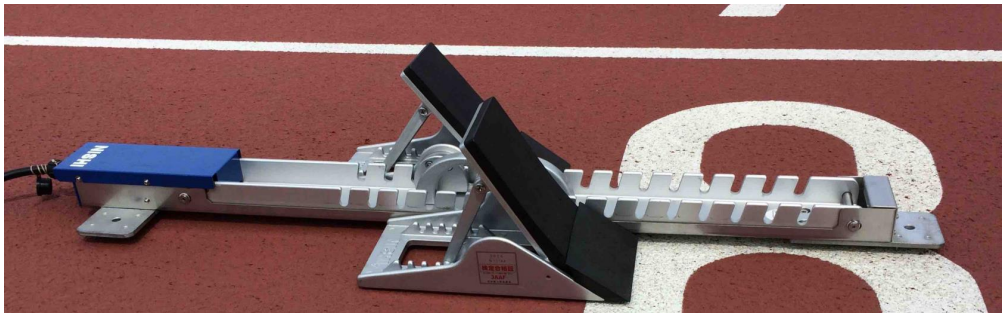
波形図Aについて
T1:0.133s(変化量検出方式によるRT)
T2:0.156s(レベル検知方式によるRT)

SISに連結したスターティングブロック

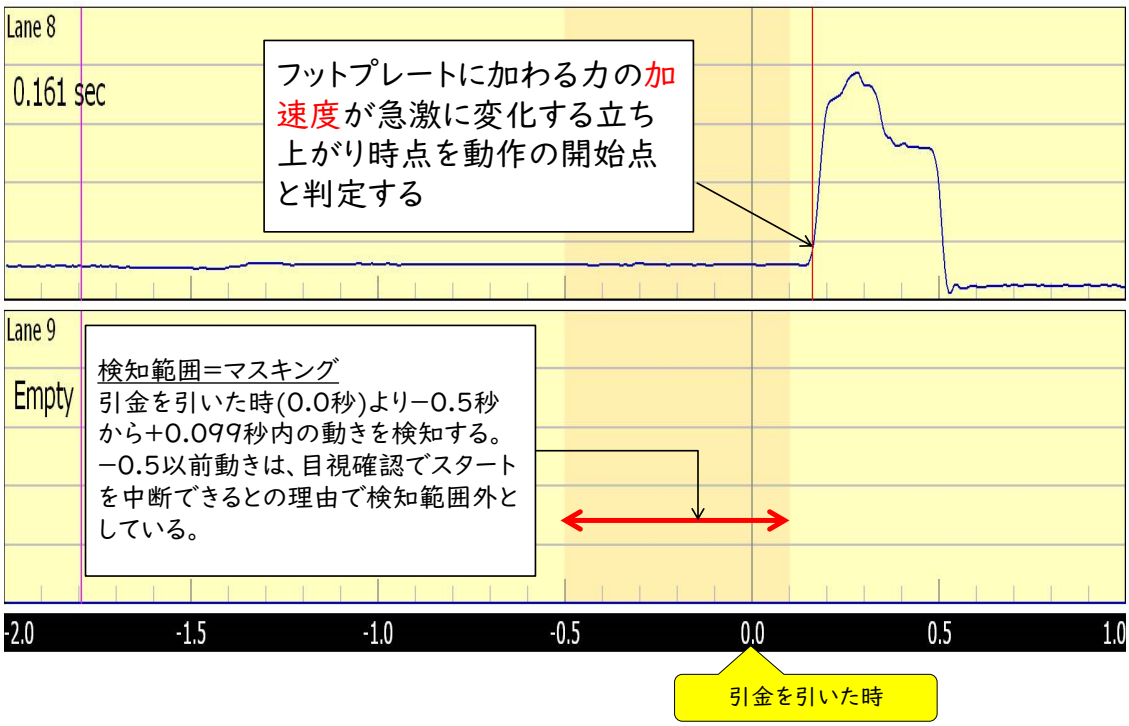
レベル検出方式

SISに連結したスターティングブロック

変化量検出方式



変化量検出方式での波形図

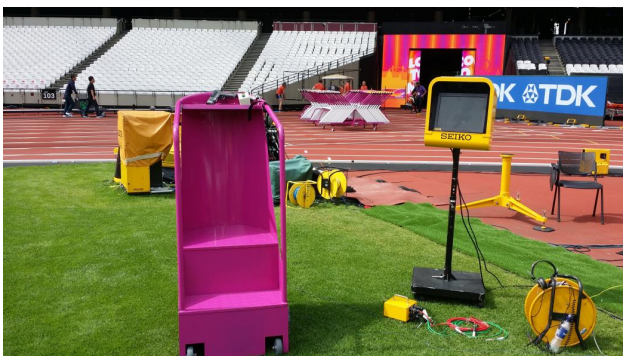


SIS使用時に注意すること

- SISで感知できない動きがあること。
（緩やかな上下の動き、小さな動き等）
- 波形図の見方、FSの判定について、チーム内で
共通理解しておくこと。（この後動画で説明）
- SISのサブモニターをスターターのそばにおくこと。
- 事前テストの確実な実施、機器に異常がないかどうか（技術者とともに）レースごとに確認すること。

※TR16.6も参照

SISのサブモニター

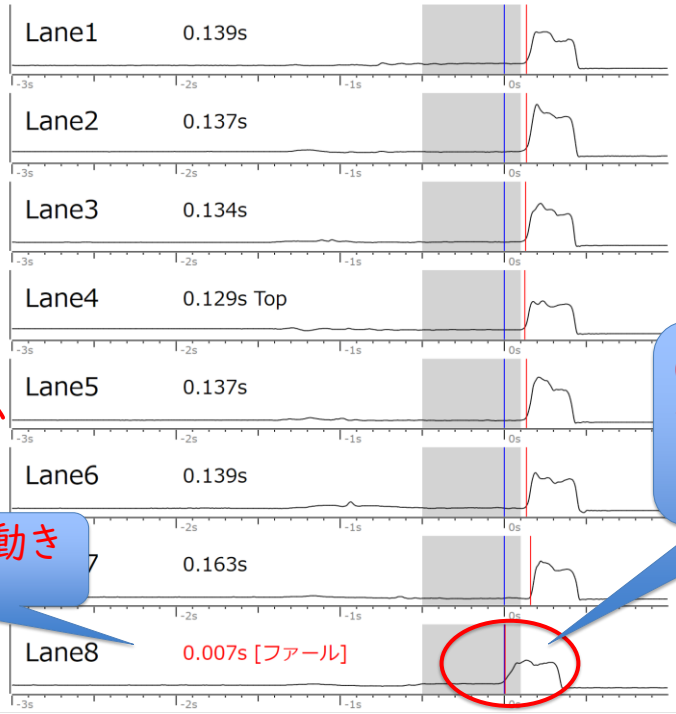


SIS使用時のFSの判定について

(1)目視でFSを確認し、SISもFSの波形を示す
→ FSと判定
(2)目視でFSを確認し、SISはFSの波形を示さない
（目視でFSを確認し、オートリコールが作動しない）
→ FSと判定 ※局所的な動きをFSと判定しないよう注意
(3)目視でFSを確認できず、SISはFSの波形を示す
→ FSと判定
※FSについては、TR16.7を参照

JAAF Japan Association of Athletics Federations

事例①
RTと波形図



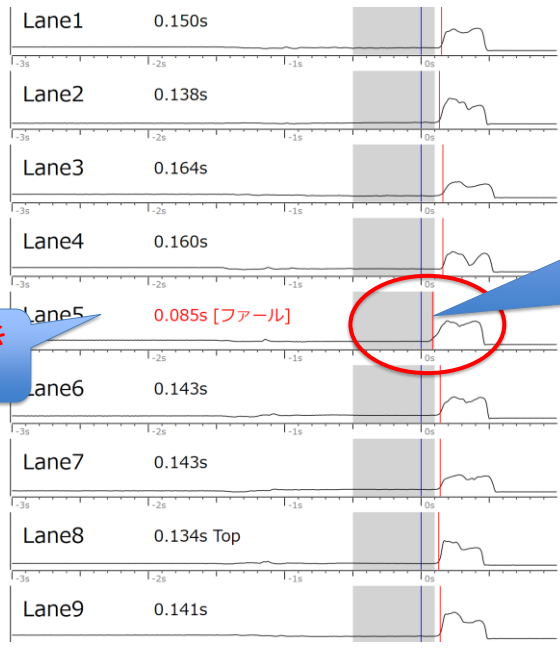
RT:0.007秒

FSの対象となる動き

0.100秒未満でスタートを開始している

JAAF Japan Association of Athletics Federations

事例②
RTと波形図



RT:0.085秒

FSの対象となる動き

0.100秒未満でスタートを開始している

JAAF Japan Association of Athletics Federations

事例③
RTと波形図

RT:0.092秒

FSの対象となる動き

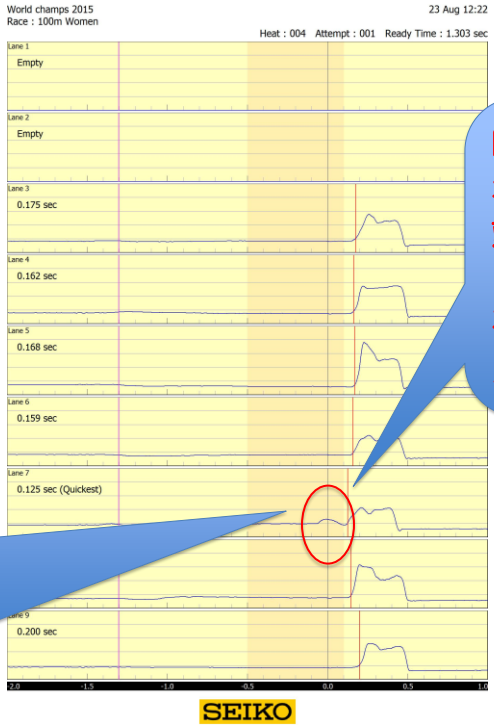
0.100秒未満でスタートを開始している

JAAF Japan Association of Athletics Federations

事例④
RTと波形図

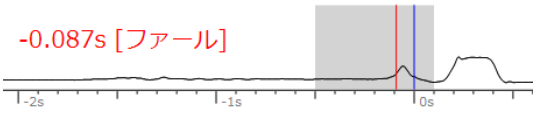
RT:0.125秒

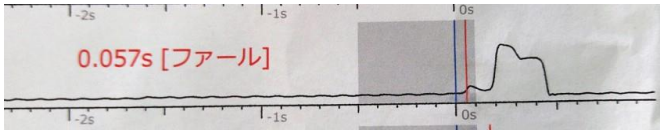
局所的な動きが読み取れる。
何を根拠としてFSと判定したのか明確にしておくこと。

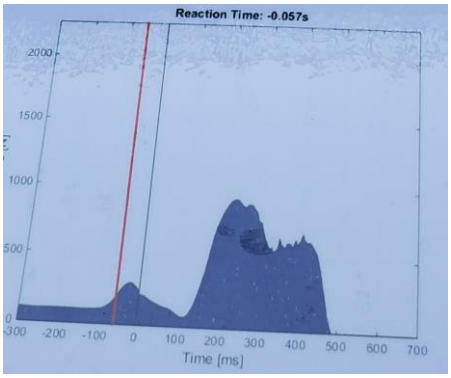


RTは正常なのでオートリコールは作動せず。
目視でリコールし不正スタートと判定された。

JAAF Japan Association of Athletics Federations

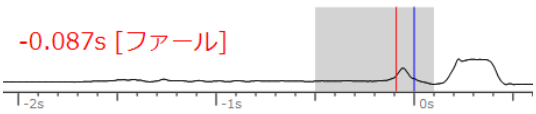


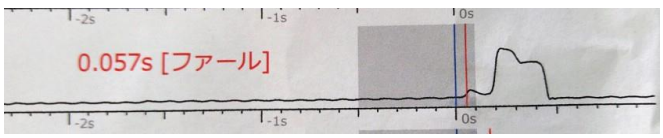


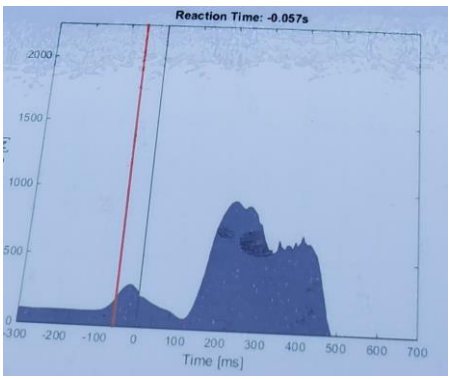


このような波形からは局所的な動きが読み取れる。
この証拠だけではFSと断定することは難しい。
もしFSと判定するのであれば目視やビデオによる証拠が必要になる。

JAAF Japan Association of Athletics Federations







オートリコールが作動し、FSではなく、局所的な動き（TR16.5.3に抵触していないの）であればグリーンカードが提示されやり直しとなる。

2024 年度全国会議資料

アナウンス内容についての確認

競技運営委員会 アナウンサーチーム

1. 日本記録等の新記録誕生のアナウンスについて

新記録が確認された時点で「新記録の誕生です!」とコメントしてよい

日本記録については本来なら、諸手続きを経て公認されるものではあるが、その場で計測された数値は事実であり、臨場感を大事にし、その瞬間を選手と観客が共有できた喜びを伝えたい。

記録が確認されてすぐ新記録のコメントをせず、当該レースや当該種目の終了を待ち、全体の結果が確定するまで待っていては、間の抜けたアナウンスになってしまう。

例えば、やり投げで北口選手が、1 回目に 70m ラインを超え、計測結果が標示されたにもかかわらず、「日本記録を上回っている模様です。正式結果をお待ちください。」などとコメントした場合、やり投げの競技が終了して投てき物の再検査が行われ、結果が確定し、結果発表まで何も言えないことになってしまう。

正式結果(確定された結果)の発表を待たねばならないとなると、臨場感のあるタイムリーなアナウンスは実現できない。

・ **トラック種目**

1 着の選手がフィニッシュして止まったフィニッシュタイマーが一度消え、レーンナンバー・風向風力の情報とともに、タイムが再表示されたところで「新記録の誕生です!」とのコメント。

ただし、黄旗が挙がっている場合は記録の確定を待つという旨のコメントに留める。

→ 黄旗がなかった場合、フィニッシュタイマーに再表示された記録が確定されたものである

・ **フィールド種目**

記録表示板に計測結果が表示されたタイミングでコメント。

→ 例) やり投の日本記録を示すのラインが引かれていて、これを完全に越えている場合は表示の前に「越えている」のコメントをして計測結果表示を待つのもよい

・日本記録について

陸連で公認されている日本記録は、CR34〔国内〕にある種目とカテゴリーであるものの、「魅せる競技会」にするためには、それ以外の国内記録についてコメントしたい場合もある(国スポなど)。

→ 日本記録(シニア)・U20 日本記録・U18 日本記録以外の学生・高校・中学等の記録をコメントする必要がある場合は、各 HP 等で事前に確認すること

日本記録…陸連 HP https://www.jaaf.or.jp/record/

学生記録…日本学連 HP https://iuau.jp/recordroom/ur.html

高校記録…(機関紙)月陸 Online https://www.rikujyokyogi.co.jp/highschoolrecords

中学記録…現在検討中

2．フィールド種目のトップ８を発表するタイミングについて

システム使用時には、トップ８の記録が確定された時点で、スクリーン使用時は表示も合わせて発表する

システムを使用している競技会では、ピットで選手に伝える前にアナウンサーによって発表できることが多い。システム使用により、記録の正確性は担保されていると考えられる。トップ8を選手に伝えるのは、フィールド審判員でなければいけないということはない。むしろ、記録が確定したら一刻も早く伝えて、時間をかけずに後半の試技へつなげる。

選手に対しては、トップ8は場内アナウンスの発表やスクリーンの表示で確認する旨を事前に伝えておき、競技を進めるというやり方をしている競技会もある。

この場合、トップ8をどのように発表するのかを事前にフィールド審判員と確認しておく。

3．選手の呼び方について

「さん・くん」を付けずに呼ぶ等、選手の呼び方についての決まりはない

陸連として「こうするべき」という指示はなく、競技会主催者が方針を立てればよい。最近は、男女ともに「さん」呼びをする場面が多くなっているが、競技会の性質や参加する選手のレベル・年齢層等を考慮して決めればよい。ただし、一旦方針が決まったならば、途中で変更するべきではないし、その競技会を通してアナウンサー全員が、同じ呼び方ができるように徹底する必要はある。

4．用語等について

原則は陸連 HP 掲載の『JAAF アナウンサーのしおり』『初めてマイクにむかう人へ』のとおり

とくに、数字の読み方・種目の読み方・途中時間の読み方等をもう一度確認してほしい。

最近では「…であります」という言い方はせず、普段の話し言葉に近い自然な言い回しになっている。

例)「・・・です」「・・・ました」等

また、400m や途中時間の読み方を「1 分 10 秒」とするのか、「70 秒」とするのかには現在のところ決まりはないが、選手に向けてのアナウンスなら、選手が普段慣れている秒単位であるし、観客に向けてなら、実生活に倣い分単位であろう。アナウンスする相手を念頭に、主任の判断で方針を立て、その競技会のアナウンサー全員が統一した言葉でコメントする必要がある。

5．競技会を盛り上げるための音楽について

演出として BGM を使用することにルール上の制限はない

BGM を使用するのか、どの程度の音量にするか等は、競技会の性質や競技の進行に応じて主催者が決める

大規模競技会などでは、プロの DJ が入り、競技中に大音量で音楽を流すことが多くなった。

この場合、競技運営上支障が出たとしても、BGM の音量調節より、競技運営の方法を工夫することが求められることもある。例えば、審判員同士の会話が聞こえにくい場合は無線を使用するなど、事前に対策を立てておくことが重要となる。

EPM が任命されていれば、BGM をいつ使用するか、どのタイミングで止めるのか等 EPM の判断によるが、EPM や DJ が不在で BGM を付けるとすればアナウンサーが兼任する場合が多い。関係者との事前の丁寧な打ち合わせにより理解を得ることが重要となる。

以 上

アナウンス内容についての確認

競技運営委員会　アナウンサーチーム

競技会運営にご尽力のみなさまに

- アナウンサーに求められていること
- 競技会を「正しく」盛り上げるための考え方
- よくある質問に対するお答え

などをお伝えしたいと思います

新記録がマークされた時のアナウンスのタイミング

- 記録が確定したらすぐに!
- 競技者と観客とが、同じ空間で新記録達成の喜びをわかち合う

競技場に足を運んでくれた観客にとっての醍醐味のひとつ
「魅せる競技会」の基本

トラック種目なら、フィニッシュタイマーに確定表示された時

- フィニッシュの瞬間はタイムだけの表示
  風向風力が必要な種目ならここで必ず風の確認を忘れずに
- 一度消えて、
  レーンNo.と共にタイムが表示されたものは1着の確定結果
- スクリーンの表示が「LIVE」や「審議中」などでも
  1着だけは確定されている

新記録がマークされた時のアナウンスのタイミング

フィールド種目なら、記録表示板に表示された時

- HJ・PVならバーを越えて白旗があがった時
- 長さを競う種目なら表示板にビブナンバーと共に記録が表示された時

LJ・TJは白旗があがったら風の確認を忘れずに

記録の目安となるラインやマークを越えていたら

「これまでの記録を越えているようだ」などとコメント

……計測中にワクワクしながら待つのも醍醐味

「正式結果」を待っていては…

- トラック上では競技者は喜び、観客も拍手を送っているところへ
  「先ほどの記録は新記録でした」のコメントをするの？
- フィールド種目だと、正式結果が出るころには だいたい競技が終わっている
  競技エリアに誰もいないところで誰を称えるの？

ライブ感を演出するためにも、いつの時点で記録が確定されるのか知っておく

アナウンサーは競技規則の熟知も必要

日本記録について

- 陸連が日本記録として認めているのは
  CR34〔国内〕にある種目とカテゴリー
- 国スポ・インターハイ・全中とそれぞれの予選大会などでは
  学生・高校生・中学生の歴代の記録や最高記録などもコメントしたいもの
  それらの記録については、陸連としての決め事はありませんが、
  コメントするなら正確な記録を扱ってほしい

参考までに・・・

日本記録…陸連HP　https://www.jaaf.or.jp/record/

学生記録…日本学連HP　https://iuau.jp/recordroom/ur.html

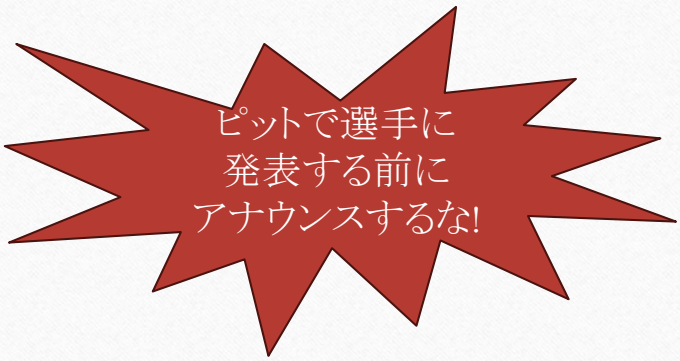
高校記録…(機関紙)月陸Online
https://www.rikujyokyogi.co.jp/highschoolrecords

フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

- システム使用競技会で、アナウンサーがトップ8の発表をした

フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

- システム使用競技会で、アナウンサーがトップ8の発表をした



フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

- システム使用競技会で、アナウンサーがト…

ピットで選手に
発表する前に
アナウンスするな!

- フィールド審判員が発表しなくてはならないというルールはない
  準備が整えば競技者を待たせずにどんどん進めるべき

フィ…ップ8を発表するタイミング…ついて

このあとトップ8が
アナウンスされるので
よく聞いてください

ピットで選手に
発表する前に
アナウンスするな!

- フィールド審判員が発表しなくては…ない
  準備が整えば競技者を待たせ…

スクリーンにも表示される
ので試技順も含めて
確認してください

フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

このあとトップ8がアナウンスされるのでよく聞いてください

スクリーンにも表示されるので試技順も含めて確認してください

ピットで選手に発表する前にアナウンスするな!

- フィールド審判員が発表しなければならないというルールはない
  準備が整えば競技者を待たせずにどんどん進めるべき

- 競技開始前に関係部署で打ち合わせをしましょう

『JAAFアナウンサーのしおり』『初めてマイクにむかう人へ』
もう一度確認してください

- 「くん・さん」について、陸連の決め事はありません
  競技会の主旨・出場者などを考慮して主催者が決めてください
- 「…であります」は言わず、普段の話し言葉「です・ます・でした」
- 数字の読み方　「1分」と「8分」等々
- ラップタイムを読むタイミング　「鮮度」が大事
- アナウンスの考え方は年々変化しています

大規模競技会がすべての手本ではありません

- アナウンサーのやり方・考え方は、その競技会の規模やレベルに合わせて
  日本選手権と地区記録会とは別のやり方があるはず…真似る必要はありません
- 盛り上がるだろうという思い込みからの
  - ✓ BGMの使用…プロのDJは、場面に合わせ、最大の効果を狙った音選びをしています
  - ✓ 絶叫型アナウンス… TVの真似？ 感情移入しすぎていませんか？
  - ✓ リプレイを見せながら主観を交えた解説…アナウンサーは判定には関わりません

競技会はアナウンサーのパフォーマンスを披露する場ではありません

充実したアナウンスのために

競技をこなすだけで精いっぱいの競技会がほとんどだと思いますが…

- 競技者の戦績など下調べが必要。 時には下調べに何日も費やすことも
  → アナウンサーにも事前にエントリーリストなどの資料提供をお願いします
- ルールにも精通していないとコメントに困ることがあります
  → 勉強の機会を。 FOPでの審判員経験はコメントの充実が期待できます
- 若手の育成は急務です → アナウンサーに限りませんが…
- タイムテーブルにも工夫を
  → できれば複数のフィールド種目のトップが決まるタイミングが重ならないような・・・

競技会運営にご尽力のみなさま

どうかご協力お願い申し上げます

JAAF

2025年度公認競技会申請について

公益財団法人日本陸上競技連盟
競技運営委員会カレンダー記録PT
（2025/02/15）

JAAF

変更内容
- 方法は24年度と同様です
- 競技会コードに関して、採番ルールを変更しました！
  別途通知文をご確認ください！

目次

- 申請スケジュール ····3
- ① 1次申請
  1. Excelファイルを作成する ····4
  2. システムにログインする ····5
  3. Excelファイルをアップロードする ····6
  4. アップロードした内容を確認する ····7
  5. 申請する･承認待ち ····8
  6. 承認済み ····9
- ② 変更･中止･新規大会追加申請
  1. 編集ボタン ····10
  2. 変更･中止 ····11-12
  3. 新規大会追加 ····13
- ③競技会コード
  1. 新たな運用コード一覧 ···14-17
  2. コード設定のイメージ ···18
- 担当について ···19
- お願い ···20-21

申請スケジュール

JAAF

スケジュール	内容	
2/17(月) ～3/7 (金)	①1次申請	1. 申請用のExcelファイルを作成してください。 2. 下記URLにログインして、 https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/ Excelファイルをアップロードしてください。
3/8(土)～	②追加・変更 中止など	1次申請以降は https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/ にアクセスして追加・変更・中止作業を行ってください。

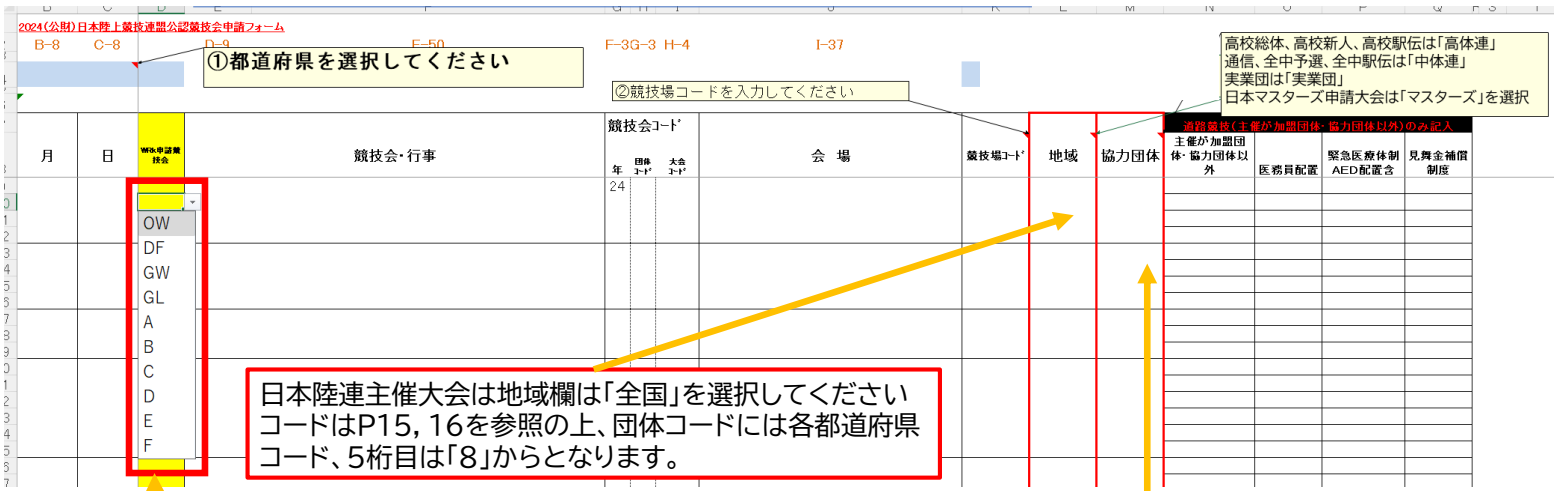
申請者が24年度から変更になる場合は、kyogi25@jaaf.or.jpまでご連絡ください

①-1 一次申請(Excelファイルを作成する)

JAAF

学連競技会以外の、自県で開催する全ての公認競技会を申請してください。

全国大会、地域大会も開催県から申請してください。



①-2　一次申請(システムにログインする)

JAAF

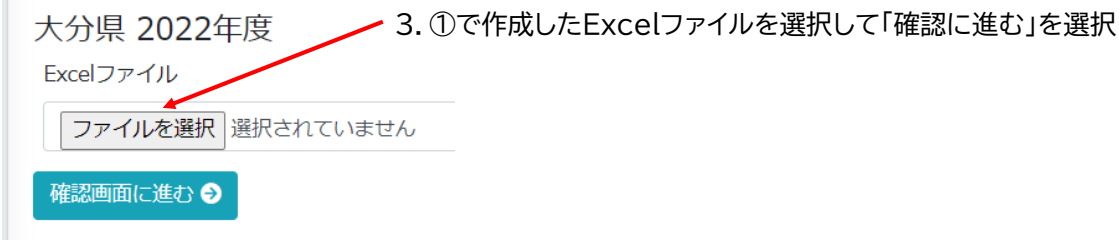
https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/
にログインしてください

①で設定したメールアドレスを入力してください

①で設定したパスワードを入力してください

①-3　一次申請(Excelファイルをアップロードする)

JAAF



①-4　一次申請(アップロードした内容を確認する)

JAAF

1. アップロードされた内容を確認してください

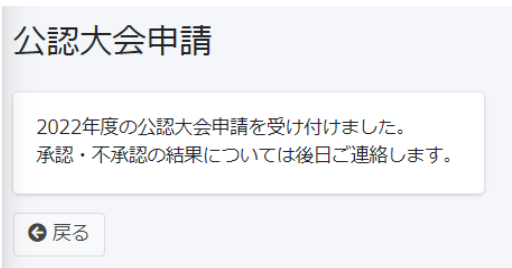
2. 競技場の公認期間を確認してください
期間が切れていれば、期限切れが表示されます

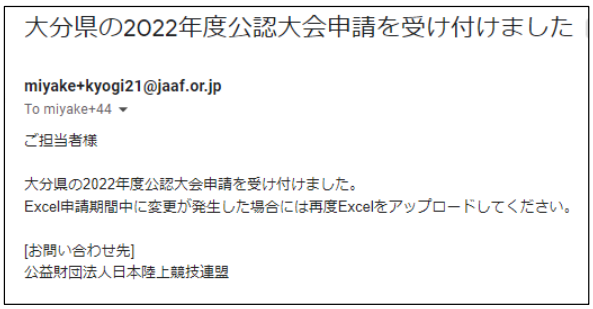
3. アップロードした内容で問題なければ「申請する」を
修正がある場合はExcelファイルを修正して、再度アップロードしてください

①-4　一次申請(申請する・承認待ち)

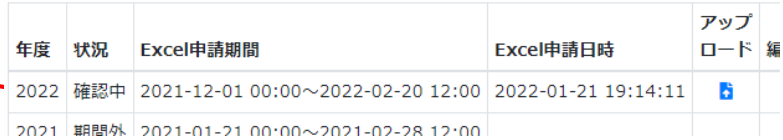
JAAF

1. 申請が完了すると受け付けたことが表示されます。
また自動返信メールが送信されます。





2. 申請状況のステータスが
「確認中」に変わります



①-4　一次申請（承認済み）

JAAF

1. 日本陸連に承認されると申請状況のステータスが「チェック済」に変わります。
   また日本陸連からメールが送信される場合があります。

大分県

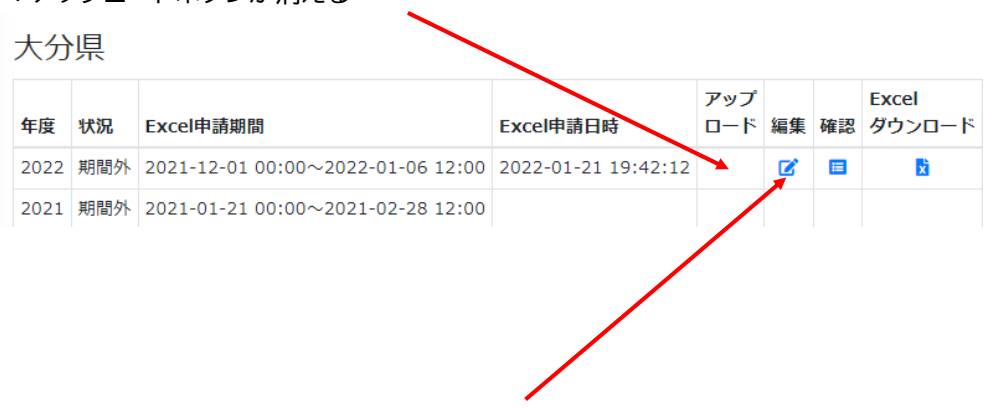
年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excel ダウンロード
2022	チェック済	2021-12-01 00:00～2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:27:09				
2021	期間外	2021-01-21 00:00～2021-02-28 12:00					

2. 現在の状況をExcelファイルでDLすることができます

②-1　変更・中止・新規大会追加申請（編集ボタン）

JAAF

1. 1次申請期間が過ぎるとExcelファイルがアップロードできなくなります。
   ＊アップロードボタンが消える



大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excel ダウンロード
2022	期間外	2021-12-01 00:00～2022-01-06 12:00	2022-01-21 19:42:12				
2021	期間外	2021-01-21 00:00～2021-02-28 12:00					

2. 1次申請期間後の追加・変更・中止の申請に関しては「編集」機能で申請してください。
   こちらのボタンを押してください。

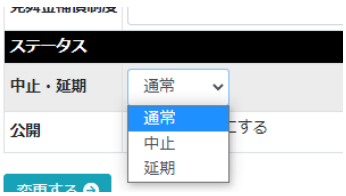
②-2　変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

JAAF

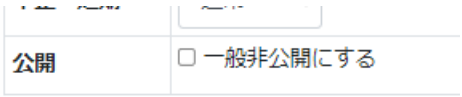
1. 変更・中止する大会の「編集」を押してください

2. 内容を変更する場合は、記載内容を変更して「変更する」ボタンを押して下さい。

3. 中止の場合は、「中止」を
延期の場合は、「延期」を選択してください。



4. 削除の場合は、「一般非公開にする」にチェックしてください。



②-2　変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

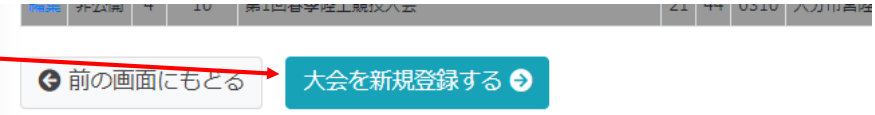
JAAF

WRk申請競技会の場合は、そのグレードを選択してください。
国内の競技会はほとんどの場合「F」です。

②-3　変更・中止・新規大会追加申請（新規大会追加）

JAAF

1. 追加する場合は画面の一番下の
「大会を新規登録する」を押してください



2. 必要な情報を入力して、「追加する」ボタン
を押して下さい。

③　競技会コード　コード体系

JAAF

（例）２５（年）　１３（団体CD)

年度と団体コードの前4桁
は変更ありません！！

JAAF

（例）２５（年）　１３（団体CD)→最初の4桁

００００（主催者に応じたコード設定）

P16 に細かくコード説明あり

P17 に細かくコード説明あり

	5桁目	6桁目～8桁目	
		トラック	ロード
陸協主催	0	000～799	800～999
加入団体主催	1	000～799	800～999
地域陸協主催	2	000～799	800～999
中学生だけの大会(全中予選・突破会含む)	3	000～799	800～999
高校生だけの大会(IH予選など)	4	000～799	800～999
日本実業団連合・地域実業団主催	5	000～799	800～999
マスターズ連合承認	6	000～799	800～999
その他	7	000～799	800～999
日本陸連主催	8	000～799	800～999
WA・AAAの大会	9	000～799	800～999

	3桁目～4桁目	5桁目～8桁目
日本学連	60	0000～連番
北海道学連	61	0000～連番
東北学連	62	0000～連番
関東学連	63	0000～連番
北信越学連	64	0000～連番
東海学連	65	0000～連番
関西学連	66	0000～連番
中四国学連	67	0000～連番
九州学連	68	0000～連番

JAAF

（例）２５（年）　１３（団体CD)→最初の4桁

００００（主催者に応じたコード設定）

中体連・高体連の主催が日本陸連の際は以下の５桁目の番号「３」「４」を優先ください。

中学生だけの大会	5桁目	6桁目～8桁目
全日中	3	000
地区中学(例:関東中学)	3	100
通信陸上(県レベル)	3	200
総体(県レベル)	3	201
県中学新人	3	202
混成大会	3	203
それ以外のトラック競技会	3	210～
全中駅伝(全国)男子	3	800
全中駅伝(全国)女子	3	801
全中駅伝(地域)男子	3	810
全中駅伝(地域)女子	3	811
全中駅伝県予選　男子	3	820
全中駅伝県予選　女子	3	821
それ以外のロード競技会	3	830～

高校生だけの大会	5桁目	6桁目～8桁目
全国IH	4	000
全国定時制通信制	4	001
地区IH	4	100
地区高校新人	4	120
県IH	4	200
県高校新人	4	220
それ以外のトラック競技会	4	250～
全国高校駅伝　男子	4	800
全国高校駅伝　女子	4	801
高校駅伝(地区)男子	4	810
高校駅伝(地区)女子	4	811
高校駅伝(県)男子	4	820
高校駅伝(県)女子	4	821
それ以外のロード競技会	4	830～

③ 競技会コード　コード体系

JAAF

（例）２５（年）　１３（団体CD)→最初の4桁

００００（主催者に応じたコード設定）

日本陸連主催大会	5桁目	6桁目～8桁目
日本選手権	8	000
日本選手権･混成競技	8	001
日本選手権10000m	8	002
日本選手権･リレー競技	8	003
国民スポーツ大会	8	004
日本選手権･室内競技	8	005
日本室内陸上競技大阪大会	8	006
ゴールデングランプリ陸上	8	007
ホクレン･ディスタンスチャレンジ深川大会	8	008
ホクレン･ディスタンスチャレンジ士別大会	8	009
ホクレン･ディスタンスチャレンジ千歳大会	8	010
ホクレン･ディスタンスチャレンジ北見大会	8	011
ホクレン･ディスタンスチャレンジ網走大会	8	012
全国高等専門学校体育大会	8	013
U20日本選手権	8	014
U20日本選手権･混成競技	8	015
U18陸上競技大会	8	016
U16陸上競技大会	8	017
全国小学生陸上競技交流大会	8	018
日本選手権･20km競歩	8	800
日本選手権･35km競歩	8	801
日本選手権･クロスカントリー競走	8	802
全国都道府県対抗男子駅伝競走大会	8	803
全国都道府県対抗女子駅伝競走大会	8	804

日本陸連主催大会	5桁目	6桁目～8桁目
長野マラソン	8	805
東京レガシーハーフマラソン	8	806
福岡国際マラソン	8	807
大阪国際女子マラソン大会	8	808
大阪マラソン	8	809
東京マラソン	8	810
名古屋ウィメンズマラソン	8	811
全日本競歩能美大会	8	812
U20日本選手権･クロスカントリー競走	8	813
U20選抜競歩大会	8	814
全国 U17/U16/U15 クロスカントリー大会	8	815

日本実業団	5桁目	6桁目～8桁目
全日本実業団陸上	5	000

マスターズ	5桁目	6桁目～8桁目
全日本マスターズ	6	000

コード設定のイメージ

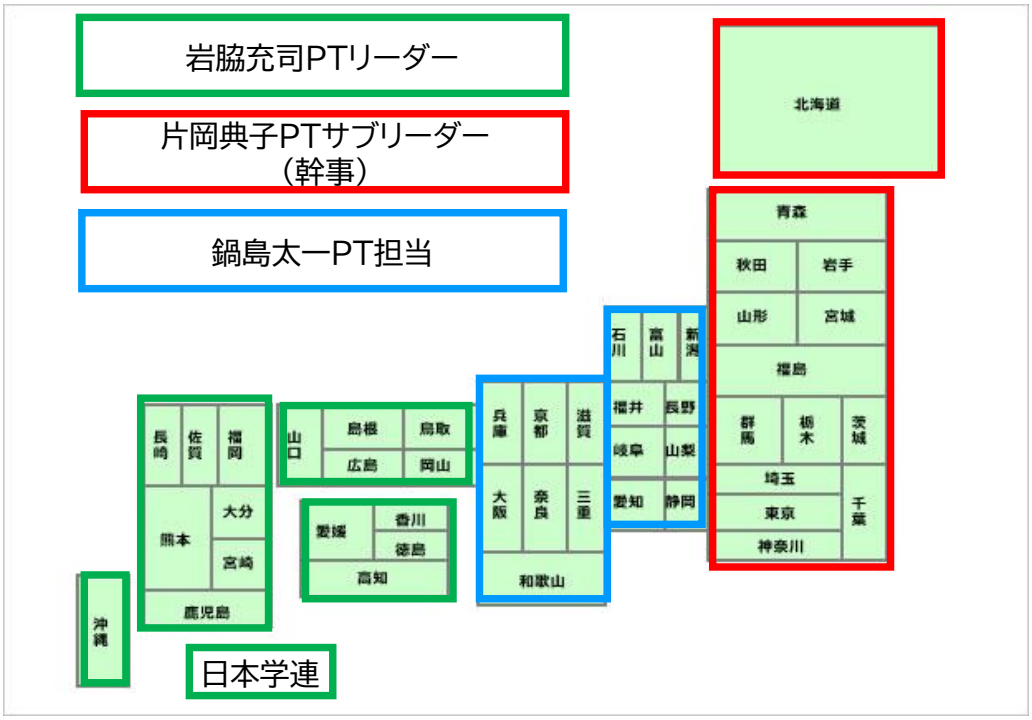
JAAF

合計8桁	4桁（最初）		5桁目	6～8桁目	
（内は団体に応じて変動）	2桁	2桁	1桁	3桁	
競技会コード	年度（2桁）	団体CD（2桁）	主催（1桁）	大会に応じた(3桁)	大会のイメージ
25(01-47)0000	25	01-47	0	000	（例）県陸協主催の第1回大会
25(01-47)0001	25	01-47	0	001	（例）県陸協主催の第2回大会
25(01-47)0800	25	01-47	0	800	（例）県陸協主催のロードレース大会
25(01-47)1000	25	01-47	1	000	（例）陸連市陸上競技大会
25(01-47)1001	25	01-47	1	001	（例）陸連クラブ陸上記録会
25(01-47)1002	25	01-47	1	002	○○地区獣医学陸上競技大会
25(01-47)1800	25	01-47	1	800	（例）陸連市ロードレース大会
25(01-47)2000	25	01-47	2	000	（例）地域陸協主催の選手権大会
25(01-47)2800	25	01-47	2	800	（例）地域陸協主催のマラソン大会
25473000	25	47	3	000	（25沖縄開催）全日本中学陸上競技選手権大会
25093100	25	09	3	100	（25栃木開催）関東中学陸上競技大会
25(01-47)3200	25	01-47	3	200	各都道府県通信陸上県大会
25(01-47)3210	25	01-47	3	210	各都道府県通信陸上県大会○○地区予選会
25344000	25	34	4	000	（25広島開催）全国高校陸上競技対校選手権
25(01-47)6000	25	01-47	6	000	マスターズ連合承認大会（承認外は主催"0"にて）
25139000	25	13	9	000	（25東京開催）世界陸上競技選手権大会
競技会コード	年度	団体コード	主催（1桁）	大会に応じた(3桁)	大会のイメージ
合計8桁	2桁	2桁	1桁	3桁	
（内は団体に応じて変動）	4桁（最初）		5桁目	6～8桁目	

コードの付番への質問は
kyogi25@jaaf.or.jp
までご連絡ください。

担当者について

JAAF



お願い

JAAF

・道路競走について　公認コースで途中距離のレースを行う場合の申請では、必ず競技会名に続いて（　）書きで「公認される実施種目」を表示してください。

【記入例】25　13　0800　第71回元旦競歩（20km,10km,5km）137230　神宮外苑絵画館20km

申請できる距離は公認がされているものに限ります。途中の距離も含めてコースの公認が取れていない申請は無効となります。

駅伝競走および**クロスカントリー**は、公認コースでなくても公認競技会として扱っています。

この場合、コースの出発場所～到着場所または、○○公園周回コースなどを記入してください。競技場・競走路コードは空欄としてください。

・公認陸上競技場・長距離競走路・競歩路のコードについて

申請時の公認陸上競技場・長距離競走路・競歩路の中には、公認期限が切れているものや、年度内に公認期限が切れる

ものが見受けられます。

公認期限切れの公認陸上競技場・長距離競走路・競歩路で開催された競技会は非公認になります。年度途中で有効期限に

達する場合は特にご注意ください。また、公認検定で競技場種別が昇格または降格する場合や名称が変更される競技場があります。確認でき次第すぐに更新手続きを行ってください。

くれぐれも「期限切れ」のまま競技会を開催することのないよう、ご留意ください。

・すべての競技会は開催前に**事前申請**でお願いします。**事後申請は受け付けません。**
申請せずに実施した競技会の記録は公認されません。

尚、自然災害などで申請が事後になる際、また発生した際はご連絡をお願いします。

・新たな競技会コードでの運用初年度となります。旧コードの【50】などが使用されて申請がされていた場合は差し戻させていただき変更のお願いしますので、先コードをご確認の上、**確実な申請**をお願いします。

2025年度も公認競技会申請業務へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

日本記録申請・公認記録申請について

日本陸上競技連盟
競技運営委員会

1. 2024 年度に樹立された日本記録の数

※ 2024 年 12 月 31 日までの記録を集計してもっともよい記録を日本記録として認定する。

✓ 日本記録	男子･･･15 (含室内(i)を 6)	女子･･･19 (含室内(i)を 5)	混合･･･1
✓ 日本タイ記録	男子･･･1 (含室内(i)を 1)	女子･･･0	混合･･･0
✓ U20 日本記録	男子･･･8	女子･･･8 (含室内(i)を 2)	混合･･･0
✓ U20 日本タイ記録	男子･･･0	女子･･･0	混合･･･0
✓ U18 日本記録	男子･･･2	女子･･･7	混合･･･0
✓ U18 日本タイ記録	男子･･･0	女子･･･0	混合･･･0

2. 日本記録の追加認定について

	種目	記録	氏 名	所 属	競技日	競技会名	場所
男	1 マイル(ロード)	4:01.26	館澤 亨次	DNA	2023/10/1	World Road Running Championships Riga 2023	Rīga LVA
女	1 マイル(ロード)	4:32.0	田中 希実	New Balance	2023/9/3	DIE NEW BALANCE KO MEILE	Düsseldorf DEU

3. 日本記録について

世界陸連(WA)は 2024 年から各国のナショナルレコード(日本記録)は WRk 大会でマークされた記録のみ認定する。

これに伴い、2024 年以降、非 WRk 競技大会でマークされた日本記録が WRk 大会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて記録を区別する。**CR34.10**

(W):WRk 競技会でマークされた日本記録

(J):非 WRk 競技大会でマークされた日本記録

女子 800m　杉森 美保選手　2:00.45(W)
　　久保 凛選手　1:59.93 (J)

		WRk 競技会	非 WRk 競技会
国内大会	日本･U20 日本記録	○	○
	U18 日本記録	○	○
	公認記録	○	○
海外大会	日本･U20 日本記録	○	×
	U18 日本記録	○	×
	公認記録	○	×

4. 日本記録を認める種目について

世界陸連(WA)の世界記録を認める種目追加にともない、日本記録も追加する。

注意1) 屋外、室内の区別がなくなる。400m トラックまたは 200msh

※ sh ⇒ ショート・トラック

注意 2) 風力の報告が必要ない場合がある。

※ ルールの修改正を参照し、遺漏のないように気をつける。

例1) 室内での競技会

例2) 200msh で実施された、200m

5. 日本記録の申請について

･･･公認記録申請しても、日本記録がつくられた時は日本記録の申請も忘れずにしてください。

＜日本記録申請に必要な資料＞

日本記録がつくられた時には、競技会を統括する加盟団体は本連盟に成績を速やかに連絡し、記録を確認するために必要な資料を揃え送付しなければならない。

⇒ できるだけ速やかに申請する(競技会終了後、一週間をめどとする)

日本記録は、(a) 日本記録　(b) U20 日本記録　(c) U18 日本記録
(d) 日本記録(sh)　(e) U20 日本記録(sh)　(f) U18 日本記録(sh)　とする。

このうち、(a)日本記録、(b)U20 日本記録、(c)U18 日本記録は、本条の日本記録の公認要件を満たしていなければならない。また、(d)日本記録(sh)、(e)U20 日本記録(sh)、(f)U18 日本記録(sh)は、CR31.13 ショート・トラック世界記録の公認条件に準じる

✓ 日本記録申請に必要な資料には、以下のものが挙げられる。

① すべての種目に共通して必要なもの

日本陸上競技連盟新(タイ)記録申請書 ⇒ **申請用紙は、JAAF-30A～JAAF30G の用紙**

(1) 当該種目
(2) 達成記録
(3) 風力(追い風が問題となる各試技の実施時)
(4) 競技者名と所属名(競技者が U20、U18 の場合は、生年月日)
(5) 競技会が行われた日時
(6) 競技会の開かれた場所
(7) 競技会名
(8) 本連盟の規則が正確に適用されたことの確認(総務と当該審判長に署名)
(9) 競歩競技の場合は、判定を行った 3 人の JRWJ の署名 CR34.4.6

<添付書類>　(1) 印刷した大会プログラム　(2) 当該種目の全記録(予選を含む全記録)

② トラック競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

✓ 写真判定が行われた場合には、その記録の判定写真および該当する種目のスタート地点で実施、またはジャンパー線を使用してスタート地点で使用する機器で行ったゼロ・コントロールテストの写真
※ 印刷に数値が表示さない機種については画面で確認したものを記入する。

③ フィールド競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

✓ 全記録用紙。申請に用いる成績表は、コンピュータで記録処理を行った競技会にあっては、コンピュータシステムに直結した印刷装置で出力した記録表もしくは、その記録表をもとにして製版印刷された記録表を使用することができる。また、電子データによる申請も、所定の要件を満たす場合は使用することができる。

✓ 科学測定を行った場合は、確認を行った全審判員のサインが入った適合確認書を添付する。

※ フィールド記録用紙は一跳、一投ごとに計測した記録を記入する。

④ 投てき競技の場合、①③に加えてさらに必要なもの

✓ 使用した投てき物の試技後の検査（技術総務等確認者のサイン）
※ 確認者のサインは、申請書 E・F にあるサイン欄に行う。

⑤ その他

✓ 日本記録がオリンピック種目の場合は、ドーピングテストを受ける必要があり（U20、U18 は対象外）

✓ 海外における競技会で、日本記録がつくられた時は、それを確認できる記録証明書等。

【競技会参加前に登録証明承認書（海外大会出場用）の提出が必要】

※ 使用されたシューズが、WA が発表しているリストに適合しているかの確認を含めルールに則り競技が行われたことを承認するサイン

＜日本記録申請に関する留意事項＞

① 日本陸連に一報を入れてください。
② 必要な書類を整えてください。

✓ 注意を要する点❶

・ハードル競技

インターバルが同じ場合、高さが不利になる競技で出された記録は年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例1）U18 の競技者が、年齢の高い規格の競技に出場し、U18 の日本記録を超えた場合は、年齢の低いクラスでの日本記録となる。(シニアの競技に出場した場合も同様)

110mH の例(インターバル＝9.14m)

	シニア	U20	U18
高さ	1.067m	0.991m	0.914m

✓ 注意を要する点❷

・ **投てき競技**

重さが不利になる競技で出された記録は、年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例2）砲丸投で U18 の競技者が、6kg の砲丸で U18（5kg）の日本記録を超えた場合は、U18 の日本記録となる。 ※ その他の投擲競技も同様

③ U20、U18 日本記録および日本タイ記録については、**生年月日をしっかりと確認してください**。

✓ アンダー18（U18）男子・女子：競技会が行われる年の 12 月 31 日現在で
16 歳あるいは 17 歳の競技者

✓ アンダー20（U20）男子・女子：競技会が行われる年の 12 月 31 日現在で
18 歳あるいは 19 歳の競技者

〔国内〕 国内の U18、U20 競技会では、年齢区分の下限は設けない。

6. 記録の公認申請について

公認記録

加盟団体は、主催、共催あるいは所管した競技会の成績表（トラック種目とリレー種目の予選・準決勝・決勝記録表、フィールド種目の記録表、混成競技記録表等）各 1 部を、**できるだけ速やかに本連盟へ送付しなければならない（競技会終了後、一週間をめどとする）。**成績表に報告された以外の記録は、いかなる場合も公認記録の対象とはならない。

※ 審判ハンドブック 2023-2024 年度版 p.48「公認記録申請の方法」を参照

JAAF Japan Association of Athletics Federations

高さを競う競技の記録公認について
公認記録申請先の変更について

2025年2月15日（土）
日本陸上競技連盟
競技運営委員会　岩脇　充司

1

JAAF Japan Association of Athletics Federations

上位大会出場枠の最終順位に同順位がいた場合の決定試技の記録公認について①

（高さを競う競技）

今年度まで　⇒　**別競技会**として申請することで公認記録とする

※別競技会とは・・・公認競技会としてコード番号を新規に振り、公認競技会申請をする
(事後申請)
記録用紙を別に作成し、決定戦になってからの全試技の記録を記入する

問題点　・1位を決めるためのジャンプオフ方式を使用してよいのか
・システムのデジタル化により事後申請はできない　　など

2

JAAF Japan Association of Athletics Federations

上位大会出場枠の最終順位に同順位がいた場合の決定試技の記録公認について②

2025年度より

[国内]ルールを追加

上位大会出場枠の最終順位に同順位の競技者がいた場合、その出場者の決定には１位決定のジャンプオフ方式を適用することができる。

※記録を認めるということをルール上で明確化

注意点・・必ずこの方法を使用しなければならないということではない

抽選、くじ引き、競技を行って出場者を決める手段の1つである

3

JAAF Japan Association of Athletics Federations

上位大会出場枠の最終順位に同順位がいた場合の決定試技の記録公認について③

前提として

競技注意事項等に上位大会出場枠の最終順位に同順位がいた場合の決定方法を明記する

上位大会出場者を決定するための「別ラウンド」または「追加試技」として本大会と一緒に公認申請をすることができる

競技の名称については、

例：「関東大会出場決定戦」のようにする。

※「６位決定戦」等とはしない

⇒　「順位の決定ではない」

4

JAAF Japan Association of Athletics Federations

公認記録申請先の変更①

公認申請先・・・陸マガ記録室

⇓

日本陸連　公認競技会申請サイトへ移行

申請方法・・書類での申請を無くし、**電子申請のみ**に変更

※１年間の猶予期間を設定・・書類送付ではなく、**メール添付方式**で

必要書類・・トラック種目(予選･準決勝･決勝記録表、上位成績一覧表)
フィールド種目の記録表
混成(混成一覧表、各種目記録表)

→全競技の全試技がわかるもの

5

JAAF Japan Association of Athletics Federations

公認記録申請先の変更②

１）原則、公認ではない種目はアップロードしない
(初めから非公認と分かっているもの)

※１　ロードレースなどは、公認される距離を参加者に周知してください

※２　ロードレースなど非登録者が出場できる大会は注意してください

※３　完走(完歩)していない競技者の途中記録は公認記録とはならない
ただし、記録を削除すると、順位等に影響する場合がある

競技注意事項等に「完走(完歩)していない競技者の途中記録は公認記録とはならない」ことを明記して、**周知**する

6

JAAF Japan Association of Athletics Federations

公認記録申請先の変更③

２）陸連登録者の記録を公認記録として認める

※陸連登録者が公認競技会に出場できる

※**登録していないと公認記録とはならない**

登録作業完了とは・・登録料の支払いが済み、ＪＡＡＦＩＤが振られていること

お願い

記録を公認申請しても登録作業が終了していなければ記録と結びつけられない

⇒　**登録作業を早めて**、公認記録となるようにお願いします

7

JAAF Japan Association of Athletics Federations

公認記録申請先の変更④

３月１２日に公認記録申請担当者の説明会を開催

アップロードの仕方
データの形式
アップロードの権限　　などの説明を行う

8

2024年度全国会議資料

2025年4月改訂の記録用紙等について

競技会カレンダー・記録PT

1. JAAF-05 (競歩)

新たに「競歩審判員主任補佐　失格告知記録」が追加されました。
これに伴い、これまでの JAAF-05 競歩審判記入用紙 をJAAF-05Aとし、
新たに追加された用紙を JAAF-05B とします。

2. JAAF-04 計時記録判定表

9レーン対応の短距離用Aと 1枚で30人まで記入できる長距離用Bとしました。

3. JAAF-30 日本記録・日本タイ記録申請書

・その記録がマークされた競技会がWRkだった場合に、チェックを入れる欄を追加しました。
サンプルとしてトラック個人種目の用紙を掲載していますが、他のすべての種目の申請書にこの欄が追加されます。
・競歩の日本記録申請書C・GのJRWJ自署欄をルール改正に伴い、3名分にしました。

4. JAAF-35 競技会で使用する略号例

文書の中に掲載されている略号一覧に「記録に付随して用いる略号」が追加されました。
・非WRkでマークされた日本記録(J)がWRkの記録(W)を上回る場合に、区別します。
・女子マラソンで、男女混合のレースでマークされた記録には(Mx)を付けて、
女子だけのレースでマークされた記録は(Wo)を付けて区別します。
これまでも使用してきている略号ですが、一覧に記載されていなかったので追加されました。

※ 記録用紙については、陸連HPに掲載されています。
（陸連HP→委員会情報→競技運営委員会「JAAFが定めている記録用紙などの様式」）
ただし、この用紙を使用しなくてはならないというルールはありません。
記載するべき項目が記入できれば、主催者が必要に応じて編集して構いません。

以 上

競歩審判記入用紙 / Race Walking Judge Record

競技者No. /Bib No.	イエローパドル / Yellow Paddle		レッドカード / Red Card	
	～	＜	≈	≪

競技者No. /Bib No.	イエローパドル / Yellow Paddle		レッドカード / Red Card	
	～	＜	≈	≪

審判員No./Judge's No.　　審判員サイン/Judge's Signature

競技会/Competition

種目 / Event　男子/Men　女子/Women　　距離/Distance

期日及び場所/Date & Place

（JAAF-05A. 2025/04）

書式番号が変わりました

競歩審判記入用紙 / Race Walking Judge Record

競技者No. /Bib No.	イエローパドル / Yellow Paddle		レッドカード / Red Card	
	～	＜	≈	≪

競技者No. /Bib No.	イエローパドル / Yellow Paddle		レッドカード / Red Card	
	～	＜	≈	≪

審判員No./Judge's No.　　審判員サイン/Judge's Signature

tion

種目 / Event　男子/Men　女子/Women　　距離/Distance

期日及び場所/Date & Place

（JAAF-05A. 2025/04）

主任補佐が使用する記録用紙が新たに追加されました
これに伴い、これまでJAAF-05だった用紙をJAAF-05Aとし、
この用紙にはJAAF-05Bの番号が付与されました

CHIEF JUDGE ASSISTANT RECORD SHEET

競歩審判員主任補佐　失格告知記録

No.	Bib Number 競技者番号	Time of Disqualification 失格告知時間	Recorder Advised 競歩記録員への連絡時間
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

種目/Event	距離/Distance
場所/Place	期日/Date
署名/CJA's Signature	

(JAAF-05B. 2025/04)

計 時 記 録 判 定 表 A

P

期 日　　年　　月　　日（　　）

種目　（ 男 ・ 女 ）　　m

審判長

競技会名

1予 ・ 2予 ・ 準（　　組）・ 決勝

計時員主任

順 位	決　定	計時員記号	計 時 記 録	計時員記号	計 時 記 録	計時員記号	計 時 記 録
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							

手動計時の判定表、短距離種目用です

（JAAF-04A. 2025/4）

計 時 記 録 判 定 表 B

P

期日　　年　　月　　日(　　)

種目　(男 ・ 女)　　m

審判長

競技会名

1予 ・ 2予 ・ 準 (　　組) ・ 決勝

計時員主任

順 位	決　定	計時員記号	計 時 記 録	計時員記号	計 時 記 録	計時員記号	計 時 記 録
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
0							
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
0							
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
0							

手動計時の判定表、長距離種目用です
1枚で30人まで記入できます
必要に応じて順位欄に十の位を書き足して
使用してください

日本記録・日本タイ記録申請書　A（トラック個人種目）

日本陸上競技連盟競技規則により、次の記録を申請する。

※ 該当するすべての項目の□にしるしをつける。日付は西暦。

□ 男 子　□ 女 子	種目名		□ WRk
□ 日本記録　□ 日本タイ記録　□ U 20　□ U 18			
1. 記　　録	風向風力　＋・－　　m		□ 室内
フリガナ	生年月日		登録都道府県
2. 氏　　名	年		
所属団体正			
3. 競 技			
4. 記録し			
5. 競 技			

※ 以下の

WRk申請競技会かどうかの
チェック欄が追加されました
この「トラック個人種目」のほか
JAAF-30すべての用紙に追加されます

6. 競技場

□

□ 競技場のすべての施設用器具が日本陸上競技連盟競技規則に則るものであり、正しく使用された

技術総務自署　　JAAF ID

7. 競技会運営・実施について、私は以下のことについて確認した。

□（ □ 写真判定装置　□ 手動計時で使用したストップウォッチ ）が正しく作動し、計測された

□ 風向風力計が正しい位置に設置され、正しく作動し、計測された

□ 競技が日本陸上競技連盟競技規則に則り、正しくおこなわれた

□ これは混成競技の中で記録されたものであるが、スタートや風向風力など単独種目の条件を満たしている

トラック競技審判長自署　　JAAF ID

スタート審判長自署（任命されている場合）　　JAAF ID

混成競技審判長自署（混成競技の場合）　　JAAF ID

総 務 自 署　　JAAF ID

8. 私は上記すべてについて正しいことを確認し、以下の書類を添付して申請する。

□ 大会プログラム　□ 当該レースの全記録 （ 風向風力・ハードルの規格などを記入した ）

□ 判定写真 （ トラック競技審判長・写真判定員主任・写真判定員の3名がサインした ）

□ ゼロコントロールテスト写真

（トラック競技審判長・スターター・写真判定員主任・派遣されていればJTOがサインした。装置のメーカー名・品番が明記されている）

□ （ 手動計時の場合 ）計時順位判定表・計時記録判定表

□ ドーピング検査の依頼をした。（ オリンピック種目のみ。 U20/18・室内は不要 ）

依頼日　　月　　日　／　実施日　　月　　日

記録申請日　　年　　月　　日

加盟団体名/協力団体名

代表者自署

日本記録・日本タイ記録申請書　C（トラック競歩種目）

日本陸上競技連盟競技規則により、次の記録を申請する。

※　該当するすべての項目の□にしるしをつける。日付は西暦。

☐ 男　子　☐ 女　子	種　目　名	☐ WRk
☐ 日本記録　☐ 日本タイ記録　☐ U 20　☐ U 18		

1．記　　録

フリガナ　　生年月日　　登録都道府県

2.　氏　　名　　年　　月　　日

所属団体正式名　　JAAF ID(確認できれば記入)

3．競技会名　　コード

4．記録した日

5．競技場名

※　以下の確認した項

6．競技場・施

☐ この競技場

☐ 競技場の

しく使用された

技術総務自署　　JAAF ID

7．競技会運営・実施につ　以下のことについて確認した。

☐（　☐ 写真判定装　☐ 手動計時で使用したストップウォッチ　）が正しく作動し、計測された

☐ 競技が日本陸上競技

則に則り、正しくおこなわれた

トラック競技審判長自署　　JAAF ID

スタート審判長自署　　JAAF ID

競歩審判員主任自署　　JAAF ID

JRWJ①自署　　JAAF ID

JRWJ②自署　　JAAF ID

JRWJ③自署　　JAAF ID

総　務　自　署　　JAAF ID

8．私は上記すべてについて正しいことを確認し、以下の書類を添付して申請する。

☐ 大会プログラム　☐ 該当レースの全記録

☐ 判定写真（トラック競技審判長・写真判定員主任・写真判定員の3名がサインした）

☐ ゼロコントロール写真

（トラック競技審判長・スターター・写真判定員主任・派遣されていればJTOがサインした。装置のメーカー名・品番が明記されている）

☐（手動計時の場合）計時順位判定表・計時記録判定表

記録申請日　　年　　月　　日

加盟団体名/協力団体名

代表者自署

ルール改正に伴い
JRWJ自署欄を3名分にしました
Gの道路競技の用紙も同様です

「JAAF-35競技会で使用する略号例」に記載されている一覧に「記録に付随して用いる略号」が追加されました

略 号	日 本 語 表 記	意　　味
ＰＢ	自己最高記録	Personal Best
ＳＢ	今季自己最高記録	Season Best
ＷＲ	世界記録	World Record
＝ ＷＲ	世界タイ記録	Equal World Record
ＷＪＲ	U20世界記録	World U20 Record
＝ ＷＪ	U20世界タイ記録	Equal World U20 Record
ＮＲ	日本記録	National Record
＝ ＮＲ	日本タイ記録	Equal National Record
ＮＪＲ	U20日本記録	National U20 Record
＝ ＮＪ	U20日本タイ記録	Equal National U20 Record
ＮＹＲ	U18日本記録	National U18 Record
＝ ＮＹ	U18日本タイ記録	Equal National U18 Record
ＧＲ	大会記録 ◆	Game Record
＝ ＧＲ	大会タイ記録	Equal Game Record
◆ 記録に付随して用いる略号		
（ Ｗ ）	WRk競技会でマークされた日本記録	非WRk競技会でマークされた日本記録が WRk競技会でマークされた記録を上回る場合 (W)(J)を付けて区別する
（ Ｊ ）	非WRk競技会でマークされた日本記録	
（ Mx ）	男女混合レースマークされた女性の日本記録	Mixed gender race
（ Wo ）	女性だけのレースでマークされた日本記録	Women only race
◆ 競技会規模や性格により異なる大会記録略号の例		
ＧＲ	国体など	Game Record
ＣＲ	選手権大会	Championship Record
ＭＲ	ゴールデングランプリなど	Meet Record

２０２５．２．１５

2024年度全国競技運営責任者会議

２０２５年度

『競技会における広告および展示物に関する規程』について

日本陸上競技連盟　競技運営委員会
広告規則検討PT

本年、修改正は、以下の２点！

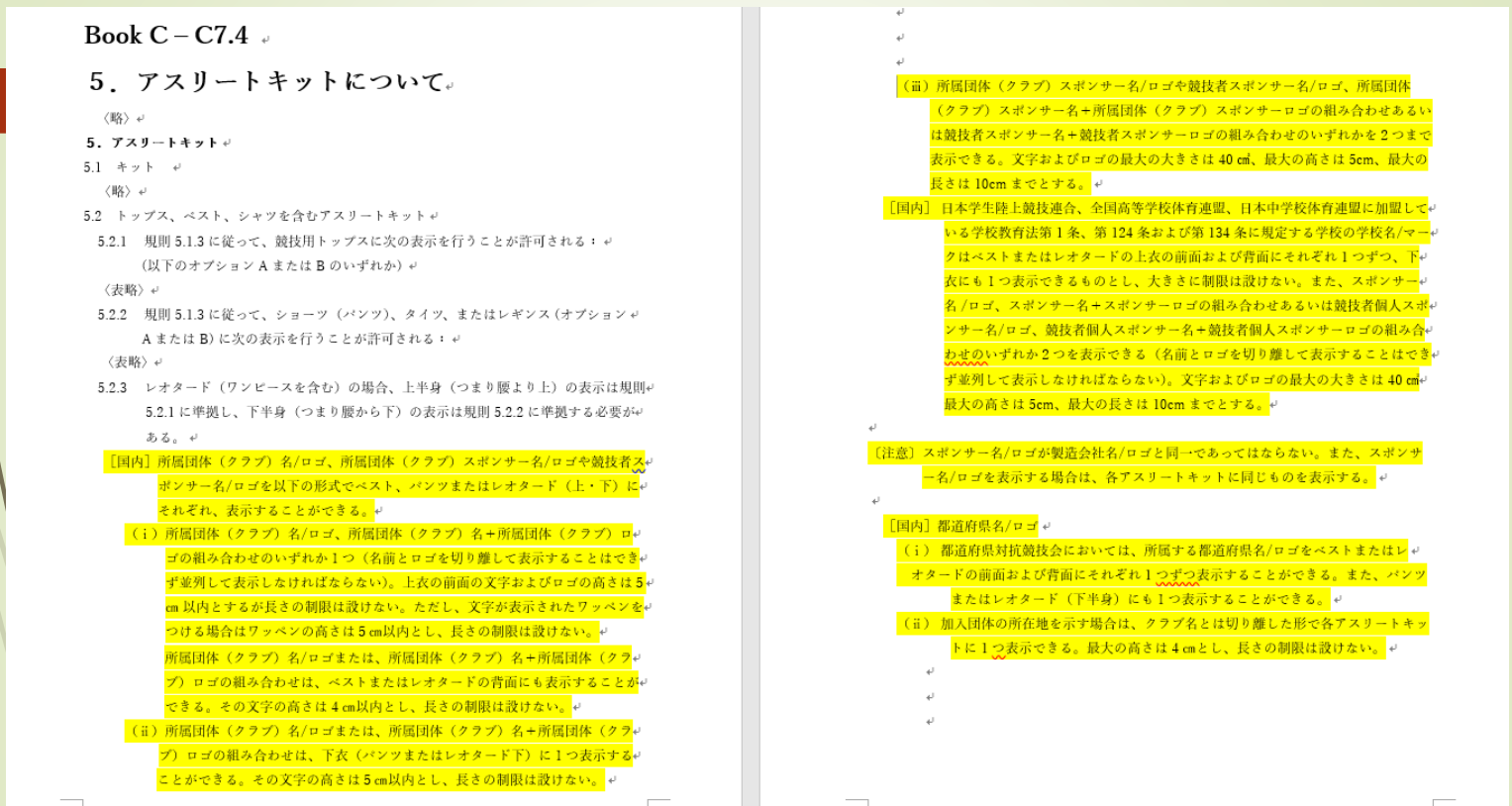
修正
C-7.4　５．アスリートキット
※例示の見出し修正と、付随する規定項目の適正箇所への移動

改正
C-7.4　８．アスリートビブス
※8.1の枠の下にある二つの〔国内〕規定をまとめ、改正して、8.2の後に移動

【修正】

C-7.4　5．アスリートキット

※例示の見出し修正と、付随する規定項目の適正箇所への移動



Book C – C7.4

5．アスリートキットについて

〈略〉

5．アスリートキット

5.1　キット

〈略〉

5.2　トップス、ベスト、シャツを含むアスリートキット

5.2.1　規則 5.1.3 に従って、競技用トップスに次の表示を行うことが許可される：
（以下のオプション A または B のいずれか）

〈表略〉

5.2.2　規則 5.1.3 に従って、ショーツ（パンツ）、タイツ、またはレギンス（オプション A または B）に次の表示を行うことが許可される：

〈表略〉

5.2.3　レオタード（ワンピースを含む）の場合、上半身（つまり腰より上）の表示は規則 5.2.1 に準拠し、下半身（つまり腰から下）の表示は規則 5.2.2 に準拠する必要がある。

［国内］所属団体（クラブ）名/ロゴ、所属団体（クラブ）スポンサー名/ロゴや競技者スポンサー名/ロゴを以下の形式でベスト、パンツまたはレオタード（上・下）にそれぞれ、表示することができる。

（ⅰ）所属団体（クラブ）名/ロゴ、所属団体（クラブ）名＋所属団体（クラブ）ロゴの組み合わせのいずれか 1 つ（名前とロゴを切り離して表示することはできず並列して表示しなければならない）。上衣の前面の文字およびロゴの高さは 5 cm 以内とするが長さの制限は設けない。ただし、文字が表示されたワッペンをつける場合はワッペンの高さは 5 cm以内とし、長さの制限は設けない。
所属団体（クラブ）名/ロゴまたは、所属団体（クラブ）名＋所属団体（クラブ）ロゴの組み合わせは、ベストまたはレオタードの背面にも表示することができる。その文字の高さは 4 cm以内とし、長さの制限は設けない。

（ⅱ）所属団体（クラブ）名/ロゴまたは、所属団体（クラブ）名＋所属団体（クラブ）ロゴの組み合わせは、下衣（パンツまたはレオタード下）に 1 つ表示することができる。その文字の高さは 5 cm以内とし、長さの制限は設けない。

（ⅲ）所属団体（クラブ）スポンサー名/ロゴや競技者スポンサー名/ロゴ、所属団体（クラブ）スポンサー名＋所属団体（クラブ）スポンサーロゴの組み合わせあるいは競技者スポンサー名＋競技者スポンサーロゴの組み合わせのいずれかを 2 つまで表示できる。文字およびロゴの最大の大きさは 40 ㎠、最大の高さは 5cm、最大の長さは 10cm までとする。

［国内］ 日本学生陸上競技連合、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟に加盟している学校教育法第 1 条、第 124 条および第 134 条に規定する学校の学校名/マークはベストまたはレオタードの上衣の前面および背面にそれぞれ 1 つずつ、下衣にも 1 つ表示できるものとし、大きさに制限は設けない。また、スポンサー名 /ロゴ、スポンサー名＋スポンサーロゴの組み合わせあるいは競技者個人スポンサー名/ロゴ、競技者個人スポンサー名＋競技者個人スポンサーロゴの組み合わせのいずれか 2 つを表示できる（名前とロゴを切り離して表示することはできず並列して表示しなければならない）。文字およびロゴの最大の大きさは 40 ㎠最大の高さは 5cm、最大の長さは 10cm までとする。

〔注意〕スポンサー名/ロゴが製造会社名/ロゴと同一であってはならない。また、スポンサー名/ロゴを表示する場合は、各アスリートキットに同じものを表示する。

［国内］都道府県名/ロゴ

（ⅰ） 都道府県対抗競技会においては、所属する都道府県名/ロゴをベストまたはレオタードの前面および背面にそれぞれ 1 つずつ表示することができる。また、パンツまたはレオタード（下半身）にも 1 つ表示することができる。

（ⅱ） 加入団体の所在地を示す場合は、クラブ名とは切り離した形で各アスリートキットに 1 つ表示できる。最大の高さは 4 ㎝とし、長さの制限は設けない。

5.2.1 5.2.2　WA 国際：（国際招待大会、サーキットとラベルロードレース）用

【例示１】 営利（企業）名／商品名 を 所属団体名／ロゴ に含まない場合・

学　　校

（ユニフォーム、ジャージ等のその他の衣類全て同様）

5.2.1 5.2.2　WA 国際：（国際招待大会、サーキットとラベルロードレース）用

【例示２】 企業名・商品名を含む所属団体名/ロゴの場合

実業団/クラブ等

（ユニフォーム、ジャージ等のその他の衣類全て同様）

5.2.1、5.2.2　JAAF（国内）：一般・クラブ（所属団体）名/ロゴ、個人 表示用

【例示３】 実業団/クラブ等

（ユニフォーム，ジャージ等のその他の衣類全て同様）

5.2.1、5.2.2　JAAF（国内）：学校用

【例示４】 学　校

（ユニフォーム，ジャージ等のその他の衣類全て同様）

5.2.4　競技者が着用するセレモニーキット、トラックスーツ（ジャージ）、スウェットシャツ、レインジャケットを含むその他のアスリートキットの上半身アイテム（つまり、腰より上/上衣）では、表示は規則 5.2.1 に準拠する必要がある。

5.2.5 競技者が着用するセレモニーキットのボトムス、トラックスーツ（ジャージ）のボトムス、スウェットパンツなどを含むその他のアスリートキットの下半身アイテム（つまり腰より下/下衣）では、表示は規則 5.2.2 に準拠する必要がある。

5.3　アスリートキットに製造会社のグラフィック、または象徴的なロゴ（名前や文字を含まない）は、「装飾的なデザインマーク」として、以下の箇所に、１回または幅 10 cm 以内の帯状で繰り返して表示できる。

〈略〉

5.4　シューズ

〈略〉

5.5　その他のアパレル

〈略〉

【改正】

C-7.4　8．アスリートビブス

※8.1の枠の下にある二つの〔国内〕規定をまとめ、改正して、8.2の後ろへ移動

8.2　ビブスは、競技役員が競技者の識別情報（名前または番号）を最大限かつ容易に視認できるように印刷されなければならない。

［国内］　競技者識別表示（識別情報）の高さが最低限６㎝を確保できるのであれば、上部、下部に関わらず余白に大会主催者の承認のもと、（a）大会スポンサー名/ロゴまたは、マーケティングデバイス、（b）大会名/ロゴ、（c）加盟団体名、（d）大会が開催されている都市または地域名、(d)その他の表示をできる。

【旧】

8.1

〔国内〕競技者識別表示より下の表示の最大の高さは４cmとする。そのような表示には、大会主催者によって事前に承認されていれば、(a)大会名/ロゴ、(b)加盟団体名、(c)大会スポンサー名/ロゴまたはマーケティングデバイス、(d)大会が開催されている年または地域のいずれかを表示できる。

〔国内〕

i　上部の広告は、高さ６cm以内とする。

ii　下部の広告や大会名等は、高さ４cm以内とする。

iii　広告を表示しない場合は、空いている余白を競技者識別表示に使用してもよい。

8.2

8．アスリートビブス

8.1　ビブスの最大の大きさは高さ 16cm × 幅 24cm とする：

	アスリートビブス			
	オプション A		**オプション B**	
名称/ロゴ	**数(最大)**	**大きさ(最大)**	**数(最大)**	**大きさ(最大)**
大会スポンサー	**1 社**	**高さ 6cm－** ビブス上部	**2 社**	**高さ 6cm－** ビブス上部
競技者名/番号	**1 つ**	**高さ 6cm－** ビブス中央部	**1 つ**	**高さ 6cm－** ビブス中央部
大会スポンサーおよび（または）開催地・都市	**1 つ**（開催地・都市）＋ **1 社**(ビブスの上に大会スポンサーが 1 社だけの場合はイベントスポンサー)	**高さ 4cm－** ビブス下部	**1 つ**(開催地・都市)	**高さ 4cm－** ビブス下部
合計	**計 4**	ビブスの合計サイズ－ **高さ 16cm ＆ 幅 24cm**	**計 4**	ビブスの合計サイズ－ **高さ 16cm ＆ 幅 24cm**

8.2　ビブスは、競技役員が競技者の識別情報（名前または番号）を最大限かつ容易に視認できるように印刷されなければならない。

［国内］　競技識別表示（識別情報）の高さが最低限６cmを確保できるのであれば、上部、下部に関わらず余白に大会主催者の承認のもと、(a) 大会スポンサー名/ロゴまたは、マーケティングデバイス、(b) 大会名/ロゴ、(c) 加盟団体名、(d) 大会が開催されている都市または地域名、(d)その他の表示をできる。

8.3　ビブスとビブス上の競技者の識別情報（名前または番号）は、大会中、競技場エリアで競技を行っている間は、常に見えるようにしなければならない（つまり、折り畳んだり、見えないように隠したりしない（ビブの提供者によってミシン目、ピアスまたは穴が開いているように設計されている場合を除く））。競技者は競技場エリアではビブスをアスリートキットから外してはならない。

8.4　種目ごとに異なる大会スポンサーをビブスに表示することができる（例: 女子 100m と男子やり投など）。

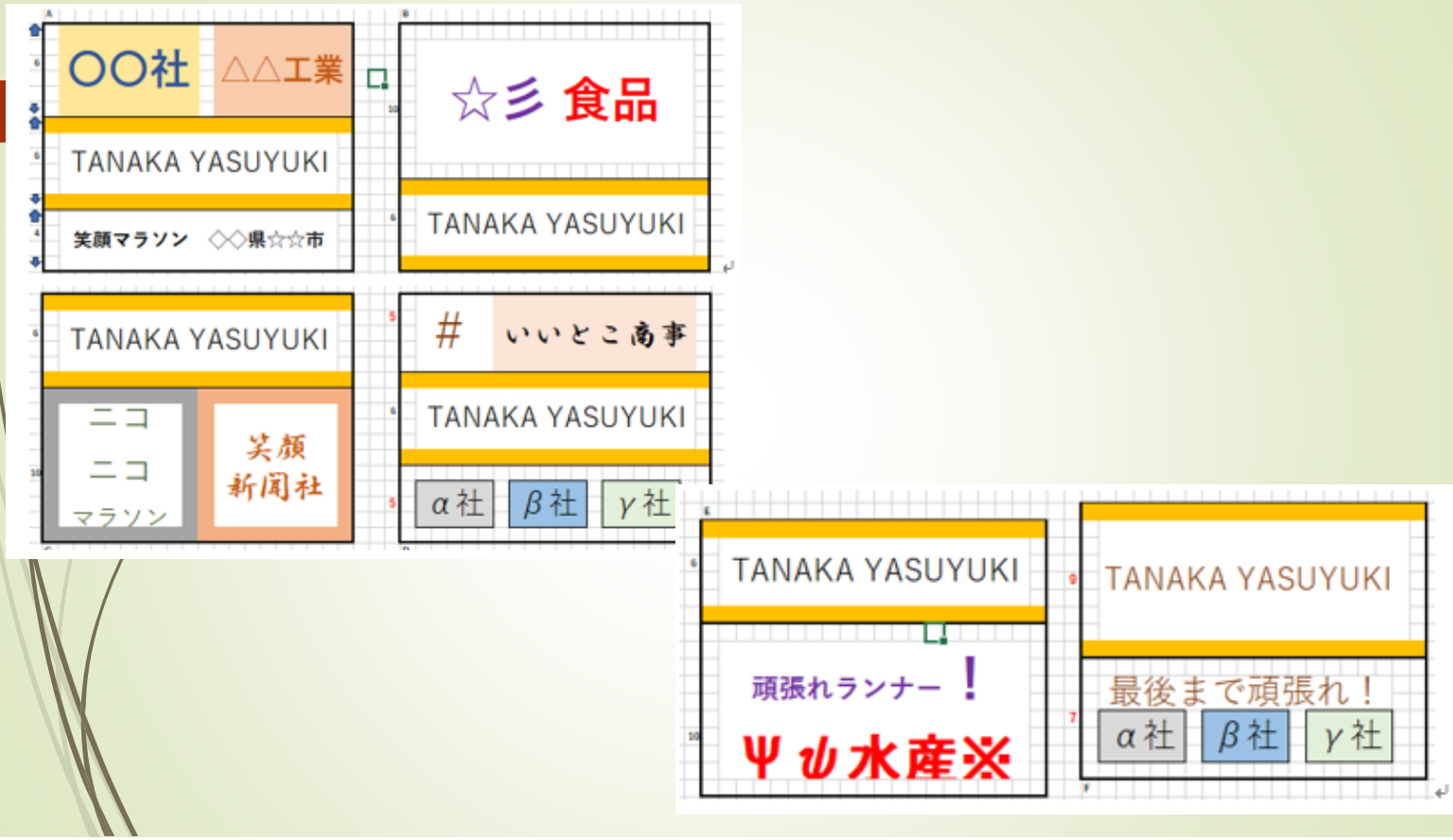
［国内］駅伝競走においては、アスリートビブスに番号数字の代わりにチーム名（都道府県名、学校名等）、区間を表す文字もしくは競技者の大会登録番号をバランスよく表示することができる。ただし、会社名（チーム名）は表示できないものとする。

※趣旨：

スポンサー集めに苦慮している各陸協からの意向をうけ、〔国内〕は、大会主催者の責任においての表示規制の緩和

表示枠の高さ及び、表示個数（社）

《一つの帯に複数個（社）表示も可》



１月末時点で、

ＷＡ（国際）広告規程に修改正はありません

※３月の理事会を経て、２０２５年度「広告規程」は施行へ

２０２５年度も、**『競技会における広告および展示物に関する規程』の管理、指導をお願いいたします！！**

参照資料

☆Ⅰ：2025－26年度版 ハンドブック　掲載物

☆Ⅱ：２０２４年度 通知文

① 2024年5月14日付け　陸連加盟団体/協力団体　宛て
「競技会における広告および展示物に関する規程の現場対応について」

② 2025年2月3日付け　実業団連合/学生連合　宛て
「競技会における広告および展示物に関する規程の遵守について」

【追記】**WAの営利/非営利（所属団体）の扱いについて**

現在、日本国内では、学校教育法第1条、第124条および第134条に規定される**学校**のみを**『非営利団体』**と見なしています。

【参照資料Ⅱ－①】

2024 年　5 月　14 日

加盟団体　理事長/専務理事　殿
協力団体　理事長/専務理事　殿

公益財団法人日本陸上競技連盟
競技運営委員会委員長　鈴木　一弘

競技会における広告および展示物に関する規程の現場対応について（通知）

平素は日本陸上競技界の発展に御理解・御協力を賜り感謝申し上げます。また、標記の件につきましては日頃、現場の方々に多大な御負担をお掛けしているところです。

さて、今期の本規程の修改正では、WA の規程が 2023 年１２月１日より、国内規程は 2024 年４月１日よりの運用となっております。ここまで適用において各所からの問い合わせや御質問から、本規程とりわけ「衣類上の各表示に関する現場対応」について通知させていただくことといたしました。

本年度の各競技会において、参加競技者および競技運営にかかわる皆様が、広告規程に係る支障を受けることなく競技会に参加し、また適切な適用・運用がなされますよう、補足事項と併せて通知内容を関係各位に周知するとともに、御理解の上、現場で円滑な対応がなされますようお願い申し上げます。

記

衣類上の、「所属団体名/ロゴ」および、「スポンサー名/ロゴ」についての現場対応

- 当該表示にマスキング等の処置は行わない。　（製造会社名/ロゴに関してはこの限りでない）
- 違反事象確認時、競技者に事由の聞き取りをし、確認後に変更を求める。
- 変更が不可能な場合は、口頭での注意の後、総務を通じ（※広告規程担当者が）日本陸連事務局へ通知する。

※広告規程担当者とは、**下記の内容を担当する方々を想定します。**

競技会規則 CR 30　広告コミッショナー

任命された広告コミッショナーは「競技会における広告および展示会に関する規程」が適用され、遵守されていることを管理すると共に、招集所における未解決の問題を招集所審判長と協力して解決する。

広告規程 C - 7.1 規則 1.1 および 1.2 に関する注意事項

〔国内〕1.1.1 の競技会では、（ｉ）は本連盟、（ii）から（ｖ）については、広告コミッショナーが、規程の適用と施行に責任を負う。

〔国内〕1.1.1 の競技会では、WA 競技会規則 CR30 に定めのある、広告コミッショナーに準じた任務、広告規程の管理担当者の任命を推奨する。

以上

問い合わせ先
公益財団法人日本陸上競技連盟
競技運営委員会　事務局担当
メールアドレス：compe-tech@jaaf.or.jp

補足事項

Ⅰ：　WA 競技会〔国際競技会・サーキット・ラベルロードレース〕における、
衣類上の「所属団体名/ロゴ」「スポンサー名/ロゴ」「製造会社名/ロゴ」の確認と扱い

競技者の「所属」と、「スポンサー」は異なる社・組織であること。衣類の「製造会社」も含め、すべてにおいて異なる表示物であること。

※　同じアルファベットやロゴ類の使用でないこと。類似表記物は認められないので注意。

Ⅱ：　国内競技会における衣類上の、
「所属団体名/ロゴ」「スポンサー名/ロゴ」「製造会社名/ロゴ」の確認と扱い

３つが同じ会社であっても可であるが、それぞれの表示（デザイン）に差異があること。
色彩以外に部分的（以上の）表示に違いがあること。

《参　照》

所属とスポンサー：類似表示　　WA 競技会 ×　　国内競技会　○

所属と製造会社：同じ表示物　　WA 競技会 ×　国内競技会 ×

製造会社/スポンサーと所属：異なる表示　WA 競技会 ○　　国内競技会 ○

【参照資料Ⅱ－②】

2025年2月3日

一般社団法人　日本実業団陸上競技連合　専務理事　殿
公益社団法人　日本学生陸上競技連合　専務理事　殿

公益財団法人日本陸上競技連盟
専務理事　田﨑　博道

競技会における広告および展示物に関する規程の遵守について（通知）

平素は日本陸上競技界の発展にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、修改正されたWA広告規程は２０２３年１２月１日より、国内広告規程は２０２４年4月１日より運用されております。しかしながら、これら「広告・商標」規程を適用する競技会を主催・主管する協会や連盟から、またそれら競技会へ派遣されたJTOから、表示違反や、参加競技者の本規程に関する認識の不足事例が多く報告されております。ついては、これらを踏まえ、WA国際規程と国内規程の差異を示し、特に国内で開催されるコンチネンタルツアー競技会やラベルロードレースに出場する際、瑕疵が生じないよう、適用競技会や違反事例を付記し、注意喚起することといたしました。

WA 広告規程が適用されるラベルロードレースや 2025 年 GP シリーズの大半のコンチネンタルツアー競技会に参加の際、貴団体登録者・所属団体関係各位が、以下の国内規程と異なる点を理解した上でアスリートキット等を準備し、申し込まれますよう、周知をお願い申し上げます。

記

コンチネンタルツアー／ラベルロードレース 出場時の「ユニフォーム/その他のアパレル」における　規程の差異

【国　際】		〔国内〕
アスリートキット/衣類		
所属団体名／ロゴ		
上衣　前面　(前面または、背面に1つ) のみ	←	上衣　前面、背面に各１つ
※大きさ		
４０㎠ 最大高さ５㎝/最大長さ 10 ㎝	←	上衣 前面：最大高さ５㎝　上衣 背面：最大高さ４㎝ 下衣：最大高さ５㎝　　長さは上衣、下衣とも問わない
(大学名)上衣：最大高さ 10 ㎝/長さは問わない	←	大きさは問わない
チームスポンサー名／ロゴ		
上衣　前面か背面のいずれかに１つ(１社)	←	場所は問わない　**２**つ(２社)まで
下衣　前面か背面のいずれかに１つ(１社)	←	場所は問わない　**２**つ(２社)まで
Δ所属が大学の場合、		
上衣、下衣ともに２つ（２社）まで		上衣、下衣ともに２つ（２社）まで
いずれも、**前面か背面に表示可**	←	場所は問わない
その他のアパレル　手袋、帽子、アームウオーマー、レッグウオーマー、ヘッドバンド等		
製造会社名／ロゴのみ表示　〔１０㎠以内〕	←	所属団体名/ロゴ（含み学校名）の表示ができる
注）WA・国内規程とも、**競技者名は表示できるが**、スポンサー名/ロゴ、**装飾的なデザインマークは表示できない**		
個人の所有物およびアクセサリー（タオル・バッグ・ドリンクボトル）等		
アスリートスポンサー名/ロゴを表示できる	←	所属団体名/ロゴ（含み学校名）の表示ができる

詳細：日本陸連　https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202404/05_101632.pdf
衣類およびアクセサリー等　ガイドライン 参照

〈参照事項Ⅰ〉

２０２４年度 【国内開催】 WA（国際）広告規程適用競技会　ラベルロードレース　一覧

World Athletics Continental Tour　：

・兵庫リレーカーニバル　・織田幹雄記念国際陸上競技大会　・静岡国際陸上競技大会
・木南道孝記念陸上競技大会　・ゴールデングランプリ陸上　・布勢スプリント
・Yogibo Athletics Challenge Cup　・田島直人記念陸上競技大会
・ディスタンスチャレンジ in 大阪

World Athletics Label Road Races　：※対象は『エリートの部』のみ
・ぎふ清流ハーフマラソン　・北海道マラソン　・神戸マラソン　・防府読売マラソン
・福岡国際マラソン　・大阪国際女子マラソン　・別府大分毎日マラソン
・香川丸亀国際ハーフマラソン　［学生ハーフマラソン選手権は国内規程適用］
・大阪マラソン　・東京マラソン　・名古屋ウィメンズマラソン

Asian Athletics　：
・アジア陸上競技選手権 20km 競歩〔能美〕

〈参照事項Ⅱ〉　主な広告規程違反事例

〔WA 広告規程〕コンチネンタルツアーおよび、ラベルロードレース

・ユニフォーム等への所属団体名/ロゴ表示の、数および、サイズと表示場所 違反

〔WA 広告規程〕適用競技会　/　〔国内規程〕適用競技会　共　通

・Ｔシャツ/ハーフパンツ等への製造会社名/ロゴ　数（１つ）とサイズ（４０㎠ / 高さ・長さ）違反

・スパッツへの製造会社名/ロゴ 数（１つ）とサイズ（４０㎠ / 高さ・長さ）違反と、ランパンとの重ね履きによる二重表示

・アームウオーマー/レッグウオーマーなどへの装飾的なデザインマークの掲出違反

・傘やバッグ、シューズ袋等への製造会社名/ロゴ 数（１つ）と、アスリートスポンサー名・ロゴ数（２つ、内１つ所属名/ロゴ可）と、
いずれものサイズ（４０㎠ / 最大高さ５㎝・最大長さ１０㎝）違反

〈参照 資料 ：表示注意箇所/国際〉

実業団/クラブ

大学：

注意：その他のアパレル 手袋、帽子、アームウオーマー、レッグウオーマー、ヘッドバンド等

WA 規程では、

☆ 製造会社名／ロゴのみ表示 可。 競技者名は 表示できる。

※いずれも 10 ㎠ まで （ 高さ/長さ制限 ４cm ）

★ 所属団体名/ロゴ（含み学校名）は 表示できない！

★ スポンサー名/ロゴ、装飾的なデザインマークは表示できない！ ※〔国内規程も〕

2025.2.15

競技運営責任者会議資料

競技運営委員会　審判員研修PT

2024年度 S級公認審判員昇格審査（2025年4月1日昇格予定者）結果について

1. 昇格審査結果報告

- 昇格候補者審査は、2025年1月18(日)に実施。
- 申請161名中、158名を昇格候補者とした。

≪不合格者の内容≫

・講習会の回数不足（審判手帳の審判講習会の日付が、講習会開催実績報告書記載の日付と異なっており、合計3回の講習会受講の確認が出来なかったため）

・競技会の回数不足（審判手帳の担当役員名が明記されていないものを除くと、規定回数に達しなかったため。[注1)]）

[注1)] 昨年度の全国会議において、「担当役員名が明記されていないもの（空欄）は、今後認めません。」と周知されている。

- 競技会の出席回数は申請時点での直近6年間[注2)]で30回以上を基準とし、陸連主催及び加盟団体からの申請による公認競技会を基本とした(各年度4月1日～3月31日の競技会出席回数)。同一日に複数の競技会に出席していても1回とカウントした(競技会は1日単位でカウント)。
- 審判講習会[注3)]出席回数は、直近6年間[注2)]で3回以上を基準とした。同一年度に複数回出席している場合でも1回とカウントした。実技講習会の類はこの講習会の回数には含めない。

[注2)] 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の講習会が行われず、競技会実施数も激減しました。そのことを考慮し、講習会・競技会の出席回数を直近6年間でカウントすることとします。（2026年度申請までの措置）

[注3)] 審判講習会： 都道府県主催の伝達講習会、陸連主催の全国競技運営責任者会議

- S級昇格者には委嘱状及びS級バッジを贈呈する。

2. 今年度の審査と今後について

- 書類の不備が多く複数の団体に問い合わせ行った結果、全国会議までに審査が終わらなかったことが以前ありました。そのため、現在は提出物の不備について問い合わせは行わず、提出物から確認できる内容のみで審査しています。

  ※書類に不備があると昇格対象者が不利益を被るため、引き続き各団体できちんと確認すること。
- 残念ながら、締め切り日から大幅に遅れ、年を越えての提出がありました（2年連続）。また、事前連絡もなく陸連事務局から何度も問い合わせてようやく返答があったり、陸協印の押されていない原本や、昨年度の申請書類が届いたりするなどの対応で、陸連事務局の通常業務に多大なる影響が出ております。（ほとんどの加盟団体は、期日を守って提出していただいております。）

  ⇒来年度以降の審査では、申請期日までに書類提出のない場合は該当者なしと判断し、その後のものについては受理いたしません。ほとんどの加盟団体は、期日を守って提出していただいております。ご協力のほど、お願いします。（なお、昇格候補の該当者がいない場合は、申請期日までに該当者なしのご一報をいただけるとありがたいです。）
- 講習会開催実績報告書は、2023年度申請までは直近6年度分を提出していただきましたが、今

度申請から当該年度のみの提出といたしました。今後もこの方向で実施します。

⇒来年度以降の審査は、前年度までに提出されたものと、当該年度の書類で審査を行います。提出されたものが間違っていますと、当該年度だけでなく、今後４～５年間手帳と不一致となり、昇格対象者が不利益を被るため、記載漏れ・記載ミスが無いよう確認した上、ご提出ください。

- 昇格対象者がいない場合も、講習会開催実績報告書はご提出ください。

３．昇格審査におけるお願い等

≪審判員手帳について≫

記載すべきことを、正しい場所に正確に記載してください。

- 加盟団体の審査でのA級昇格時には、必ず手帳に昇格年月日の記載と承認印の押印を。

  ⇒手帳の送付は、申請に関わる部分のみでお願いします。

- 講習会への出席は「審判講習会」欄へ、競技会への出席は「審判の記録（競技会記載欄）」の欄に、日付、講師名、担当役員等、それぞれ正確に記入してください。
- 日付の記載は、できる限り西暦で統一してください。
- 審判講習会の欄が時系列になっていない、講師名が未記載、陸協認印がない方がいました。

  ⇒改ざんを疑われることがあるので、捺印や短冊を作成する際に十分にご注意ください。（陸協認印のないものは、今後認めません（カウントしません））

  ⇒講習会講師名が未記載の場合は、都道府県陸協で確認の段階できちんと整備して下さい。

- 「審判の記録（競技会記載欄）」には、競技役員(審判員)として出席した場合のみ記載してください。大会役員（会長、副会長等）としての参加は、競技会出席回数に含まれません。
  また、担当役員欄は空欄にせず、具体的な競技役員名を主催者が記載してください。

  ⇒担当役員名が明記されていないもの（空欄）は、認めません（カウントしません）。

  ⇒担当役員名が「競技役員」となっているものも、具体的な役員名としてください。

≪提出書類について≫

記載漏れ、記載誤り、不要な資料添付がないようにお願いします。

- 講習会一覧の日付が違う・あいまい、講師名が抜けている。

  ⇒講習会一覧と審判手帳の日付が一致しないものはカウントしません。

- 申請書、理由書が過去のデータを利用している。そのため、数式や形式が違っていたりしている。

  ⇒必ず今年度送付した新しいもの（当該年度のフォーマット）を利用してください。

- 申請書と審判手帳の相違

  ⇒都道府県陸協で確認をしっかりしていただき、正確に（特に数）申請をお願いします。

- 条件に合った申請がされていない。

  ⇒離島以外は、競技会の回数30回は譲れません。また、仕事等の理由で競技会・講習会の数が不足していても、理由にはなりません。

≪理由書について≫

災害による影響、離島に居住など、やむを得ない事情のみ、記入してください。

- 家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は、認められません。
- 申請書類提出後の競技会出席回数は、カウントされません。

以上

2024年度 S級公認審判員昇格審査
（2025年4月1日昇格予定者）結果について

2025.2.15 (Sat.)　全国競技運営責任者会議

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
審判員研修PT

◆2024年度 S級昇格審査概要

候補者　158

申請者　161
（昨年比-20）

2025.1.18
日本陸連事務局にて審査

競技会の出席回数：
直近6年間で30回以上
審判講習会の出席回数：
直近6年間で3回以上

★新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、「直近6年間」のカウントは、2026年度申請までの措置

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

◆今年度の審査と今後について

【一昨年度審査】

不備が多く、多くの団体に問い合わせを行ったため、全国会議までに審査が終了できなかった。

【昨年度より】

●提出物の不備についての問い合わせは行わない。

●提出物から確認できる内容のみで審査を行う。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

◆今年度の審査と今後について

残念ながら…

２年連続、提出が越年した団体がありました

（陸連事務局の通常業務に多大なる影響が出ております）

【来年度より】

申請期日までに書類提出のない場合は該当者なしと判断し、その後のものについては受理いたしません。

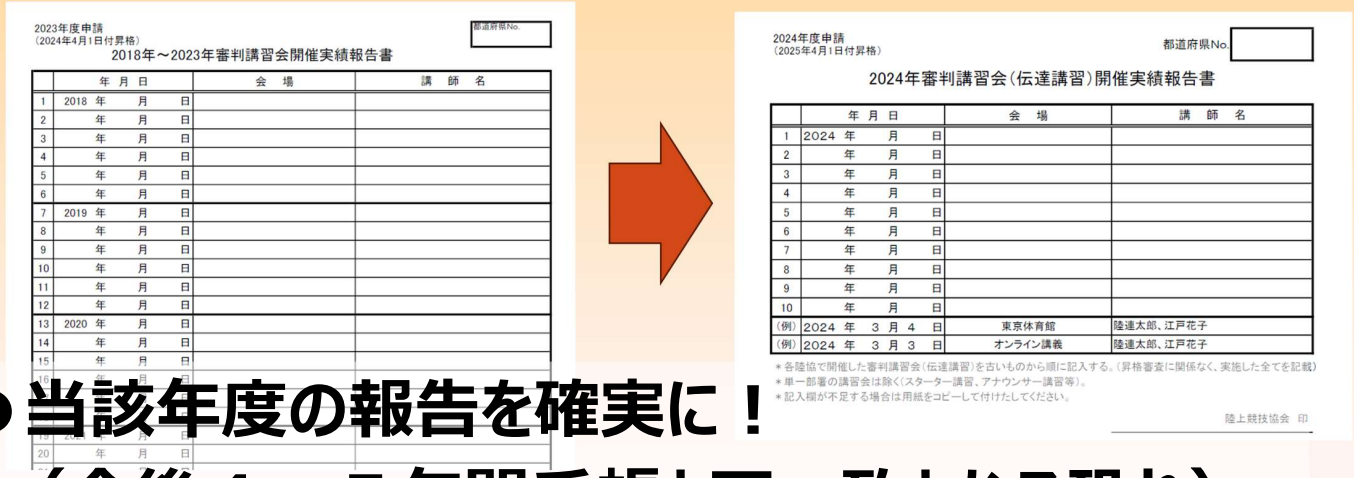
（昇格候補の該当者がいない場合は、申請期日までに該当者なしのご一報をいただけるとありがたい）

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

◆今年度の審査と今後について

【2024年度申請より】
講習会開催実績報告書は、当該年度のみの提出



2023年度申請
（2024年4月1日付昇格）
2018年～2023年審判講習会開催実績報告書

	年 月 日	会 場	講 師 名
1	2018 年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	2019 年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
11	年 月 日		
12	年 月 日		
13	2020 年 月 日		
14	年 月 日		
15	年 月 日		
20	年 月 日		

2024年度申請
（2025年4月1日付昇格）
都道府県No.
2024年審判講習会（伝達講習）開催実績報告書

	年 月 日	会 場	講 師 名
1	2024 年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
(例)	2024 年 3 月 4 日	東京体育館	陸連太郎、江戸花子
(例)	2024 年 3 月 3 日	オンライン講義	陸連太郎、江戸花子

＊各陸協で開催した審判講習会（伝達講習）を古いものから順に記入する。（昇格審査に関係なく、実施した全てを記載）
＊単一部署の講習会は除く（スターター講習、アナウンサー講習等）。
＊記入欄が不足する場合は用紙をコピーして付けたしてください。
陸上競技協会 印

● **当該年度の報告を確実に！**
（今後４～５年間手帳と不一致となる恐れ）

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆2024年度 S級昇格結果

候補者　158
申請者　161
（昨年比-20）

2025.1.18
日本陸連事務局にて審査

【不合格者の内容】

● **講習会の回数不足**
⇒手帳の講習会日時が講習会実績報告書記載の日時と異なる
（合計3回の確認ができず）

● **競技会の回数不足**
⇒手帳の担当役員名の記載なし
（それを除くと30回に達しなかった）

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆昇格審査におけるお願い

【①審判員手帳について】

★毎年お願いしている内容です。
★申請案内の要項にも記載してあります。
★多くの加盟団体は、正確に処理されています。

講習会／競技会の欄が時系列になっていない方は、改ざんを疑われるので、捺印・短冊作成にご注意を

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

◆昇格審査におけるお願い

【①審判員手帳について】

★審判の記録の担当役員欄には、競技役員として出席した場合のみ記載。

⇒大会役員（会長・副会長等）はNG

⇒担当役員名が明記されていないもの（空欄）は、引き続き一切認めない。

※具体的な競技役員名を主催者が記載のこと

競技会名	担当役員	年月日	証印
2025 日本室内・日本選手権陸上競技大会		25. 2. 1	日本陸連印

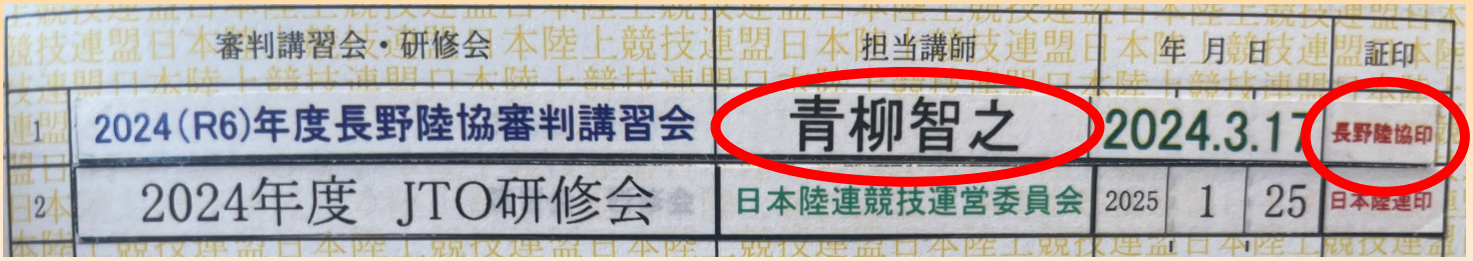
Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

◆昇格審査におけるお願い

【①審判員手帳について】

★講師名が未記載、陸協認印がない方がいました。



	審判講習会・研修会	担当講師	年	月	日	証印
1	2024(R6)年度長野陸協審判講習会	青柳智之	2024.3.17			長野陸協印
2	2024年度　JTO研修会	日本陸連競技運営委員会	2025	1	25	日本陸連印

⇒改ざんを疑われることがあるので陸協認印のないものは、今後認めません。

⇒講師名が未記載の場合、確認の段階で整備を。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆昇格審査におけるお願い

【②提出書類について】

★講習会一覧の日付が違う／講師名空欄

⇒前述の通り、再度確認をお願いします。

★申請書・理由書が過去のデータを使用

⇒必ず当該年度のフォーマットを使用のこと。

★申請書と手帳の相違

⇒特に回数のカウントは正確に。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

◆昇格審査におけるお願い

【③理由書について】

★家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は認められません。

- **離島以外は、競技会の回数30回は譲れない。**
- **災害による影響・離島に居住など、やむを得ない事情のみ記入して下さい。**

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T·AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

2024年度 S級公認審判員昇格審査
（2025年4月1日昇格予定者）結果について

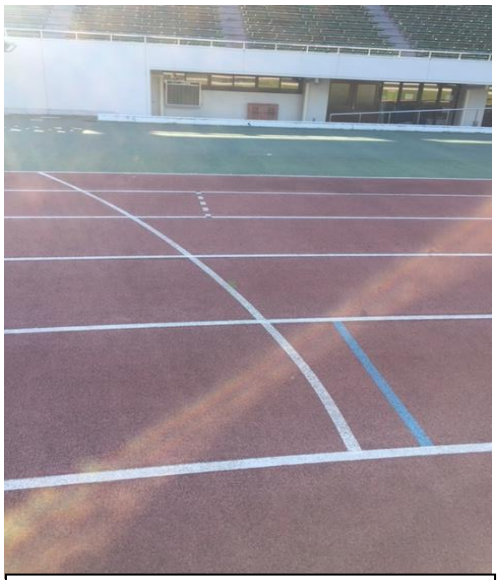
お忙しい中、いつもありがとうございます。
対象者が不利益を被らないために、よろしくお願いします。

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
審判員研修PT

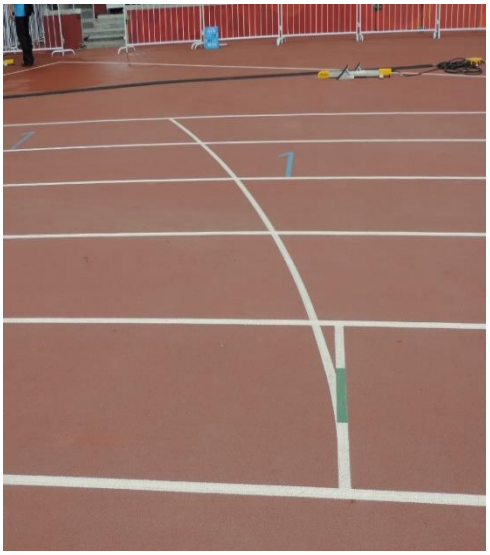
障害物競走等,グループスタートにおける代用縁石の置き方について(修正)

国内の競技場ではグループスタート時,代用縁石を(縁石とみなして)置いている。そして,グループスタート時の外側のトラックの計測は縁石の外縁から 300mm の所で行っている。そのために,国内の競技場の 10000m における第 2 グループのスタートラインは直線の長さにも関係するが(5 レーンの)800m のスタートラインの前方に引かれている(図 1 参照)。

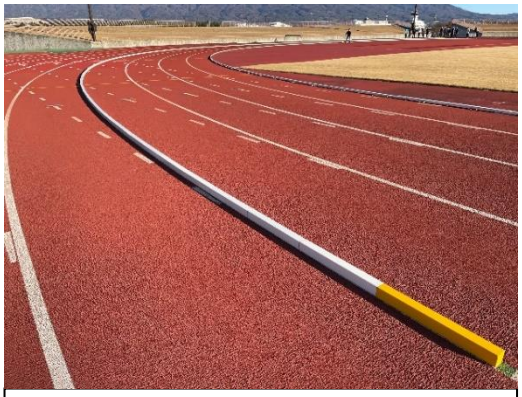
一方,海外の競技場の第 2 グループのスタートラインは(5 レーンの)800m のスタートラインと重なる所から引かれている。これは内側のライン外側から 200mm の所でトラックの計測を行っているためである(図 2 参照)。



国内競技場における第 2 グループのスタートライン【図 1】



海外競技場における第 2 グループのスタートライン【図 2】



全線に設置した代用縁石【図 3】

厳格に言えば国内競技会において代用縁石を設置する際は，競技規則に則れば全線に置く必要がある（図 3 参照）。

しかしながら，競技場保有の代用縁石の数が足りなければ，1 本おきに置かざるを得ない。なお,現在の競技場の検定では全線に設置できる数があることを確認しており,不足する事象は数年で解消の見込みである。また，国内で実施する国際大会においては全線設置を基本としてレースがスタートした後は速やかにすべての代用縁石を撤去することとなる。グループスタートのレースが複数組ある場合もレースごとに並べることが望ましい。

グループスタートする際に第 2 グループのスタートラインからすぐに代用縁石を設置すると，第 1 グループの外側の競技者が代用縁石につまずくことがある。そのため，第 2 グループのスタートラインから 8m 程度は縁石を設置せず，コーンをスタートライン,代用縁石のはじめ,中間に設置することを原則とする（コーンの間隔は 4m 以内)。なお,出場競技者が多い場合は,スタートから 10m程度から代用縁石を並べる（10mの時にはコーンは 4 本置く)。第 1 グループからスタートする（特に外側の）競技者はコーンの間を通ることができる。代用縁石に代わりコーンを設置していることをあらかじめ競技者に伝えておくとよい。

【その他新設コラム一覧】

- 「日本新記録誕生！」をアナウンスするタイミング(新設)
- 現場での抗議(競技中の抗議)があった際の手順について(新設)
- 2 ピットでの粘土板の交換の仕方(新設)
- 競技を終えた競技者の退場の仕方(新設)
- **落としたメガネの扱い方(新設)**

現状の審判員制度について

競技運営委員会　研修 PT

現状、国内（JAAF）と国際（WA）の審判員制度は以下のようになっている。

1　国内（JAAF）公認審判員制度

C 級　16 歳以上(高体連の登録会員)　加盟団体審査
B 級　18 歳以上　加盟団体(日本学連)審査
A 級　B 級取得後満 10 年以上　加盟団体審査
S 級　A 級取得後満 10 年以上　年齢満 55 歳以上　日本陸連審査
複線として　JTO/JRWJ 制度（日本陸連審査）

2　国際（WA）レフェリー制度

Apprentice Level　（制限無し　ATHLETICS FUN 向け）
NAR Level　（16 歳以上 Online WA e-Learning 実技研修 3 試合）
WA Referee Bronze（Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge）
（NAR3 年　19 歳以上　Online WA e-Learning　Online 試験　年 1 回）
WA Referee Silver　（Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge）
（WARB 4 年　23 歳以上　Online WA e-Learning, Webinars,
Online Exam; Written Presentation　2 年毎）
WA Referee Gold　（Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge）
（WARS 4 年　27 歳以上　Online WA e-Learning, Webinars,
Online Exam; Written Presentation　2 年毎）

競技運営委員会内ではこの両者の資格制度を 1 本化し、複雑な制度を改善できないかを検討している。各都道府県にアンケートを配布しているので、いろいろなご意見をいただきたい。早ければ来年度の全国会議には素案を提出したいと考えています。

審判員制度の変更に向けて

競技運営委員会
審判研修プロジェクト

JAAF

はじめに

・WAの審判制度の変更により、現状の国内審判制度と少しずれが生じ、研修やテスト受講などで非常に負担をおかけする形となっている。

・競技運営委員会では、一度国内・国際審判の制度を確認し、変更を検討している。

JAAF

現状の国内制度

- C級　16歳以上(高体連の登録会員)　加盟団体審査
- B級　18歳以上　加盟団体(日本学連)審査
- A級　B級取得後満10年以上　加盟団体審査
- S級　A級取得後満10年以上　年齢満55歳以上
  日本陸連審査
- この制度とは別に複線として
  JTO/JRWJ制度（日本陸連　試験・審査）

JAAF

WA審判制度

- Apprentice Level　（制限無し　ATHLETICS FUN向け）
- NAR Level　（16歳以上 Online WA e-Learning 実技研修を研修後3回行う。）

JAAF

WA審判制度

- WA Referee Bronze

（Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge）

（NAR3年　19歳以上　Online WA e-Learning Online試験　年1回）

JAAF

WA審判制度

- WA Referee Silver

（Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge）

（WARB 4 年　23歳以上　Online WA e-Learning, Webinars, Online Exam; Written Presentation　2 年毎）

JAAF

WA審判制度

- WA Referee Gold
（Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge）
（WARS 4 年　27歳以上　Online WA e-Learning, Webinars, Online Exam; Written Presentation　2 年毎）

JAAF

現在

・加盟団体向けにアンケートを実施しております。実際の現場の方からのご意見も十分に伺っていい形で変更が出きるようにご協力をお願いしたい。

JAAF

アンケートについて

・現在の最終締め切りは

2月21日（金）となっております。

もし、遅れるようなことがあれば、ご一報ください！よろしくお願いいたします。

JAAF

JTOs 活動報告

日本陸上競技連盟　競技運営委員会
幹事・JTO　青柳　智之

2024 年度は第 1 期から第 7 期まで総勢 55 名体制で、日本陸連主催・共催競技会を中心に、全国各地で行われた競技会の運営支援にあたってまいりました。

1．2024 年度派遣競技会の状況

（2023 年度全国会議以降）
・日本選手権 20km 競歩　・日本選手権クロスカントリー　・大阪マラソン　・東京マラソン
・名古屋ウイメンズマラソン　・全日本･日本学生 20km 競歩
（2024 年度）4 月 1 日～2025 年 2 月 11 日までの派遣競技会
・ふくい桜マラソン　・金栗記念選抜中距離　・~~全日本競歩 35km 輪島大会~~（中止）
・吉岡隆徳記念出雲陸上　・兵庫リレーカーニバル　・長野マラソン　・織田記念　・静岡国際陸上
・日本陸上競技選手権 10000m　・ゴールデンゲームズ in のべおか　・水戸招待　・木南道孝記念
・SEIKO ゴールデングランプリ　・布勢スプリント　・日本選手権混成　・日本陸上競技選手権
・実業団･学生対抗　・MIDDLE DISTANCE CIRCUIT　・全国高等学校陸上競技選手権
・全日本中学校陸上競技選手権　・富士北麓ワールドトライアル　・北海道マラソン
・全日本実業団選手権　・全日本マスターズ　・yogibo アスレティックチャレンジ
・日本選手権リレー　・国民スポーツ大会　・U18 / U16 陸上競技大会　・レガシーハーフマラソン
・田島直人記念　・全日本競歩 35km 高畠大会　・福岡国際マラソン　・防府読売マラソン
・エディオンディスタンスチャレンジ IN 大阪　・全国中学校駅伝　・全国高等学校駅伝
・全国都道府県対抗女子駅伝　・全国都道府県対抗男子駅伝　・大阪国際女子マラソン
・日本選手権室内競技　・別府大分毎日マラソン　・延岡西日本マラソン　・全国中学クロスカントリー

2．報告事例紹介

全国各地の審判技術の向上や JTOs の派遣による未然防止により、重大な事案の報告はありませんでした。しかしながらトラブル事例も報告されております。これらの事例を生かしていただき、今後のトラブル防止につなげていただけたら幸いです。

〇トラック競技に関わるもの
・ある競技者に対して号砲前の微動があったとして YC が提示された。後ほど、見解を聞いた際に「間違えたので GC に訂正する」との回答があった。
・号砲前の微動でオートリコールとなった。スターター・リコーラーは一瞬動いたが止まったとしてスタートさせたがオートリコールが作動してやり直しとなった。そこで、審判長はイエローカードを提示した。
⇒2024 年度修改正部分。YC が発出されるのは、「他の競技者に不正スタートを生じさせるような、他の競技者のスタートに真に影響を与えたときのみ」です。

〇フィールド競技の計測・記録に関わるもの
・競技者が試技終了後に光波計測機の前に立ち塞がる状態でスタンドのコーチと話し始めてしまい、計測機を稼働できずにいたが、計測プリズム担当者が一定時間経過したため計測は完了したと思い込みプリズムを抜いて

しまった。進行が遅れていたせいもあり、すぐに係が砂均しをしたため未計測の痕跡が消されてしまった。即座に、審判長が競技者･コーチに謝罪し次の試技者の後に再試技を行うこととした。

・三段跳において、同じくらいの距離の痕跡が 2 ケ所あったので両方計測した。一つは 13m64、もう一つは 13m65 であった。ところが距離の長い 13m65 を入力し表示してしまった。その後、審判長から本人へ謝罪し記録訂正をした。

・フィールド芝生への砲丸投において、投てきした砲丸が落下後サークル側（手前に向かって）にバウンドし、砲丸自体が少し戻った所に止まった。審判員はそれに気が付かず計測していたとのこと。つまり実際の落下地点より短い距離を計測していた。（競技終了後、関係者のビデオにより発覚）

・競技者が投てきした痕跡をファールと勘違いして落下担当が一度確認した地点のマークを抜いてしまい、わからなくなってしまった。その原因は記録担当が落下担当に対しトランシーバーで『マル』か『ファール』かを伝えていたが聞き取りにくく、間違ってしまった。記録がなくなってしまった競技者にやり直し投てきをさせることとなり、審判長から一番最後に回すという指示があった。審判長はその後のラウンドにおいても一番最後に回すという腹づもりであり選手にそのように伝えていたことをあとで知り、JTO として正規の順番に戻すように伝えたが、監督から一度選手に伝えたことを選手が動揺するから翻すなと言うクレームもあり、結局、３投まで一番最後としてしまった。

・競技者が残り 1 人になったときに本部から、1m79 をクリアしていないのに 3 回目にトライできなかった（1 回目は無効試技、2 回目は有効試技の判定で、次の高さに進んでしまった）との問合せがあったとの報告があった。競技者は 3 回目の試技の前に自分は 2 回目を失敗していると申し出たが、現場の審判から 2 回目が有効試技なので３回目はトライできないと言われたとのこと。ただちに審判長から現場の審判に確認がなされたが、2 回目はクリアしているとのこと。すぐに当時の状況をライブ配信の YouTube でチェックしてもらい、当該高さの 2 回目は無効試技であることが確認された。審判長から当該チーム監督に状況説明、謝罪を行い、1m79 の 3 回目から再度競技をする旨の提案をしたが、当該チームは辞退した。最終的にリザルトは 1m79 を「××ｒ」として処理した。

⇒他業務との連携が、ダブルチェックとバックアップにつながっていることを改めて確認したいところです。記録の読み上げを主審を含め周囲の競技役員にも聞こえるように（復唱者も同様）したり、目の前のパソコン・タブレット画面または光波計測器表示板だけの情報でなく、主審の判定旗を確認したりするなど、広い視野で様々な情報を総合して判断することが必要と考えます。

〇フィールド競技（投てき物）に関わるもの

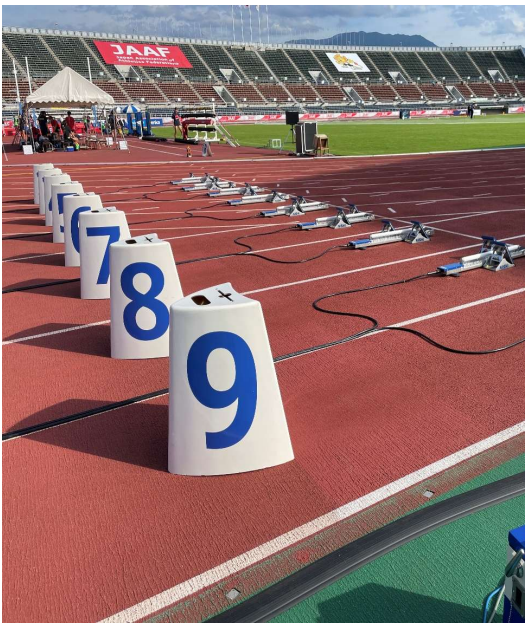
・炭酸マグネシウムを路面にまき散らし、それが靴裏について助力行為ともなることから、使用方法について注意してもらった。終了後洗浄していただいた。

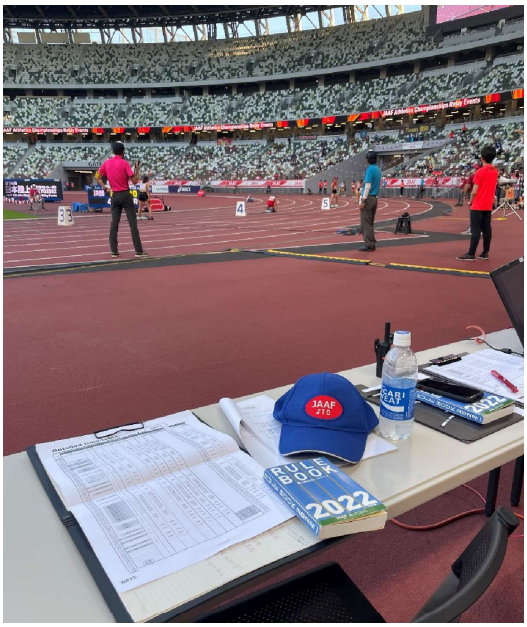
・円盤に不自然に多くの炭酸マグネシウムが付着していたので、終了後確認したところ、松ヤニ状のものが付着しその上に炭酸マグネシウムが付着し落ちにくくなっていた。すべての円盤からきれいにふき取ってもらうとともに、決勝ではすべての競技者の使用した円盤の番号を審判員に控えてもらい、投てき後、すべての円盤をチェックしてから戻すという対応を取ってもらった。これにより違反物質の円盤への使用は認められなかった。

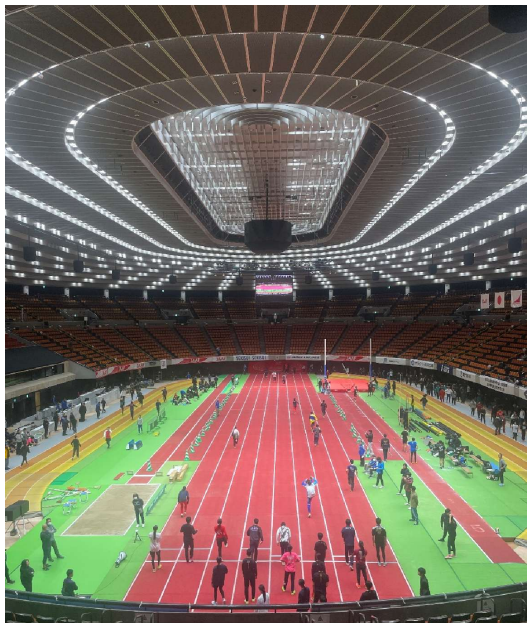
⇒校正・公平といった観点からも、適切な管理が求められます。

３．JTOs 研修会

JTOs としてのスキルアップを目指して、1 月 25 日（土）にオンラインにて研修会を行ないました。2025 年度競技規則修正案、広告展示物規程やスタートに関する研修を行った後、分科会を実施しました。そこでは、今年度 JTO 活動の情報共有などを中心に、他の JTO と共有すべき事項やいろいろな規則解釈について活発な意見交換が行われました。







2024年度 JTO活動報告

日本陸上競技連盟　競技運営委員会

はじめに

2006年度から開始されたJTO制度。2024年度は第1期から第7期まで総勢55名体制で、日本陸連主催・共催競技会を中心に、全国各地で行われた競技会の運営支援を行った。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

1. 派遣競技会の状況

日本陸連主催・共催・後援競技会を中心に派遣した。

日本選手権・全国高等学校陸上競技選手権・全日本中学校陸上競技選手権・国民スポーツ大会・U18／U16陸上競技大会・SEIKOゴールデングランプリ・織田記念・静岡国際・福岡国際マラソン・大阪国際女子マラソン・全国都道府県対抗駅伝・・・

＊昨年度の全国会議以降、47競技会に派遣

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

2. 報告事例紹介

＊全国各地の審判技術の向上やJTOの派遣による未然防止により、重大な事案の報告はなかった。

＊しかしながら、トラブル事例も報告されている。

⇒これらの事例を生かしていただき、今後のトラブル防止につなげていただけたら幸いです。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

①トラック競技に関わるもの

- ある競技者に対して号砲前の微動があったとしてYCが提示された。その後、GCに訂正。
- 号砲前の微動、スターターは一瞬動いたが止まったとしてスタートさせたがオートリコール。そこで審判長はYCを提示。

⇒2024年度修改正部分。YCが発出されるのは、「他の競技者に不正スタートを生じさせるような、他の競技者のスタートに真に影響を与えたときのみ」

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

②フィールド競技の計測・記録に関わるもの

- 競技者が試技終了後に光波計測機の前に立ち塞ぎ、計測できず。計測は完了したと思い込みプリズムを抜き、痕跡が消されてしまった。競技者･コーチに謝罪し再試技。
- 三段跳において、同じくらいの距離の痕跡が2ケ所あったので両方計測した。ところが距離の長い方を入力し表示。その後、審判長から本人へ謝罪し記録訂正をした

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

②フィールド競技の計測・記録に関わるもの

・フィールド芝生への砲丸投。投てきした砲丸が落下後サークル側（手前に向かって）にバウンドし、砲丸自体が少し戻った所に止まった。

→審判員はそれに気が付かず計測。つまり実際の落下地点より短い距離を計測していた。

（競技終了後、関係者のビデオにより発覚）

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

②フィールド競技の計測・記録に関わるもの

・競技者が投てきした痕跡をファールと勘違いして落下担当が一度確認した地点のマークを抜いてしまい、分からなくなった。

→やり直し投てきをさせることとなり、審判長から一番最後に回すという指示。審判長はその後のラウンドも一番最後に回すと伝えた

→正規の順番に戻すように伝えたが、監督から一度選手に伝えたことを翻すなとクレーム。結局、3投まで一番最後としてしまった。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

②フィールド競技の計測・記録に関わるもの

・走高跳において、1M79をクリアしていないのに3回目にトライできなかった（1回目は無効、2回目は有効の判定で、次の高さに進んだ）。

→現場の審判に確認がなされたが、2回目はクリアしているとのこと。

→ライブ配信でチェックし、当該高さの2回目は無効試技であることが確認された。審判長から当該チーム監督に状況説明、謝罪を行い、1M79の3回目から再度競技をする旨の提案をした。

→当該チームは辞退。リザルトは1M79を「××(r)」として処理。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

②フィールド競技の計測・記録に関わるもの

⇒他業務との連携が、ダブルチェックとバックアップにつながっていることを改めて確認したい

- 記録の読み上げを主審を含め周囲の競技役員にも聞こえるように（復唱者も同様）
- 目の前のパソコン・タブレット画面または光波計測器表示板だけの情報でなく、主審の判定旗を確認したりする
- 広い視野で様々な情報を総合して判断することが必要。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

②フィールド競技（投てき物）に関わるもの

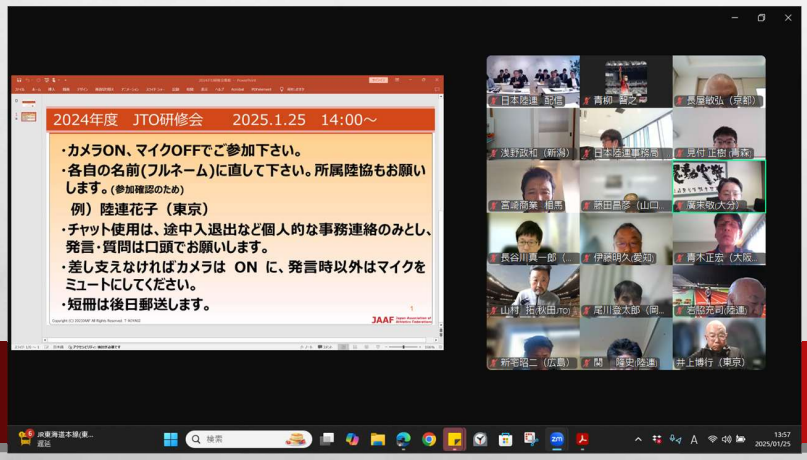
- 炭酸マグネシウムを路面にまき散らし、それが靴裏について助力行為ともなることから、使用方法について注意。終了後洗浄。
- 円盤に松ヤニ状のものが付着しその上に炭酸マグネシウムが付着し落ちにくくなっていた。決勝では使用した円盤の番号を控えてもらい、投てき後、チェックしてから戻すという対応…これにより違反物質の使用は認められなかった。

⇒校正・公平といった観点からも、適切な管理が求められます。

Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

3. JTO研修会の実施

JTOとしてのスキルアップを目指し、1月25日（土）にオンラインにて研修会を行った。



Copyright (C) 2025JAAF All Rights Reserved. T･AOYAGI

JAAF Japan Association of Athletics Federations

2025年度は
JTO制度20年目を迎えます。

よりよい競技会のために
ご協力のほど
よろしくお願いいたします。

2024年度
JTO
活動報告

日本陸上競技連盟
競技運営委員会

2024 年 6 月 1 日

技運営委員会副委員長　関根　春幸

ITO セミナー（報告）

参加セミナー：ITO セミナー

期間：2024 年 5 月 9 日（木）～5 月 13 日（月）

場所：タイ・バンコク

報告項目：

5 月 10 日～5 月 12 日

Mr Jorge Salcedo（WA Senior ITO）による講義
Session1
審判員としての心得、特に WA Referee Silver としての仕事・責務は何かについての講義
知識と経験があることはもちろん、競技会の中では経験したこのないことが起きる。それに対して適切な判断ができる高い集中力、素早い反応、競技者の要求の理解が求められ最終決断を迫られる。
CR からさまざまな競技役員の仕事内容などについて理解するための講義
Session2
TR の説明に移り、Bronze Referee の試験対策のような講義
TR4.4 の競技から除外する場合の例外事例などが説明された。
ユニホームや認められない助力、認められる助力など説明があった。
抗議対応など
Session3
トラック競技について
スタート、だれがどんなカードを使い、どんな判定をする
レース中の押し合い、レーン侵害の判断
フィニッシュの判定
次ラウンドの番組編成方法
風力測定
ハードル競技
リレー競走など
Session4
フィールド競技
試技時間
判定は、高さの競技では主審が無効試技でないと判断できた時、長さの競技では着地場所・サークル・助走路を正しく離れた時。
予選をする場合はできるだけ同じ時間帯、同じ場所で行うのが原則。
競技者の試技が妨げられた時や競技者の責任ではないことが起きた時、記録が正しく測定されなかった時など再試技が認められるが、順番は変えず、適当な時間を空けて、行うのが注意点。連続試技の時間も考慮に入れる。

順位の付け方などの練習。
Session5
フィールド競技（投てき種目）
道路競技
室内競技などの説明があった。
Session 6
TD セミナー
競技会の準備
TD としての役割の説明
心構えなど

令和 6 年 4 月 29 日
競技運営委員会
副委員長　関根　春幸

第 21 回アジア U20 陸上競技選手権大会派遣（報告）

大会名：21st　ASIAN U20 ATHLETICSCHAMPIONSHIPS 2024
開催地：UAE　DUBAI
開催期間：2024 年 4 月 24 日～27 日
担当：ITO　トラック審判長

DAY0
テクニカルミーティング
走高跳・棒高跳の最初の高さや上げ方の説明
ホットシート方式で欠場者が出た場合、次点、次次点の選手が繰り上がる可能性があること、準決勝は 2 時間前、決勝は 1 時間前とすることが提示された。

DAY1

競技の遅れが目立った。遅れても遅れの原因を確認しないまま進めてしまうので、どうにもならず、競技会の準備や招集を含め全体的な見直しを図り、時間通りの進行を心がけた。
800m は周回板と鐘が準備されていなかった。こちらで事前に確認しなかったミスもあるが、準備してほしいとリクエストしても「今、持ってくる」と答えるだけで、結局レースで使用することはできず、周回板と鐘なしでレースを行った。このことに関してインドから抗議が上がったが、その選手が決勝に進んでいることなどを考慮し、準備不足を謝罪した程度で収まりがついた。

午後のセッションでも 1500m が予定されていたため、すぐに周回板と鐘は持ってきてフィニッシュ付近に置いておくようお願いした。

午後のセッションでは 400mH が実施された。古いタイプのハードルでバーを上げ、重りを動かすタイプ。場内を一周し、ハードルを 1 台 1 台点検し、高さと重りの位置を確認し、レースを実施した。また縁石が内側のラインの上に置いてあるだけのものでまっすぐになっておらず、これに関しても場内を一周して点検。A ゾーン B ゾーンにはコーンを置くなどの準備をした。

1500m では周回記録の補助もおこなった。

DAY 1 では不正スタート 1 件。明らかな不正スタートだった。

DAY2

10000mW で周回記録補助

110mH、100mH で 400mH 同様、高さと重りの位置を確認した。

MIXED　4 ×400mR も実施され、テイクオーバーゾーンの位置やリレーに関するルールの説明を選手に行った。MIXED　RELAY は男女男女の順番で実施された。

午後は 3000mSC や 5000m、1500m も実施、それぞれトラックを点検したり、障害物の高さを確認したり、とにかくトラックを一周してすべての確認を行ってレース実施という形をとった。準備の確認後、周回記録の補助を行った。

3000mSC 男子で 1 名の選手が障害を跳べずに倒れこんで DNF となった。

また、5000m 男子では 1 週不足していたが、フィニッシュ付近で倒れこんだ選手がいた 1 周不足している伝えると「もう走れないとやめる」と答えたので、DNF と判断したが、その後立ち上がり 1 周した。TD と相談して、該当選手に状況を説明して DNF とすることを了承してもらった。

21st ASIAN U20 ATHLETICS CHAMPIONSHIP 2024
24TH – 27TH APRIL 2024,
DUBAI

START LIST

MEN U20 - 200m　25.04.2024　SEMI FINAL　09:55

Lane	BIB	First Name, LAST NAME	Born	Nation	PB	SB
AR:		Phuripol Boonson , THA 20.19				3Q + 2q
Heat 1		09:55				
1	278	Muhammad Sayyid Amin Bin ROSLAN	2007	MAS	22.30	22.30
2	147	Mrutyam Jayram DONDAPATI	2005	IND	21.59	21.59
3	355	Wirayut DAENKHANOB	2007	THA	21.43	21.43
4	104	Desheng MENG	2006	CHN	21.05	21.18
5	120	Magnus Prostur JOHANNSSON	2006	HKG	21.12	21.12
6	304	Khalid Hissein W ADOUM	2005	QAT	21.44	21.44
7	207	Popov DANIL	2005	KAZ	21.81	21.81
8	288	Al Mulham Said Al Abd Obaid AL SHEKILI	2005	OMA	22.68	22.68
Heat 2		10:02				
1	210	Teterin IVAN	2005	KAZ	22.01	22.01
2	265	Yaqoub ALAZEMI	2005	KUW	21.51	21.51
3	110	Qing HUA	2005	CHN	21.15	21.62
4	237	Bader Mubarak ALQAHTANI	2006	KSA	21.70	21.70
5	354	Sarawut NUANSI	2007	THA	21.18	21.18
6	280	Pengiran Aidil Auf Bin HAJAM	2005	MAS	21.36	21.36
7	118	King Wai YIP	2005	HKG	21.75	21.84
8	216	Egor POBEZHIMOV	2007	KGZ	22.43	22.43
HC	283	Ibrahim Naahil NIZAAR	2006	MDV	22.59	22.59
HC	266	Andrew DANNY	2005	LBN	21.87	21.87

* HC - Athletes will replace in the Semi Final, if any athletes from the Semi Final Withdraws

DAY3

10000m 男子競歩　1 名の選手が 4 枚目のレッドカードが出て、失格 TR54.7.5 による失格と判断した。

女子 200m 決勝で HS 利用（スタートリストには通常の番組編成と別に HS と表示されている）。3 レーンに配置されていた選手が棄権したため HS1 を繰り上げ、そのまま決勝に参加した。変更されたスタートリストが配布されなかったため、スタート前の紹介時に大型映像で確認、フィニッシュ時に目視で、アスリートビブスを再確認した。

200m 男子で Lane45 の 2 人の中国人選手が途中棄権した。本人たちは足に違和感があると申し出てきたため、けがによる棄権と判断し、DNF と判定した。後から意図的に棄権した

可能性もあると他の ITO からの指摘はあったが、何をもとに意図的と判断するかが話題とはなるものの決定的な証拠がないため、結局、DNF と判定した。
MIXED　RELAY　決勝、2 チームが失格、理由はテイクオーバーゾーンの外側からスタートしたため、TR24.7 を適用し、失格と判定した。自分の目の前で起きたことでもあったし、近くにいた複数の ITO で確認した事例でもあった。
DAY4

最終日、ようやく時間通りに進行できるようにあり、準備も普通に行われるようになった。ただ、ハードルや縁石の点検などは相変わらずそのたびに行わなければならなかった。

女子 4 ×100mR でインドチームが 2 走→3 走でオーバーゾーンした様子だった。監察員からの報告も ITO からの報告もなかったため、その場ではいったんレース成立と判断した。
その後 ITO からバトンパスがゾーン外で行われたこと、2 走が 3 走を追い越したことなどが報告された。表彰式はそのまま行われたが、ビデオで様子を確認して、精査することとした。その結果、確かにバトンパスがゾーン内では行われておらず、しかもゾーンをオーバーして 2 走が 3 走を追い越して、振り向きざまにバトンを渡す映像が確認できたため、3 位と発表されたインドチームは失格と判定をし直した。
ビデオでその場面を引き出すのに時間がかかったことまた、報告が遅れたことが判定を遅らせる原因になった。

以上

第108回日本陸上競技選手権大会 報告（全国競技運営責任者会議）

一般財団法人新潟陸上競技協会

1．大会についての概要

〇競技日程　2024年6月27日（木）～30日（日）

会　　場　デンカビッグスワンスタジアム（WA Class2）

パリオリンピック代表選考会として開催。また、U20も同時開催。

最終日にオープン競技として小学生・中学生のリレー、マスターズ、パラユニバーサルリレー、デフの種目を実施した。

〇パリオリンピック参加標準記録突破

男子2種目（110mH、400ｍH）　2名　　女子2種目（1500ｍ、100ｍH）　2名

〇大会記録　（日本選手権）

男子100m、400m、800m、3000m、400mH、　　女子100mH、400mH

〇大会記録　（U20 日本選手権）

男子110ｍＨと女子三段跳の2種目で日本記録が樹立された。

〇U20日本記録

男子 800m　落合 晃　（滋賀学園高）　1’45”82

〇観客数

１日目1,761人、2日目4,426人、3日目7,054人、4日目8,630人、 合計21,871人

〇サブイベント

小学校巡回しかけっこ教室の実施、スポーツ体験キャラバンの実施、

福島千里さんの特別支援学校訪問

2．競技運営等について

・ここ10年で3回目の新潟開催となったが競技役員には資料を配布し、共通理解と基本動作の徹底をお願いした。

・U20と同時開催のため、競技日程がかなりタイトであった。そのため、サブトラックではこれまでの開催では見られなかった混雑が見られた。また、待機場所についても場所取りが激しい状況であった。

・審判員の減少・高齢化に伴い、競技役員の確保及び配置に苦労した。新潟市近辺の大学陸上競技部が全面協力するなどして不足分を補うことができた。

・競技日程作成にあたり、スタジアム芝生管理との折衝が必要であった。投てき種目実施日について日本陸連、スタジアム、新潟陸協の三者協議が難航した。

・放送スケジュールに対応すべく競技の進行をコントロールする可能性があることを審判員には事前に周知していたが、競技者側のリズムもあり、要望にはすべて応えられなかった。

・アナウンスでは読み間違いが複数回あり、選手・関係者にご迷惑をおかけした。

・男子棒高跳では、選手・強化委員会から、着地点右脇に安全対策として補助マットを追加設置してほしい要望があり、走高跳マットを１つ設置した。

・写真撮影（スマートフォンを除く）はスタンド中段より後方（上段）での撮影を申請した観

客・チーム関係者に許可した。盗撮案件の報告はなかった。

・フィールド競技において、スタジアムの構造上録画した機器をスタンドから吊り下げ方法で渡すことは危険なため禁止とした。そのことによるトラブルはなかった。

・招集所入口手前に商標についての掲示とマスキングテープを置き、選手各自で招集前に商標を隠すようにした。招集では競技者係のチェックが不足部分についての対応のみとなり確認作業がスムーズにできた。

・持ち込みのやりについて、参加選手が1人2本持ち込んでも対応できるよう投てき物検査を前日から実施できるよう競技注意事項にも記載した。

・視察員が多数来場されていたが、競技役員をともに行うことができれば、意見交換を行うことができ、それぞれの向上にも役立つのではないかと考える。

・決勝において欠場者が出た場合に次点の競技者を繰り上げる方式を採用したが、実際に行うことはなかった。（男子400m決勝において、欠場届は提出されたものの、繰り上げを行う締切時刻よりも後に提出されたため、繰り上げは行われなかった。）

・その他、ＪＴＯの指導の下、大きなトラブルなく実施できた。

3. 抗議（質問）等について

・抗議は5件、うち2件上訴。

＊男子1500m 予選2組において転倒事案があり、当初、巻き込まれた選手を全員救済とし、原因を作った選手を失格と裁定した。失格とした選手側から抗議があり、最終的に上訴となり、上訴が認められて決勝進出となった。決勝はオープン参加のペースメーカー（オープン参加のペースメーカーは予選を通常に走り、他の競技者と同様の条件で決勝進出）を含め18名で実施となった。結果的に当初失格と裁定した選手が優勝した。

＊男子100m予選3組において、フィールド種目との重なりで場内がざわついている中でのスタートで不正スタートと判定された選手から抗議があった。「スタートのタイミングを考えてほしい」旨の抗議内容であったので失格裁定は変わらなかった。選手側からは「今後の競技運営全体にかかわるものとして上訴したい」とのことで上訴が行われた（裁定は変わらないため棄却）。この内容は全体で共有し再発防止を図った。

以上

令和７年２月 15 日

第 108 回日本陸上競技選手権大会・混成競技大会　報告

（一財）岐阜陸上競技協会

1　大会誘致の狙い

ア）トップアスリートの競争を県民に紹介

イ）トップアスリートと県内ジュニア選手との交流・交歓

ウ）競技運営力　審判技量の向上を図る

2　第１０８回大会の方針

ア）テーマ：「アスリートのアイデアを取り入れた新たな競技会・イベントを目指して」

イ）テーマの具現化のために

視点１「アスリートコラボレーター」の参加

中村明彦氏（所属スズキ）を「アスリートコラボレーター」として迎え、競技運営・広報活動に協力依頼

視点２　ルールにのっとりながらできうる限り、選手のパフォーマンス発揮のための意見、アイデアを競技運営に取り入れる

視点３　陸上および混成競技普及のために、地元小・中学生を対象とした事業を大会に組み入れる

ウ）事業

ア）　アスリート対策

・各種目優勝選手の表彰並びにインタビューの実施

・２種目目以降総合成績１位選手専用のビブス着用

・混成競技選手控室の整備（電子レンジ・湯沸かしポットの設置など）

・800m　1500m　トラック周囲（限定区域内）での応援を実施

・選手の人権擁護（盗撮防止・警察官による巡回指導の実施）

イ）　陸上　混成競技の普及

・小学校・中学校とトップアスリート交流事業（岐阜市内、各１校への訪問指導）

※トップアスリート　中村明彦（スズキ）氏

・中学校　小学校　招待リレー

・キッズチャレンジコーナーの設置

・スタジアムツアーの実施

※対象：小学生希望（生の競技開始直前の練習場面見学と競技運営のバックヤードともいえる情報室、写真判定室のなど競技役員の活動場面の見学）

・ボランティア活動

※・対象　小学生・中学生（選手へのドリンクサービス他）

エ）　大会広報活動

・岐阜市内小学校・中学校（69 校）に大会ポスター、大会案内リーフレットの配布

・新聞社２社（取材）

3　実施事業内容の報告

ア）日本混成競技・U20 混成競技大会 参加選手数

・男子十種　　18 名　　女子七種　　22 名

・U20 男子十種　13 名　　U20 女子七種　16 名

イ）普及事業参加者数

・中学生招待リレー　　男女　28 チーム　165 名

・小学生招待リレー（混合）　　32 チーム　181 名

・小学生交流教室　三里小学校　　6 年生　154 名

・中学生交流事業　東長良中学校　　2 年生　161 名

・スタジアムツアー（コンバインド体感会）　小学生　　38 名

・キッズチャレンジコーナー　　小学生　150 名　(2 日間)

4　総　評

ア）全体

①大会 2 日間にわたり少雨に見舞われたが、競技に大きく影響することはなく進行できた。会場来訪者も 2 日間で約 3000 人の盛り上がりを見せ事前事業も含め当初の計画を達成できた。特に、アスリートコラボレーターの導入は、選手、観衆・応援者、競技役員の連帯感を高め、円滑な事業展開に効果大であった。

イ）アスリート対策

①選手センタードをキーワードに選手の競技環境の整備に努めた。選手控室は雨天練習所に併設されたに更衣室を利用。控室に近接したトレーナールームの配置、電子レンジ・湯沸かしポットの設置など選手の活動しやすさを優先し、選手からも好評を得ることができた

②9 種目表彰を実施：各種目のトップ得点選手に表彰とインタビューを実施。選手全体のモチベーションの維持・向上を図った。副賞のミナモ（県のイメージキャラクター）が選手間で人気であった。

③大会２日間にわたり第一種目、走高跳、棒高跳の W-up 時間を確保するために、競技中であっても、メイン競技場のトラック、バックストレート、各ピットの利用時刻を提示して選手からの要望に対応した。

ウ）陸上　混成競技の普及

①小学校・中学校との交流陸上教室に参加した児童・生徒は、中村アスリートコラボレーターの機転のきいたトークとジョークを交えたトレーニング指導で楽しくでき好評であった。

②大会当日、競技と並行して進められたスタジアムツアー（コンバインド体感会・小学生 38 名参加）は好評であった。特に、普段競技会では目にすることのできない写真判定室，アナウンサー室、大型映像室などの施設の見学には興味深く説明に耳を傾けていた。また、競技面では、棒高跳のピット近くで選手の競技直前練習を見学した。中村コラボレーターの説明をききながら、バーの高さと選手の動きの迫力に思わず上がる歓声が印象的だった。次年度もスタジアムツアー（コンバインド体感会）はぜひとも実施したいと考えている。

③チャレンジキッズのコーナーも雨天に見舞われたが、2 日間で 150 名程参加があり盛況と

なった。思考を凝らした走・跳・投の特性に触れる測定に繰り返して挑戦する子供も多くみられた。陸上競技の普及活動として十分な成果であった。次年度も継続したい。

④小中学生を対象とした競技会におけるボランティア活動は、参加希望者が予定者より少なく競技終了後のドリンクサービスの一部しか実行できなかった。次年度の広報活動も含めた検討課題である。

エ）その他

①陸連担当者の途中交代があり引継ぎなど心配しました。運営上、確認作業を密にすることとなり予想より煩雑さが増した場面もあったが、結果的に円滑に大会スケジュールを消化することとなった。

②男女ともに競技時間の円滑な進行を目標に競技役員は努力をするが、棒高跳び、走高跳は試技に成功を続ける限り競技が続くこととなり、次の種目の開始の遅延を招き、競技運営上の課題となっている。この特徴を、混成競技の醍醐味の一つととらえるか、これがゆえに混成競技の人気に今一つ伸びが感じられないととらえるか、難しいところである。
そこで提案であるが、棒高跳、走高跳の試技数を限定してはどうか。競技時間の短縮、遅延防止、円滑な競技運営、選手にとってもコンディショニングがしやすくなるのではないだでしょうか。

最後に、岐阜では約 40 年ぶりに開催する日本陸上競技選手権大会・混成競技大会ということで懐かしさと緊張感を覚えながらの開催となりました。開催にあたり日本陸上競技連盟、アスリートコラボレーター、中村明彦氏（所属スズキ）、秋田陸上競技協会をはじめ多くの皆様にご協力ご支援をいただき大過なく競技運営にあたることができました。心より感謝申し上げ報告とさせていただきます。

令和６年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
秩父宮賜杯第 77 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会報告

一般財団法人福岡陸上競技協会
専務理事　青木　哲也

１　大会期日

令和６年７月 28 日（日）～ ８月１日（木）※５日間

２　会場

福岡市東平尾公園博多の森陸上競技場

３　はじめに

前回、昭和 49 年（1974 年）に久留米陸上競技場での開催からちょうど半世紀の期間を経て、福岡：博多の森陸上競技場におけるインターハイ実施となった。近年の博多の森陸上競技場でのトラック＆フィールドの大規模大会は、2019 年日本選手権以来である。大会開催に向け、福岡県実行委員会・福岡県高体連陸上競技専門部・福岡陸上競技協会の三者による準備・検討を重ね、大会を実施した。酷暑の大会運営を考慮に入れて計画し、競技・運営役員 595 人、補助員 747 人、実に 1342 人の過去最大規模となるスタッフにより実施した。

４　発生した問題点とその対処

監視カメラシステム計 15 台の活用もあり、上訴となった案件はゼロであった。公正・公平な競技運営のための最新テクノロジーの恩恵により、安心で安定した競技運営を行うことができた。抗議、問い合わせにも丁寧に対応することができた。

これらの他、対応が必要となった事例を以下、いくつかあげたい。

事例１：男子 400m準決勝３組

①事象　スタート動作の際、６レーンの選手がオートリコールによるフライング判定が出た。DQ（赤黒）とした後、再スタートとした。

②対応　レース成立後、監督より抗議があった。スタート審判長およびトラック審判長より説明。リアクションタイム（0.057）およびSIS の波形（圧がかかった後、完全に下がりきらないままスタートしている。）により、ツイッチ動作（いわゆる「ピクつき」）ではなく、一連の動作と判断し、失格とした旨を説明し上訴には至らなかった。

事例２：男子 100m 予選・準決勝及び七種競技 100ｍH

①事象　号砲前に SIS が反応する事象が相次いで発生。

②対応　原因を究明したところ、100m スタート付近のポンプ室のモーターによる電磁波の影響でノイズが発生していることが判明した。関連機器の位置を変えることで、誤作動は解消された。

事例３：女子 4×400mR 予選４組

①事象　待機中の走者が、ベンチの脚（筋交い部分）に脚を挟み負傷した。スタート直前であったため、スタートを保留。大会ドクターにより、当該選手の競技続行は不可能と診断された。

②対応　当該選手と控え選手を入れ替えることを許可し、最終８組の後に４組のレースを実施することを、全チームに確認しレースを行った。この際、担当部署から審判長、大会総務への連絡がある前に、４組を解散させることが発生し、時間を要するなど、対応の課題が残った。

事例４：女子棒高跳　決勝

①事象　B ピット３m50cm の１回目、当該試技順の選手をコールしたが、本人には届かず、別の場所で準備中であった。そこに、自分の試技と勘違いした次の試技順の選手が、急ぎピットに入り、試技を行ってしまった。バーが落ち、無効試技が表示されたところで競技者の取り違えに気づいた。

②対応　この２人のアップライトは偶然にも同じであったことから、本人達に状況を確認し、無効試技として扱うことを説明、了解した。その後、試技を飛ばした選手が跳躍した。（なお、後に２人は、この高さを成功した。）

事例５：男子円盤投げ　予選・決勝

①事象　男子円盤投予選において、円盤の一つに、松ヤニ状の物質が付着していることが判明。
②対応　その後、新たに審判員を配置し、すべての競技者の使用した円盤の番号を控える、また、投てき後に円盤をチェックすることとした。以後、違反・不正はなかった。

事例６：男子八種競技

①事象　やり投及び走高跳の終了時刻が予定より下がったため、最終種目 1500ｍのスタート時刻が 21 時を過ぎた。競技終了後のフォトセッション等を含め、選手の退場・競技場閉門は 22 時頃となった。
②対応及び原因　高体連の申し合わせにより、走高跳の２ピットの番組編成を持ち記録が均等になるように編成した。1m45 から 1m95 まで試技が続いたことで、タイムテーブルに大幅な遅れが出た。時間変更については選手等に説明、公式練習やW-ｕｐの時間を確保した上で、各競技を実施した。

５　大会の円滑な運営のための工夫・方策

・大会を前に、前年度に「アナウンサー研修会」を開催し、担当者でその重要性を再認識した。
・表彰とマーシャルに関しては、日本陸連 JTO より複数回にわたり指導助言を受け、流れや事案の対応の確認をした。
・全県体制を作るために、本年度に入ってから、集合型主任者会議とオンライン会議の併用により、２～３週に一度打ち合わせを実施した。
・実際の機器やセッティングが整うのは、大会前日、前々日であった。役員・補助員・機器のそろった状態での総合リハーサルをその時期で実施した。特に、招集―選手誘導―出発－アナウンス―大型映像―マーシャル（ミックスゾーンへの誘導）―表彰、に至る連携確認を重視した。一部選手の前日練習等に迷惑をかけた部分もあるが、よいリハーサルとなった。（選手にとっても大会のイメージを持たせる機会になった。）
・県実行委員会、県高体連、県陸協、開催自治体各者の意思疎通が十分でなかった部分もあり、開催条件（費用分担や備品の準備等）や役割分担などについては、開催決定前あるいは直後に協定書などを締結し、明確化しておく必要があった。

６　おわりに（酷暑にいかに対応するか）

今年の福岡インターハイは、台風や雨、雷に見舞われることなく大会期間中は晴天に恵まれた。その一方、気温は連日 35℃を超える猛暑下での大会となった。そこで、熱中症対策として、長距離種目では第２コーナー付近で散水をしたり、フィニッシュ地点に簡易プール（**写真**）を設置してアイシング可能にしたりした。また、スタンド裏通路を含めて３ヶ所には、競技者、応援者が活用可能なクーリングテントの設置を、さらに審判員・補助員には休息用の大型バスを配置するなどの対策を施した。しかしながら、長距離・競歩種目では、レース後の熱中症様症状により体調不良を訴える選手が複数出たり、観客が救急搬送されたりする事例も見られた。

全国規模のレベルの大会を実施する上で、競技運営面での努力や工夫は当然のこととして、近年の気温上昇に伴う暑さ対策（日程やタイムテーブルの見直し、物理的な給水・冷却装置の準備、救急体制の充実等）にも、相当な配慮が必要であることを改めて感じている。

ともあれ、男・女約 3,500 名の選手を博多の地に迎え、本大会を実施できたこと、加えて男子 800m での日本記録、男子 110mH、走高跳、ハンマー投での日本高校記録、さらには男子 100m、200m、八種競技、400mH、女子 800m、棒高跳での大会（タイ）記録と、好記録が続出したことを関係者一同喜んでいる。これは何よりも選手の努力と熱闘の賜物であるが、役員・補助員・来場者・関係者によるご支援のおかげでもある。福岡陸協として感謝申し上げます。

2024 年度　全国競技運営責任者会議における報告

2025 年 2 月 15 日

（一財）福井陸上競技協会　中体連担当　石井　輝
（2024 全中大会事務局長）

１．大会名

第 51 回全日本中学校陸上競技選手権大会

２．主な内容

（1）大会前の準備について

○　日本中体連、日本陸連と連絡を取り合うことで、滞りなく準備を進めることができた。中央連絡会はオンラインでも可能だったが、対面で開催することで疑問点も聞きやすく、それ以降の意思疎通もとりやすかったため、対面が望ましいと感じた。

○　3 年ほど前から福井陸協に全中開催のお願いを行っていた。大会の度に、審判の方々にお話しする機会をいただいたことで、それぞれの審判部署で「全中に向けて何が必要か」を考えてくださっていた。

○　運動公園事務所や近隣施設と事前に何度も打合せを行った。陸上競技場だけでなく、野球場や体育館、テニスコートなど多くの施設を陸上の大会や準備のために貸していただいた。また、駐車場の数が少ないことから、小中学校や高等学校の駐車場、公民館や図書館の駐車場などを貸していただいた。事前の調整が大変大事だと感じた。

○　昨年に引き続き、日本陸連のエントリーシステムを利用して申込を行った。今年からリザルトの提出を不要としたため、資格記録に修正がある場合の確認に手間取った。申込の際に資格記録が反映される期間を当年度の４月１日～７月末までに設定することが出来るのであれば、ほぼ解決できると感じた。

（２）大会期間中について（問題点とその解決方法等、今度の課題）

【日程等について】

○　3.5 日開催ではあるが、前日準備（公開練習）を含めると役員は結局５日間働くことになる。前日練習では、駐車場や競技場の AD 規制を行わないなど簡素化できると役員は４日間の出動で済む。練習場の安全確保ができれば、簡素化できるところは簡素化しても良いと感じた。

○　男子砲丸投をはじめ、参加人数が非常に多く、日程がかなりタイトであった。来年度は標準記録が上がるために解決されると思われるが、砲丸投も同条件２ピット運営ができるのであれば臨機応変な対応が出来る。トラック種目については、開始時間を早めることで対応した。大きな混乱はなかったが、公開練習の時間を変更するなどの対応が必要になった。

○　男子 3000m が今年も夕方から夜にかけての競技になった。熱中症対策としては適切だが、中学生が 19 時前後に競技をするのが良いのかと賛否両論ある。しかしながら、健康のリスクを考慮した今の時間がベストだと考える。

【競技運営について】

○　開閉会式や表彰を競技場内で行わない形にする事で、競技運営への影響が最小限に抑えられた。

○　報道カメラマンの中には、日本選手権等大きな大会での撮影を経験されてこられた方もおり、それらの大会と比較し、撮影可能エリアについて意見を述べられる方々がいた。今回は、報道関係者同士のトラブルが一件あり、最終的に専務理事や日本中体連部長の先生方にも入っていただき、解決をした事案があった。「安全面の確保・公正公平な競技運営のもと生徒が十分に力を発揮できるよう配慮した撮影エリア設定」であり、「本大会でのルール」に協力していただきたい。

○　アスリートファーストの観点から、男女 1500ｍ、男子 3000ｍを除く全てのトラック

レースで、TR→決勝の順で実施した。救済措置で TR に出場したチームを決勝８チームに含めて順位付けを行うことがあったが、同じ時間帯にできたために違和感がなかった。また、会場に８レーンしかないために、救済選手１人だけのレースを TR と決勝の間に行ったが、温かい声援の中レースができた。観客に感謝したい。

○　商標について、１日目の男女８００ｍでタイツ（インナー含む）に規定より大きな商標があった。テープ等で隠すことができず、そのまま競技を行った。観戦者から指摘があり、男女１５００ｍ以降の競技では大きめの白ガムテープで隠した。

○　走高跳・棒高跳で、待ち時間の練習のためにフィールド内やバックストレート（周回競技がない時間帯のみ）などを、場所を区切って開放した。選手が力を発揮するために有効であった。

○　女子四種競技の走高跳において、リレーとの２種目同時出場届の申請があった選手が、リレーの招集に行ったために試技できなかったことへの対応確認があった。招集所に行かずに競技を続行させるなどの配慮があっても良かったのではないかと思うが、事前に各部署への周知が必要である。

○　盗撮対策はしっかりされていた。通常大会から警察と連携している成果であった。

○　中央通路よりも前で傘をさすことを禁止するといった決め事が本当に必要か疑問であった。車椅子エリアもあり、炎天下や雨の場合に本当に禁止にできるだろうか。

○　投てきアップ場では、仮設サークル２つと移動式サークル２つを設置した。昨年よりも回転投げの選手が多く、費用はかかったが仮設サークルを準備しておいて良かった。競技場も回転投げ対応のため、芝ピットで行った。今後も増えていくことを考えると、砲丸がそれた場合の対応を十分に考えておく必要がある。

○　当日の記録張り出し（紙媒体）は今大会も行わなかった。福井陸上競技協会にお願いをしてネット上に速報を掲載することで対応した。速報サイトを利用するのであれば、サーバーの容量は多い方がよい。

【その他】

○　シャトルバス利用者が想定より少なく、規定人数以下で運行するバスが多かった。バス車両の確保、価格設定や発着時間設定が非常に大変である。宿泊施設がある程度まとまっている場合は良いが、福井の場合はかなり広域にまたがっていた。どこまで運営側がおもてなしをするのかを考えていく必要がある。

○　会場の駐車場が朝からいっぱいになり、その対応に一番苦労した。臨時駐車場を確保し案内した。会場までの公共交通機関が少ないこともあるが、一般駐車場の台数が 800 台程度だと対応できない。

○　ＳＮＳ等で人気の選手や好記録を出して注目度が高い選手が今後も出場してくることが考えられる。今回は、そのような選手が表彰を受ける時に、その周辺が非常に混雑した。選手の安全を確保するために、該当県や該当チームの了承を得て、別の出入口から退場させるなどの対応をした。退場後も、写真撮影やサインなどを求め、多くの観客に取り囲まれていた。選手本人が望んでいる場合もあるが、安全確保や運営のことを考え、今後も気を配っていく必要はあると感じた。

３．終わりに

本県にとって、全日中開催は初めてのことであったが、様々な方のご協力をいただくことで、無事終えることができた。開催にあたり尽力いただいた全ての方に感謝申し上げたい。この１０年の間に福井では、全日本インカレ、国体、インターハイと全国規模の大会を開催してきた。その経験が十分に生かされた大会だったと感じる。大会運営に係る労力は甚大ではあるが、その年代のトップ選手の活躍を間近に見ることができるのは、県内選手だけでなく指導者にとっても大変有意義であると感じる。費用、安全、働き方、部活動地域展開など、課題は山積しているが、少しでも次年度以降の開催県の負担が減るように、経験をつないでいきたい。

ＳＡＧＡ２０２４　国民スポーツ大会　報告書

（一財）佐賀陸上競技協会
審判委員長　田中　修司

１．期　　日　　２０２４年１０月１１日（金）～１５日（火）
２．会　　場　　ＳＡＧＡスタジアム
３．実施種目　　男子２８種目　女子２７種目　男女混合１種目　計５６種目
４．新 記 録　　日本新記録２　Ｕ２０日本新記録３　Ｕ１８日本新記録３　大会新記録２７
５．審判員数　　１日目（３０５名）２日目（３４１名）３日目（３２３名）
　　４日目（３２３名）５日目（２５９名）

６．抗議事例等

①男子４×１００mR 予選
FS で失格となったチームから理由を聞かせてほしいと抗議。
スタート審判長がリアクションタイム、波形を見せながら説明するが納得せず、上訴となる。
（ジュリー　→　審判長の裁定を支持）

②少年男子Ｂ３０００ｍ予選
選手Ａが転倒し、曲走路の内側を転がった後、そのままトラックに戻ったため、失格となった。
他の選手に押されて転倒したので救済してほしいと抗議。トラック審判長がビデオ確認の結果、
転倒の原因は他の選手によるものでは無いと伝えるが、上訴となる。
（ジュリー　→　審判長の裁定を支持）

③男子４×１００mR 予選
５レーンのチームがバトンパスの際、４レーンのチームが外側に膨らんだため、不利益を
被ったと抗議。トラック審判長がビデオ確認後、問題なしと説明し納得。

④成年男子三段跳決勝
チームより踏切判定について抗議。審判長の説明とともに踏切の画像を見てもらい納得。

⑤成年少年男女混合４×４００ｍＲ予選
Ａ県が３走から４走へのバトンパス直後、バトンパスを終えたＢ県の３走の選手と接触した。
妨害ではないかと抗議。審判長の説明で納得。

⑥少年男子Ａ３００ｍH決勝
８レーンの選手が８台目（最終ハードル）を越える際、隣の９レーンのハードルも倒し、後
から来た９レーンの選手が８台目を跳べずにゴールした。
８レーンの選手を妨害で失格。９レーンの選手を救済、再レースも考えたが、着順を認め、
記録は認めない形で確定した。
（そのレースに出場した全ての県の監督・コーチを集め説明し、結果発表とした。抗議等なし。）

７．競技運営等

①今大会から紙ベースでのプログラム配布はしないということが周知されていたが、各県の監督
に伝わっていなかった県もあり、監督会議の際、若干混乱した場面もあった。実際、競技運営
を行う中でも「プログラムがあれば」という場面が多々あった。私たちもペーパーレスに慣れ
ていく必要があるかもしれないが、何かを確認する際は冊子のほうが便利であると感じた。
（総務には最低１冊、印刷したものを置いておくべきだったと反省している。）

②皇族のお成りが、３日間あることは聞いていたが、スタンド、通路等の警備による規制につい
ては、事前情報が全く無く、競技運営において大きな混乱を招くこととなった。

③皇室のお成りに伴う警備関係の規制が競技開始前より行われ、メインスタンド中央付近が立ち入り禁止となり、予定していたコーチングエリアを使用できなくなった。警察と交渉し、何とかコーチングエリアは狭いながらも確保することができた。しかし、１４時以降は入ることができないと言うことで、少年女子三段跳では、急遽跳躍ピット前のダッグアウトに各県コーチ１名に限り入場を許可した。(競技終了後、監督・コーチからお礼を言われる場面や、視察員から「いいアイデアですね」などの言葉があったが、あくまでも特別措置ということでとらえて頂きたい。)
※成年女子走幅跳決勝でも同様の措置を取った。

④高速道路の事故による渋滞のため、福岡からのシャトルバスの到着が大幅に遅れ、競技時刻に間に合わないかもしれないとの連絡が入った。最悪競技開始時刻を遅らせることも考えたが、何とか招集時刻までに到着することができた。しかし、ウォーミングアップが出来ておらず、特例としてアップ終了次第、現地に誘導する措置を取った。(公式練習に間に合うことができた。)

８．おわりに

本県にとって、平成１９年の全国高校総体以来、１７年ぶりの全国規模の大会で、審判員の半数近くが初めての全国大会であった。不安と緊張の中での５日間であったが、天候にも恵まれ、多くの新記録が誕生した。

競技運営についても緊張のせいか普段できていたものが出来ていないような場面もあったが、ＪＴＯの指導等もあり、日を追うごとにミスが減って、よりスムーズな運営ができたと思う。特に、若い審判員の成長を実感することができた。国スポを通して確実に審判員のスキルアップができたように感じる。この経験が今後の大会運営に繋がることを期待したい。

日本陸連の派遣役員の皆様をはじめ、多くの皆様からのご指導、ご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

ＪＯＣジュニアオリンピックカップ
第 18 回 U18／第 55 回 U16 陸上競技大会　報告書

（一財）三重陸上競技協会
競技委員長　藤原康喬

1.期 日　2024 年 10 月 18 日(金)～10 月 20 日(日)

2.場 所　三重交通 G スポーツの杜伊勢陸上競技場

3.種 目

U16 男子(5 種目)　100m、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投

U16 女子(5 種目)　100m、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投

U16 男子都道府県代表枠(6 種目)　150m、1000m、110mH、三段跳、円盤投、ジャベリックスロー

U16 女子都道府県代表枠(6 種目)　150m、1000m、100mH、三段跳、円盤投、ジャベリックスロー

U18 男子(15 種目)　100m、300m、800m、3000m、110mH、300mH、3000mW、走高跳、棒高跳
走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

U18 女子(15 種目)　100m、300m、800m、1500m、100mH、3000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳
三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

4.大会概要

今年度が三重県 3 ヶ年開催の 1 年目にあたる年であり、開催に向けて日本陸連や関係機関と連絡を取りながら、大会開催までの準備を進めた。大会では、U16 男子 3 種目・女子 8 種目、 U18 男子 5 種目、女子 2 種目の大会新・大会タイ記録が記録された。大会初日、投擲種目の一部で競技進行が遅れた事については、選手・指導者をはじめ皆様にご迷惑をおかけ致しました。次回大会においては、同じことが起きないように運営していきたいと思います。

5.競技運営等について

○トラック

① フライングによる失格は、U16 男女各 1 件、U18 女 1 件の合計 3 件であった。
② U16 男子 150ｍＢ決勝で内側ﾗｲﾝ上またはその内側を走った 2 名を VR により失格とした。
③ ゴールタイマーをレンタルでグレードアップしたが、大型映像とのタイマーが上手く接続できず、表示できなかったのが残念。来年度は必ず改善したい。
④ U16 男女の 1000m は 1 組 16 名のグループスタートで行ったが、選手の転倒が複数あった。来年度実施するのであれば、1 組の人数を再考したい。

○フィールド

① 今大会よりフィールド種目の試技数を［3＋3］、走幅跳・三段跳・投擲種目は 45 秒、走高跳・棒高跳は 60 秒で実施した。

② U18/16 男女の棒高跳、U18/16 男走幅跳、U16 走幅跳、U16/18 男女三段跳、U18/16 男女の砲丸投これらの種目については、2 ピットで行った。
③ 走高跳は公式練習を回数ではなく時間で区切った。選手にとっては好評で競技開始まで効率よく練習ができ、また普及していけば朝一でメインピットでの跳躍練習やサブトラックでの跳躍練習をする必要もなくなるので今後も継続したい。
④ バー競技のバーの上げ方を例えば、最初の高さから 3 段階ぐらいまでの間に半数以下になるように高さセッティングを見直したい。
⑤ 来年度も投擲練習場として使用する多目的グラウンドを駐車場利用する関係上、1 日目に U18/16 男女の砲丸投と U18 男女ハンマー投を実施したい。
⑥ 1 日目の U18 男女 300H と円盤投げのスタートが 10：00 で重なり、円盤が思うように進まなかったので、次年度は改善したい。

〇その他
① スタート前の選手紹介のカメラやライブ配信等すべて三重陸協のみで行った。
② ＬＥＤ表示板を駆使し、迅速・的確な記録処理・表示を行うことができた。
③ フィールド種目が一つだけ遅くまで残った場合、表彰台を現地まで運び、現地で表彰という日本陸連担当者のアイデアが良かった。

6.抗議（質問）等について
① U18 男子 110ｍＨで、他のレーンのハードルが転倒によりレースに影響したと抗議があったが、説明して納得して頂き、上訴はなし。
② U18 女子円盤投で痕跡の位置が違うと抗議があったが、説明して納得して頂き、上訴はなし。

7.終わりに
大会初日、投擲種目の一部で競技進行が遅れた事では、選手・指導者をはじめ皆様にご迷惑をおかけ致しまして申し訳ありませんでした。2 日目以降、タイムテーブル通り進めた中で、大きなトラブルなく各区部署臨機応変に対応しながら、競技運営できたのではないかと思っております。来年度は、2 年目の競技運営となります。日本陸連や関係機関としっかりと連絡を取り合いながら、1 年目のミスや反省をしっかりと活かして、良い競技運営にして参りたいと思います。

セーフガーディングに関する e-ラーニング受講のお願い

D&I の推進

JAAF ビジョン 2017 で掲げたミッションの一つである「～ウェルネス陸上の実現～すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくる」を実現するために、現在日本陸連では D&I（ダイバーシティー・インクルージョン）を推進しています。この環境の実現のためには、大前提として陸上競技に関わる全員が、お互いの人権を常に意識・尊重すること（セーフガーディング）が必要です。

国からの要請

現在国はスポーツ団体に対して、スポーツ団体ガバナンスコードを策定し、その内容を遵守することを求めています。その中の原則 3 において「原則3　暴力行為の根絶等に向けたコンプライアンス意識の徹底を図るべきである。（1）役職員に対し，コンプライアンス教育を実施すること，又はコンプライアンスに関する研修等への参加を促すこと、（2）指導者，競技者等に対し，コンプライアンス教育を実施すること，又はコンプライアンスに関する研修等への参加を促すこと」と定め、コンプライアンスに関する関係者の教育・啓発を求めています。

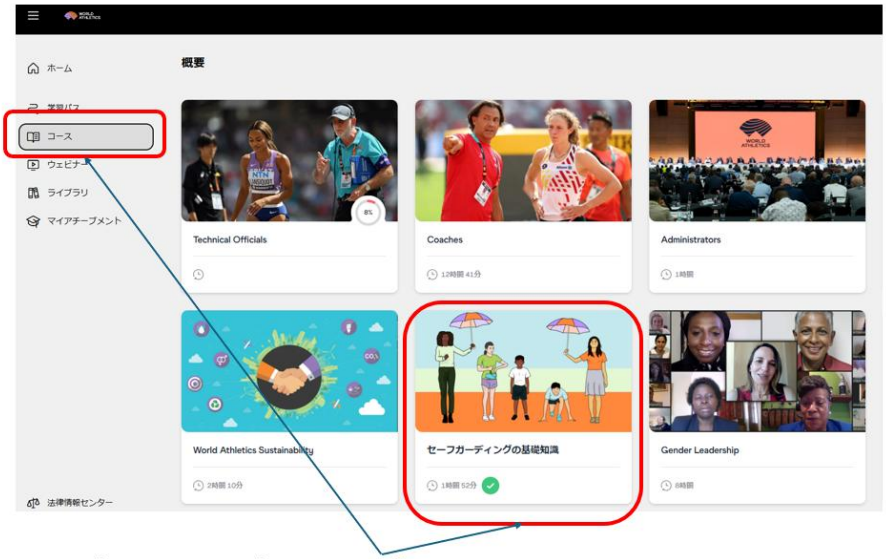
世界陸連（WA）からの要請

そういった人権意識の高まりは国際的な動きです。WA も積極的に D&I を推進しており、セーフガーディングに関する e-ラーニングを日本語で提供しています。そこで日本陸連では WA が提供する e-ラーニングの受講を推進することにしました。

受講方法

① WA システムにユーザー登録する
https://elearning.worldathletics.org/access/login にアクセスし、「アカウントを作成する」からユーザー登録してください。

② WA システムにログインし受講する
再度上記の URL にアクセスしログインしてください。
左メニューの「コース」から「セーフガーディングの基礎知識」を選択



「コース」から「セーフガーディングの基礎知識」を選択

安全・安心 information

～アスリートが安心して競技に取組める環境づくりを目指して～

1）迷惑撮影対策

2）リレー／駅伝のユニフォームのルール（選択制ユニフォーム）

3）ロードレースにおける助力の認識

陸上安全ナビサイトのご案内

1．迷惑撮影対策

引き続きのお願い事項

会場整備・啓発活動の徹底
- 会場内への注意喚起ポスターの掲示
- 大型ビジョンおよび会場アナウンスでの呼びかけ
- 大会プログラムへの注意喚起広告の掲載
- スタッフ／審判による会場巡回
（特に、女子短距離種目、跳躍種目）
- トイレへの啓発ポスター・チラシ掲示

競技運営面の工夫
- 表彰式での所属ウェアやTシャツ着用の推進
- レース後の速やかな誘導と、安全な導線の確保
（荷物運搬が無い場合、レース後にユニフォーム姿のまま歩いても安全な導線の確保）

地域管轄警察署との連携
- 開催期間中の定期的な会場巡回
- 警察署名の入った盗撮禁止看板の制作

陸連主催大会での取り組み例

▶1階層通路下での撮影禁止
（スマホ・タブレットのみ可）
- GGP／日本選手権での取り組み例
- 完全撮影NGとしないことでファンと共存する形をとっている
- 選手至近距離での撮影をなくすことで、心理的負担を軽減

▶100mスタート後方の撮影禁止エリア設定

▶通報フォーム（QRコード）設置

▶アスリート委員会との取り組み
（リボン活動）

2．リレー／駅伝のユニフォームのルール
（選択制ユニフォーム）

【背景】

○近年、迷惑撮影（盗撮）の問題が拡大しており、**選手自身が自らの身を守る意識を持っている**。
○自身の身を守る観点から、**「ユニフォームの形式（セパレート・ブルマ・スパッツなど）を選択したい」と考えている選手が一定数いる**ことが、アンケート回答等から判明した。
→「リレー種目に出場の際には、学校・チーム単位で形式を揃える必要がある」と思い、**仕方なく望んでいないユニフォームを着用しているケースがあった**。

国体 女子リレー種目における
ユニフォーム着用割合の変化（2019年→2022年）

○4選手ともブルマタイプ　94%　→　**64%**
○4選手ともスパッツタイプ　6%　→　**18% UP!**
○選手により選択　0%　→　**18% UP!**
※陸連調査のため誤差あり

△選手により、異なるタイプのユニフォームを選択している例

【競技規則】

◆ルールブック ― TR.5 服装、競技用靴、アスリートビブス
5.1 全国的な競技会でのリレー競走においては、
チームの出場者は同一のユニフォームを着用する

◆ハンドブック ― 競技者係 実施要領 ③留意点（5）服装
全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者はランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する。（短パン・スパッツの違い等は許容範囲）

▶ **同じチームであることが分かれば、ユニフォームの形式は問いません。**
（ブルマの選手、スパッツの選手、セパレートの選手、ランニングシャツの選手が混在していても、**デザインや配色が同一であれば、ルール上は問題ありません**）※駅伝も同様

陸連 NEWS

3．助力について（ロードレース）

【背景】

特に駅伝競走において、レース中の負傷（疲労骨折や捻挫など）や疾病（低体温・低血糖など）により、通常歩行が困難な状況の中で、競技を継続し危険な場面が生まれている。

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

・転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常歩行や競技続行が困難となり、
立ち止まりや横臥等の行動を行う競技者に対して、**審判員や公式の医療スタッフが声掛けを行うことは、助力とは見なさない。**

・本人がなお競技続行の意思を持っていても、競技者の生命・身体保護の観点から
審判長もしくは医師の判断で競技を中止させることができる。

・審判員や公式の医療スタッフが**一時的に介護するために競技者の身体の一部に触れることは、助力とは見なさない。**

・**審判長の権限を技術総務、競走審判員、監察員等に委任しておく**必要がある。

▶ 競技規則を再確認のうえ、**競技注意事項や申し合わせ事項での周知**、および**監督会議等でのご説明**をお願いいたします。

▶ **医療体制・緊急時の連絡系統の確認**および**審判会議等での周知徹底**に、ご協力をお願いいたします。

▶ 医師を含む医務員を複数名任命し、**緊急医療体制（AED配置を含む）を整備**の上、競技会の開催をお願いいたします。

陸連 NEWS

陸連HP「陸上安全ナビ」サイト

～すべてのアスリートが安心して競技に取り組める環境を目指して～

2024年度OPENした
【安全・安心】に関する情報ページ

陸上・スポーツは、人々に勇気や感動を届ける力を持ちます。
陸上・スポーツは、人々のライフスタイルをアクティブにする力を持ちます。
アスリートが、前向きに競技に取組み、社会で輝き続けるために。
すべての人が、すべてのライフステージにおいてスポーツを楽しめるように。
安心安全な基盤づくり・環境づくりを目指して、アスレティックファミリーが手と手を取り合い、
明るい未来に向かってバトンをつなぎ続けます。

相談窓口

- 暴力相談窓口
- インターネット上の違法・有害情報
- メディカル質問箱
- 指導者質問箱

PICK UP

助力に関する競技規則の再確認

選手、関係者への誹謗中傷に関して

安全対策ガイドブック

練習環境大会運営 | 熱中症 | NEW 送迎撮影 誹謗中傷 | ハラスメント | NEW アンチドーピング | NEW 鉄剤注射（貧血） | NEW 女性三主徴（女性アスリート） | NEW エネルギー食事

- 陸上競技安全ガイド（YouTube） 重要
- 安全対策ガイドブック（PDF） 重要
- 事故を防ぐ3つのポイント（PDF） 重要
- 練習計画の立て方（指導者向け/PDF）
- 陸上競技部活動の安全管理（指導者向け/PDF）
- その不調、オーバートレーニング症候群かもしれません（PDF）
- 駅伝・マラソンの安全安心な大会運営についてのお願い～助力に関する競技規則の再確認～（NEWS）
- 小学生の長距離・持久走についてのガイドライン（指導者向け/PDF）
- 市民マラソン・ロードレース 運営ガイドライン（PDF）
- 市民マラソン・ロードレース申込み時健康チェックリスト（PDF）
- マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条（PDF）